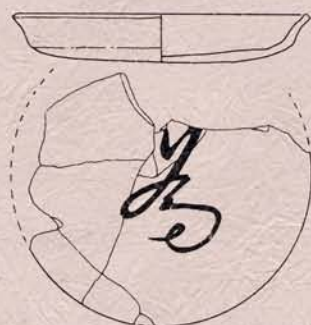


近畿自動車道（久居～勢和）

埋蔵文化財発掘調査報告

—— 第3分冊 2 ——

堀之内遺跡A・B地区



1991. 3

三重県教育委員会
三重県埋蔵文化財センター



A地区第2次調査発掘区全景（南から）



墨書土器「為」（A地区・172）



緑釉陶器皿（上：A地区234,下：B地区77）



墨書土器「馬」（B地区・58）



緑釉陶器小碗（B地区・76）

例 言

1. 本書は平成2年度に三重県教育委員会が、日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した近畿自動車道関・伊勢線第8次区間（久居～勢和）建設予定地内にかかる埋蔵文化財発掘調査（整理・報告書作成業務）のうち、堀之内遺跡A・B地区の発掘調査報告書（第3分冊の2）である。
2. 調査にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。
3. 調査（整理・報告書作成）体制は下記のとおりである。
 - ・調査主体 三重県教育委員会
 - ・調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第2課第1係
次長兼調査第2課長 山澤義貴
主査 新田 洋・主事 河北秀実
主事 増田安生・主事 齋藤直樹
技師 大川勝宏・主事 伊藤裕偉
主事 角谷泰弘（伊勢市教育委員会から派遣）
主事 稲本賢治（多気町教育委員会から派遣）
主事 前川嘉宏（玉城町教育委員会から派遣）
管理指導課 主事 小坂宜広・主事 江尻 健
川崎正幸（臨時調査員）・反町瑩子・采野妙子・谷久保美知代・吉村道子
山分孝子・白石みよ子・乾ひとみ・竹内由美・上村かおり・中山学・反町
有子（室内整理員）
森田幸伸（皇學館大学学生）・近藤大典（皇學館大学学生）
4. 本書作成にかかる各整理は上記体制で行い、報文の執筆分担については目次、及び各文末にも明記した。
なお、遺物整理、報文執筆にあたっては、下記の方々からご指導・ご助言を賜った。記して謝意を表する。
（順不同、敬称略）
植野浩三（奈良大学助手）
後藤建一（静岡県湖西市教育委員会社会教育課）
磯部 克（三重県立津西高等学校教諭）
5. 本書掲載遺跡については既に刊行の『近畿自動車道（久居～勢和間）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』（三重県教育委員会・1988.3）にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告書とする。
6. 本書に収録した各遺跡の記録類、出土遺物は三重県埋蔵文化財センターで保管している。
7. 本書に使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。また遺構実測図作成にあたっては国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。

S B	竖穴住居、掘立柱建物	S E	井戸
S D	溝	S K	土坑
		S F	焼土
8. スキャニングによるデータ取り込みのため、若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

目 次

例 言

目 次

图版目次

插图目次

表 目 次

I. 前 言·····	(河北秀实) ··· 1
II. A地区·····	(河北秀实) ··· 7
III. B地区·····	(河北秀实) ···53

図 版 目 次

A 地区

P L 1	調査前風景	33
	第2次調査発掘区全景	33
P L 2	第2次調査南半部	34
	第1次調査Bトレンチ全景	34
P L 3	第1次調査Cトレンチ全景	35
	S B 18	35
P L 4	S B 21	36
	S F 23	36
P L 5	S F 29	37
	S F 29	37
P L 6	S B 2	38
	S B 4・3	38
P L 7	S B 12	39
	S B 14・12, S D 11・S K 16	39
P L 8	S B 19	40
	S B 22	40
P L 9	S B 28	41
	S B 7	41
P L 10	S B 10・S K 13	42
	S B 17・19	42
P L 11	S E 8	43
	S E 8 石積み状況	43

P L 12	S E 8 断ち割り状況	44
	S K 6	44
P L 13	出土遺物	45
P L 14	出土遺物	46
P L 15	出土遺物	47
P L 16	出土遺物	48
P L 17	出土遺物	49
P L 18	出土遺物	50
P L 19	出土遺物	51
P L 20	出土遺物	52

B 地区

P L 1	調査前風景	64
	発掘区全景	64
P L 2	発掘区北半部	65
	S D 1 遺物出土状況	65
P L 3	S D 4・3・2	66
	S D 5・7・4・3	66
P L 4	S D 8・5・7・3	67
	S D 11・10	67
P L 5	出土遺物	68
P L 6	出土遺物	69
P L 7	出土遺物	70

挿 図 目 次

前 言

第1図	遺跡位置図	3
第2図	本書所収遺跡位置図	6

A 地区

第3図	遺跡地形および発掘区位置図	7
第4図	発掘区地区割図	8
第5図	遺構配置図	8
第6図	発掘区土層断面図	9
第7図	遺構平面図	11~12
第8図	遺構実測図	13
第9図	遺構実測図	14
第10図	遺構実測図	15
第11図	遺構実測図	16
第12図	出土遺物実測図	19

第13図	出土遺物実測図	21
第14図	出土遺物実測図	23
第15図	出土遺物実測図	25
第16図	出土遺物実測図	27
第17図	出土遺物実測図	29
第18図	出土遺物実測図	31

B 地区

第19図	発掘区地区割および遺構配置図	53
第20図	発掘区北壁・西壁土層断面図	54
第21図	遺構実測図	55
第22図	検出された溝の方位	57
第23図	出土遺物実測図	59
第24図	出土遺物実測図	61
第25図	出土遺物実測図	63

表 目 次

前 言

第1表	遺構実測図・遺物実測図整理番号 一覧表	1
第2-1表	発掘調査遺跡一覧表	4
第2-2表	発掘調査遺跡一覧表	5

A 地区

第3表	竪穴住居一覧表	10
第4表	掘立柱建物一覧表	16
第5表	溝一覧表	16

第6-1表	出土遺物観察表	18
第6-2表	出土遺物観察表	20
第6-3表	出土遺物観察表	22
第6-4表	出土遺物観察表	24
第6-5表	出土遺物観察表	26
第6-6表	出土遺物観察表	28
第6-7表	出土遺物観察表	30

B 地区

第7表	遺構一覧表	56
第8-1表	出土遺物観察表	58
第8-2表	出土遺物観察表	60
第8-3表	出土遺物観察表	62

I. 前 言

1. 調査に至る経過

近畿自動車道関・伊勢線の久居～伊勢間は昭和47年に基本計画が決定された。

このうち久居～勢和間は第8次区間として昭和53年に整備計画決定と施工命令が出された。これに先立ち県教育委員会文化課は昭和50年と昭和53年に埋蔵文化財分布調査を実施し、昭和54年以降、日本道路公団等と文化財の保護につき本格的な協議を開始するに至った。現地での発掘調査は昭和59年から同63年までの5年間を費やし、遺跡数は41遺跡、総調査面積は151,715㎡となった。

嬉野町内に所在する遺跡は、昭和61年度から同63年度にかけて調査を実施したが、堀之内遺跡もこの3箇年にわたり発掘調査を行った。昭和61年度はA地区の試掘調査と側道部分の本調査を実施した。昭和62年度はA・B地区の本調査と遺跡範囲確認のための試掘調査、さらにC地区上層の本調査と同地区下層の範囲確認調査と一部の本調査を実施した。昭和63年度は前年度の継続調査としてC地区下層の本調査を実施し、終了させた。

2. 調査および整理の方法

現地調査の方法については第3分冊1を参照されたい。また資料整理も第3分冊1に示した方法により実施したのでここでは略するが、堀之内遺跡の遺

構実測図と遺物実測図およびピックアップ遺物には第1表のように6桁の番号を与えて整理した。

3. 調査の体制

調査は、三重県教育委員会が主体となり、同事務

局文化課が担当した。

遺跡番号	遺跡名	遺構実測図	遺物実測図
11	堀之内遺跡	A地区側道部分 (61年度調査) 11-0001~0020	A地区側道部分 (61年度調査) 11-0001~0077
		A地区本線部分 (62年度調査) 11-1001~1041	A地区本線部分 (62年度調査) 11-1001~1231
		B地区 11-2001~2010	B地区 11-2001~2116
		C地区 11-3001~	C地区 11-3001~
		D地区 11-4001~4027	D地区 11-4001~
		C地区下層 (62年度調査) 11-5001~	C地区下層 (62年度調査) 11-5001~
		C地区下層 (63年度調査) 11-6001~6050	C地区下層 (63年度調査) 11-6600~6869

第1表 遺構実測図・遺物実測図整理番号一覧表

以下は、昭和61～63年度の調査体制である。

昭和61年度

文化財第二係

係長 伊藤久嗣 総括
技師 新田 洋 調整・協議、天神山古墳群
ほか
主事 田中喜久雄 横尾古墳群
主事 田村陽一 藪ノ下遺跡
主事 河北秀実 平林古墳群
主事 宮田勝功 大河内城堀切ほか
技師 野原宏司 寄谷遺跡ほか
主事 野田修久 寄谷遺跡ほか
臨時調査員 青木尚根・谷 伸二
室内整理員 谷久保美知代・近藤豊美
大西友子・野崎栄子・山本紀子

主事 山崎恒哉 西野7号墳
主事 野田修久 天保古墳群ほか
室内整理員 谷久保美知代・近藤豊美
大西友子・野崎栄子
脇葉輝美・山際みち子
東 千恵子・中谷とも代
孝久由希子・小坂規美子

調査指導（昭和61～63年度、順不同、敬称略）

八賀 晋（三重大学教授）
広岡公夫（富山大学教授）
三辻利一（奈良教育大学教授）
堅田 直（帝塚山大学教授）
水野正好（奈良大学教授）
伊藤秋男（南山大学教授）
木下正史（奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発
掘調査部考古第二調査室長）
西村 康（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財セン
ター発掘技術研究室長）
大脇 潔（奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡
発掘調査部主任研究官）
泉 拓良（奈良大学助教授）
西山要一（奈良大学助教授）
植野浩三（奈良大学助手）
千葉 豊（京都大学埋蔵文化財調査研究センター
助手）
安孫子昭二（東京都文化課 学芸員）
石黒立人（財愛知県埋蔵文化財センター）
小玉道明（三重県総務部学事文書課主幹）
広瀬和久（三重県農業技術センター環境調査研究
室室長）
原 正之（三重県農業技術センター研究員）
奥 義次（度会町教育委員会）
磯部 克（三重県立津西高等学校教諭）

昭和62年度

文化財第二係

係長 伊藤久嗣 総括
技師 新田 洋 調整・協議、焼野遺跡ほか
主事 山下雅春 戸木遺跡ほか
主事 田中喜久雄 戸木遺跡
主事 増田安生 堀之内遺跡ほか
主事 田村陽一 天保遺跡ほか
主事 河北秀実 中尾遺跡ほか
主事 宮田勝功 鳥居本遺跡ほか
主事 野田修久 天保古墳群ほか
臨時調査員 木許 守
室内整理員 谷久保美知代・近藤豊美
山本紀子・大西友子・野崎栄子
中谷とも代・東 千恵子
山際みち子・孝久由希子

発掘調査土木工事部門担当

三重県住宅供給公社・三重県土地開発公社
堀内信吾・稲葉庄衛・浜口安光
田中和美・仲田辰実
(河北秀実)

昭和63年度

文化財第二係

主幹兼係長 伊藤久嗣 総括
技師 新田 洋 調整・協議、西野7号墳
主事 田中喜久雄
主事 田村陽一 堀之内遺跡
主事 河北秀実 鳥居本遺跡
主事 小坂宜広 ビハノ谷遺跡ほか



第1図 遺跡位置図 (1 : 100,000)

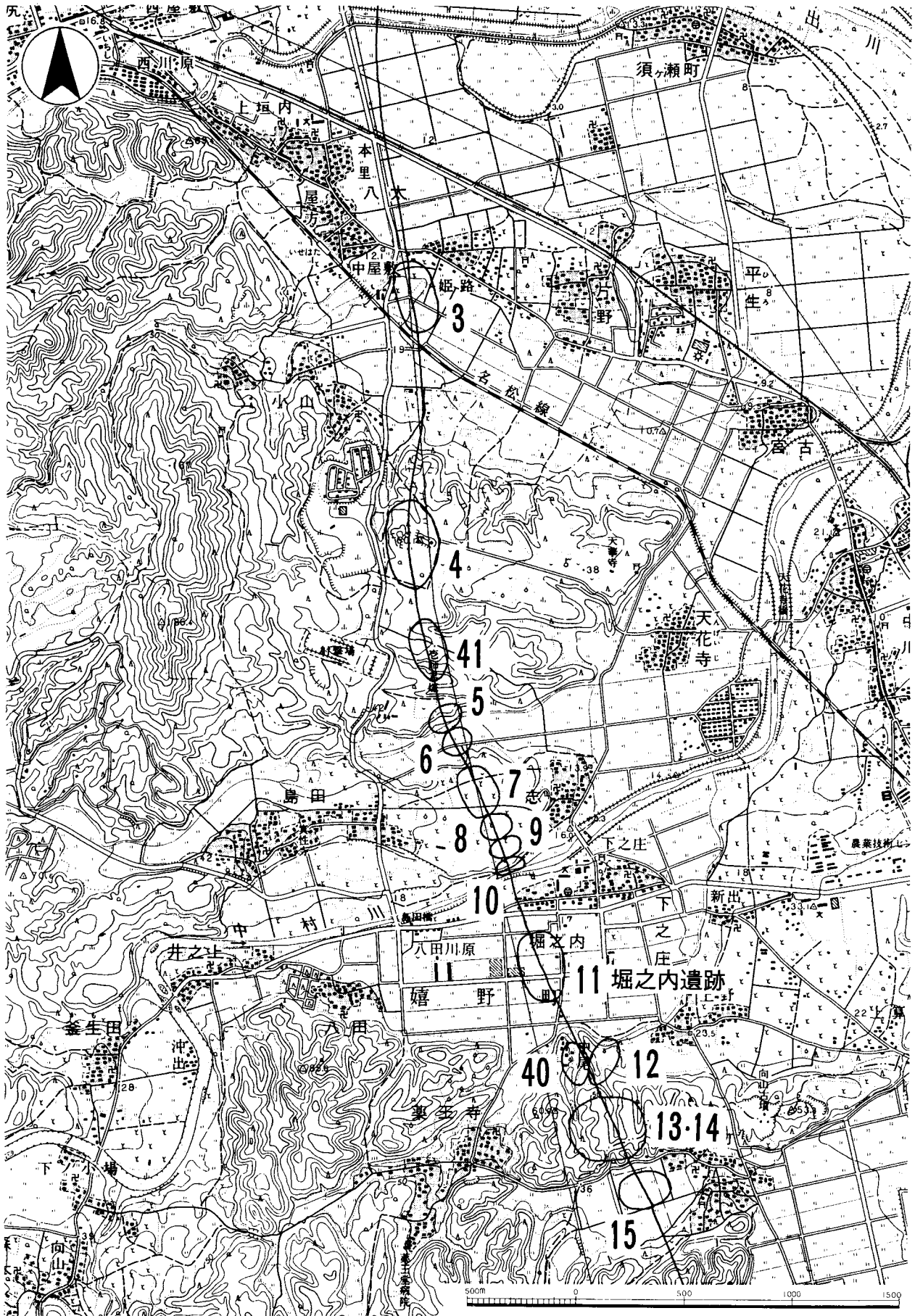
番号	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間 (元号は昭和)	担当者	概要		
1	小戸木遺跡	久居市小戸木町	192	計 432	62.3.3~3.5	宮田 勝功 木許 守	遺構・遺物なし(試掘)	
			240				62.9.20~9.24	" (試掘)
2	庄村遺跡	一志町庄村		304	62.9.14~9.20	新田 洋	遺構なし・遺物微量(試掘)	
3	鳥居本(八反田)遺跡	一志町小山、新沢田	8,900	11,540	62.9.24~63.3.7	宮田 勝功 小坂 宜広 河北 秀実	弥生中期方形周溝墓など検出	
			2,640				63.5.16~7.27	飛鳥時代の井戸検出
4	西野7号墳 (天花寺古墳群)	嬉野町天花寺		3,400	62.11.9~11.31 63.5.16~9.28	新田 洋 新田 洋 山崎 恒哉	(山林伐開) 石剣・車輪石片出土、前期の古墳1基	
5	焼野(口山田)古墳	嬉野町島田		2,010	62.7.11~9.30	山下 雅春	古墳は畑寄せによる盛土と判明 石核出土(試掘)	
6	焼野(口山田)遺跡	嬉野町島田		3,500	62.5.11~8.24	宮田 勝功 新田 洋	奈良時代の住居跡など検出	
7	天保(天保B)遺跡A・B区	嬉野町島田		7,200	62.5.7~9.4	田村 陽一	平安時代の竪穴住居など検出	
8	天保(一志西部)遺跡 C区	嬉野町島田		5,000	62.5.18~6.30	増田 安生	奈良~平安時代の竪穴住居など検出	
9	天保(天保館跡)遺跡 D区	嬉野町島田		3,800	62.7.1~8.12	増田 安生	"	
10	天保古墳群 (含、天保遺跡E区)	嬉野町島田		5,390	62.8.5~63.7.12	田村 陽一 野田 修久	6世紀中ごろの横穴式石室墳など	
11	堀之内遺跡	A区 嬉野町堀之内	1,450	14,250	62.2.23~3.13	新田 洋	(側道部分の調査)	
			A区 "		2,200	62.5.6~7.16	河北 秀実	古墳~平安時代の住居跡など検出
			B区 "		2,200	62.7.23~10.1	河北 秀実	古墳~平安時代の溝など検出
			C区 薬王寺		5,400	62.9.1~63.3.19	増田 安生	弥生後期竪穴、平安の掘立など検出
			D区 "		700	62.10.25~11.20	木許 守	古式土師器出土、ヤナ状遺構検出
			C区下層 "		1,900	63.5.18~8.13	田村 陽一	縄文中・後・晩期の土器多数出土
400	62.5.20, 6.29~7.22	河北 秀実	(調査区南端・北端部の試掘)					
12	中尾遺跡	嬉野町薬王寺	93	600	62.3.4	河北 秀実	(試掘)	
			507		62.5.6~6.5	河北 秀実	掘立柱建物3棟検出	
13	東峽遺跡 (ビハノ谷古墳群)	嬉野町薬王寺、下之庄	1,000	13,000	62.3.2~3.30	野原 宏司	(山林伐開、表土掘削)	
			12,000		62.5.19~8.12	野田 修久 木許 守	弥生式土器出土	
14	女牛谷古墳群	松阪市小野町 嬉野町薬王寺、下之庄	4,031	7,171	61.12.15~62.2.21	野原 宏司	(山林伐開、第1次調査)	
			3,140		62.5.7~7.11	木許 守 野田 修久 山下 雅春	後期の古墳群	
15	平田遺跡	松阪市小野町		228	61.2.18~2.24	田村 陽一	遺構なし、遺物微量(試掘)	
16	山見(下山見)遺跡	松阪市小阿坂町		224	60.11.12~11.20	野原 宏司	遺構なし、遺物微量(試掘)	
17	新田遺跡	松阪市小阿坂町	288	4,688	60.11.15~11.25	野原 宏司	(試掘)	
			4,400		60.12.27~61.3.25	野原 宏司	縄文後期土器出土	
18	垣内田古墳群 (垣内田遺跡)	松阪市岩内町	428	6,528	60.11.26~12.12	野原 宏司	(試掘)	
			5,500		60.12.27~61.3.25	吉水 康夫	横穴式石室墳を主体とする古墳群	
			600		61.6.30~7.30	野田 修久		
19	藪ノ下(岡崎古墳群)遺跡	松阪市岩内町	1,100	2,500	61.3.1~3.25	田村 陽一	(試掘)	
			1,400		61.6.30~10.3	田村 陽一	良好な資料となる縄文後期土器多数出土	

第2-1 発掘調査遺跡一覧表(太ゴシックは本書所収遺跡)

※調査総面積は151,715㎡、ただし本調査面積に試掘調査面積が重複する遺跡あり。

番号	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)		調査期間 (元号は昭和)	担当者	概要
20	覆長遺跡	松阪市伊勢寺町	304	計 2,708	60.10.18~10.24	田村 陽一	(試掘)
			2,404		60.11.26~61.3.18	河北 秀実	奈良~平安時代の竪穴住居検出
21	平林古墳群	松阪市伊勢寺町		4,021	61.6.9~10.3	新田 洋 河北 秀実	石室を主体とする古墳群
22	横尾(西野)墳墓群	松阪市伊勢寺町、岡山町	5,500	8,000	60.7.1~61.2.27	田阪 仁 宮田 勝功	500基におよぶ中世墓群
			2,500		61.5.31~12.5	田中喜久雄 宮田 勝功	後期小型円墳(横穴式石室)2基 後期小型方墳2基
23	さんざい林遺跡	松阪市西野町		176	60.10.25~10.26	田村 陽一	(試掘)
24	大河内5号(坂東)古墳	松阪市笹川町		180	61.7.23~8.19	野田 修久	中世土器片微量。古墳にあらざ (試掘)
25	大河内城堀切	松阪市大河内町		600	62.1.5~2.25	宮田 勝功	中世北畠氏の平山城大河内城の堀切
26	上ノ広(森下池西方)遺跡	松阪市広瀬町	224	1,360	60.3.22~60.3.31	上村 安生 田坂 仁 宮田 勝功	(試掘)
			1,136		60.7.1~60.10.14	田村 陽一 野原 宏司	先土器末~縄文時代の石器多数出土
27	大原堀(大原堀南方)遺跡	松阪市広瀬町		144	60.10.28~60.10.31	田村 陽一	遺構、遺物微量(試掘)
28	花ノ木(山崎)遺跡	多気町牧	52	5,852	59.12.10	田村 陽一 杉谷 政樹	(試掘)
			5,800		60.1.28~60.3.26	田村 陽一 杉谷 政樹	弥生時代中期竪穴住居、方形周溝墓など検出
29	浅間山北遺跡	多気町牧	44	1,044	59.12.10	高見 宜雄 田村 陽一	(試掘)
			1,000		60.1.28~60.2.23	田阪 仁	土師器細片、天目茶碗片出土
30	浅間山南遺跡	多気町牧		470	60.3.25~60.3.31	河瀬 信幸 田村 陽一	遺構なし。遺物微量(弥生前期土器片)(試掘)
31	牧瓦窯群 1・2・3号窯 4・5・6・8号窯 7号窯	多気町牧 多気町牧・鎌形 多気町鎌形	960	1,160	60.7.1~60.10.31	田中喜久雄 河北 秀実	奈良時代の瓦専用窯
					60.11.30~61.3.25	田中喜久雄	1号……平窯
			200		61.6.9~61.8.15	野原 宏司	2~8号…登窯
32	釈尊寺(中牧)遺跡	多気町鎌形	144	1,144	60.11.1~60.11.12	田村 陽一	(試掘)
			1,000		60.12.5~61.2.28	田村 陽一	掘立柱建物検出、中世土器出土
33	下村A遺跡	勢和村丹生	88	7,588	59.12.6~12.8	増田 安生 杉谷 政樹	(試掘)
			7,500		60.1.28~3.28	吉水 康夫 河瀬 信幸 上村 安生	石鎌・石匙・山茶碗・瓦器片等出土
34	下村B遺跡	勢和村丹生		44	59.12.8~12.9	増田 安生 杉谷 政樹	遺構・遺物なし(試掘)
35	峯谷遺跡	松阪市矢津町	740	5,440	61.2.27~3.25	田阪 仁	(試掘)
			4,700		61.8.20~62.3.18	野原 宏司 野田 修久	五輪塔など出土。寺(養徳寺)跡の伝承に裏づけ。
36	鎌形(牧)中世墓群	多気町鎌形		520	61.7.1~9.6	野原 宏司	石組の中世墓13基検出
37	天神山古墳群	松阪市伊勢寺町、岩内町		1,750	61.9.20~11.4	新田 洋	横穴式石室墳主体の古墳群
38	楯垣外遺跡	松阪市矢津町		1,676	61.9.1~10.18	野原 宏司 野田 修久	鎌倉時代の掘立柱建物など検出
39	戸木(久保屋敷)遺跡	久居市戸木町		12,000	62.9.1~63.3.31	山下 雅春 田中喜久雄	中世後半掘立柱建物、井戸、土塁状遺構など検出
40	ビハノ谷遺跡	嬉野町薬王寺		1,600	63.4.11~5.11	小坂 宜広	古墳時代竪穴住居。鎌倉時代掘立柱建物検出
41	西野遺跡	嬉野町天花寺		2,473	63.7.12~8.3	野田 修久	古式土師器片出土(試掘)
	北広遺跡	嬉野町天花寺	サマカイト製尖頭器片出土(試掘)				

第2-2表 発掘調査遺跡一覧表



第2図 本書所収遺跡位置図 (1 : 25,000)

Ⅱ. A 地区

1. はじめに

堀之内遺跡は、嬉野町大字堀之内字川原田・宮垣内・中ノ坪に所在する遺跡で、当初は鎌倉～室町時代の遺物包含地として南北140m、東西120mが遺跡範囲とされていた^①。当報告におけるA地区はこの範囲に含まれており、後述するB・C・D地区は発掘調査の進展に伴う遺跡範囲の拡大により新たに設定した地区である。A地区の調査前の標高は約16m、現況は水田であるが、昭和52年度に圃場整備がすでに終了している。なお歴史的環境については、第3分冊1を参照されたい。

A地区の第1次調査は、事業地内に3本のトレンチを設定した。西側道部分をCトレンチ、センター杭に沿った中央をAトレンチ、東側道部分をBト

レンチと呼称した。東西の両側道は工事が先行するため、B・Cトレンチについては本調査とし、Aトレンチは遺物包含層上面までの掘削をおこない、一部は深さ確認のため遺構検出面まで掘り下げた。

Bトレンチの地区杭は道路センター杭STA285+00から幅杭L.64方向へ13.90mの点をB0とし、これを基準に北へ4mの地点をB4、8mの地点をB8・・・とした。Cトレンチの地区杭はSTA285+00から幅杭R.57方向へ14.40mの点をC0とし、これから北へ16mの地点をC16、20mの地点をC20、・・・とした。

またA地区北方の水田にも試掘トレンチおよびグリッドを数カ所設定したが、遺構は検出されず、中



第3図 遺跡地形および発掘区位置図 (1:5,000)

世の遺物が少量認められたのみである。

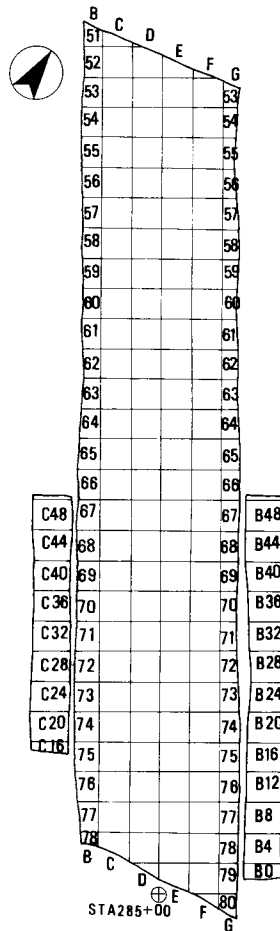
第1次調査の期間および面積は、昭和62年2月23日から3月13日までで、1,450㎡である。

A地区の第2次調査は、南北長120m、東西幅21mの本線部分の本調査をおこなった。

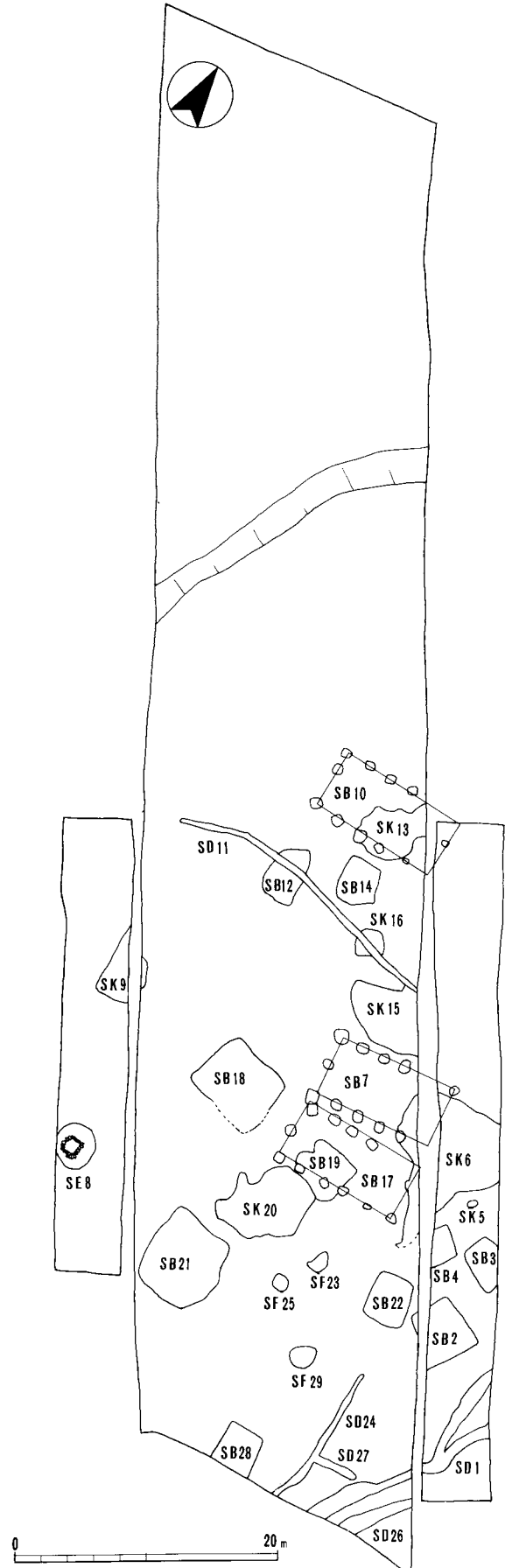
地区杭はSTA285+00をE80とし、原則に従い、南北に数字を、東西にアルファベットを付与した。

A地区の調査と並行してA地区北方の水田と畑地、および南方の水田の試掘調査を行った。その結果、A地区南方の水田地帯で南北200mにわたって、遺構、遺物が確認されたため、農道を挟んで新たにB地区とC地区を設定して本調査を行うこととした。

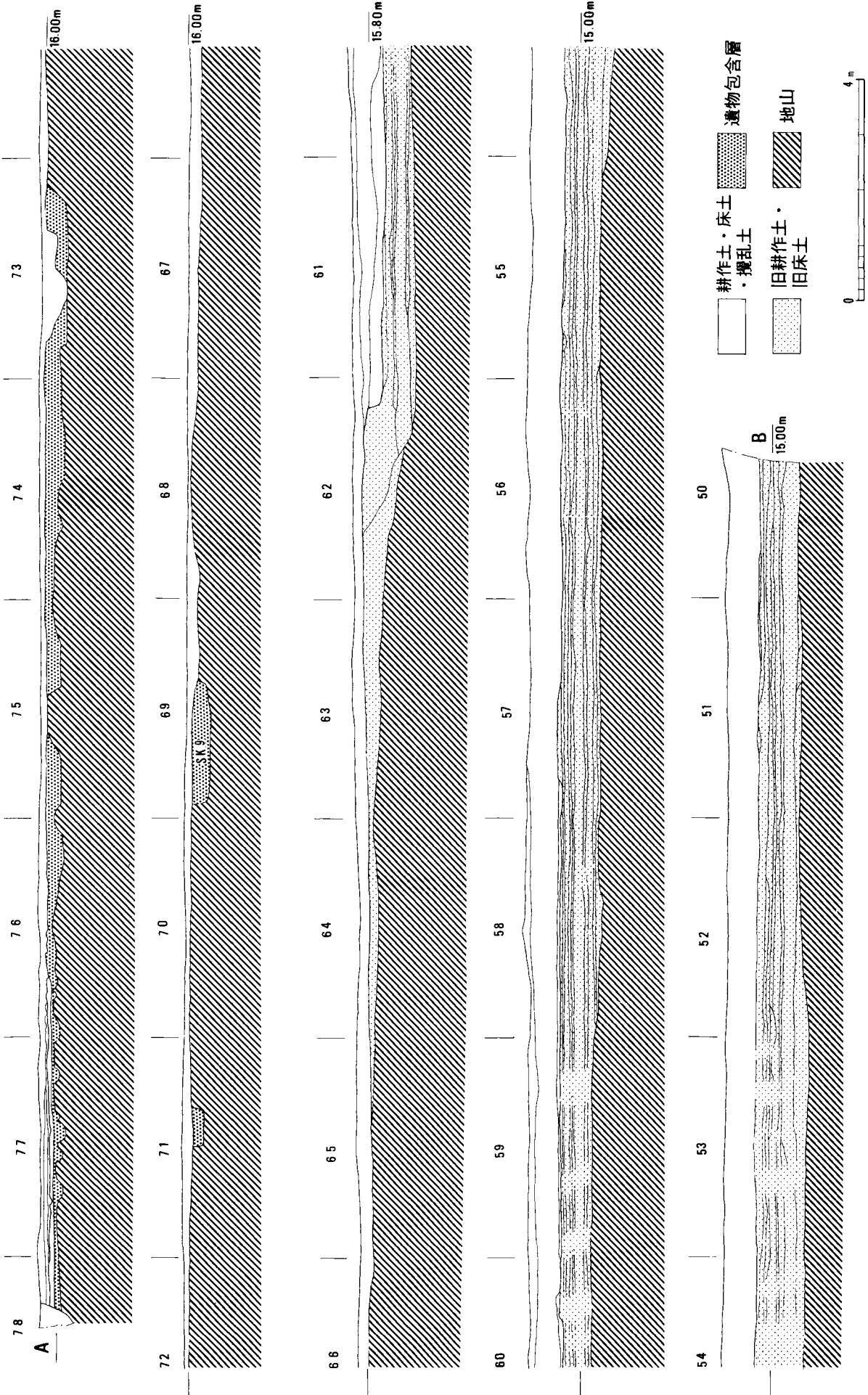
A地区第2次調査の面積は2,200㎡で、期間は試掘調査を含めると昭和62年5月6日から7月16日までである。



第4図 発掘区地区割図 (1:1,000)



第5図 遺構配置図 (1:500)



第6図 発掘区土層断面図 (1:100)

2. 層序および遺構

調査区の状況は北半部と南半部で大きく異なる。

北半部は北端から地区杭の59～63列付近までである。層序は耕作土、床土の下に、旧耕土・旧床土が3～5層、約50～90cmみられ、その下が褐色砂である。遺物包含層は認められず、褐色砂上面で遺構検出を行ったが、遺構は全くみられなかった。遺構検出面の標高は14.2～14.9mである。なお旧耕作土および旧床土には、室町時代の土師器、陶器等が包含されていたが、いずれも細片で、開墾時に破壊されたものと思われる。

南半部は地区杭59～63列付近から南端までである。層序は上から順に耕作土、床土、黒褐色砂質土（遺物包含層）、黄褐色砂となる。遺物包含層は地区杭73列以南にのみみられる。地区杭73列以北では遺物包含層がみられず、床土の下が黄褐色砂となっているが、これは圃場整備の際、削平を受けたものである。遺構検出面は黄褐色砂の上面で行ったが、その標高は15.8～16.0mである。

遺構は南半部のみにみられ、竪穴住居10棟、掘立柱建物3棟、井戸1基、焼土3基、溝6条、土坑6基、ピット多数を検出した。時期は古墳時代後期か

ら平安時代にかけてである。遺構の埋土はいずれも黒褐色砂質土と黄褐色砂が混合したものである。以下、時代順に紹介しておきたい。

(1) 古墳～飛鳥時代の遺構

A. 竪穴住居

S B 18とS B 21の2棟で、ともに一辺6m前後の隅丸方形であるが、その詳細については第3表のとおりである。S B 18は焼土は認められなかったが、S B 21には北辺近くの床面に40×60cm、厚さ1～5cmの焼土がみられた。

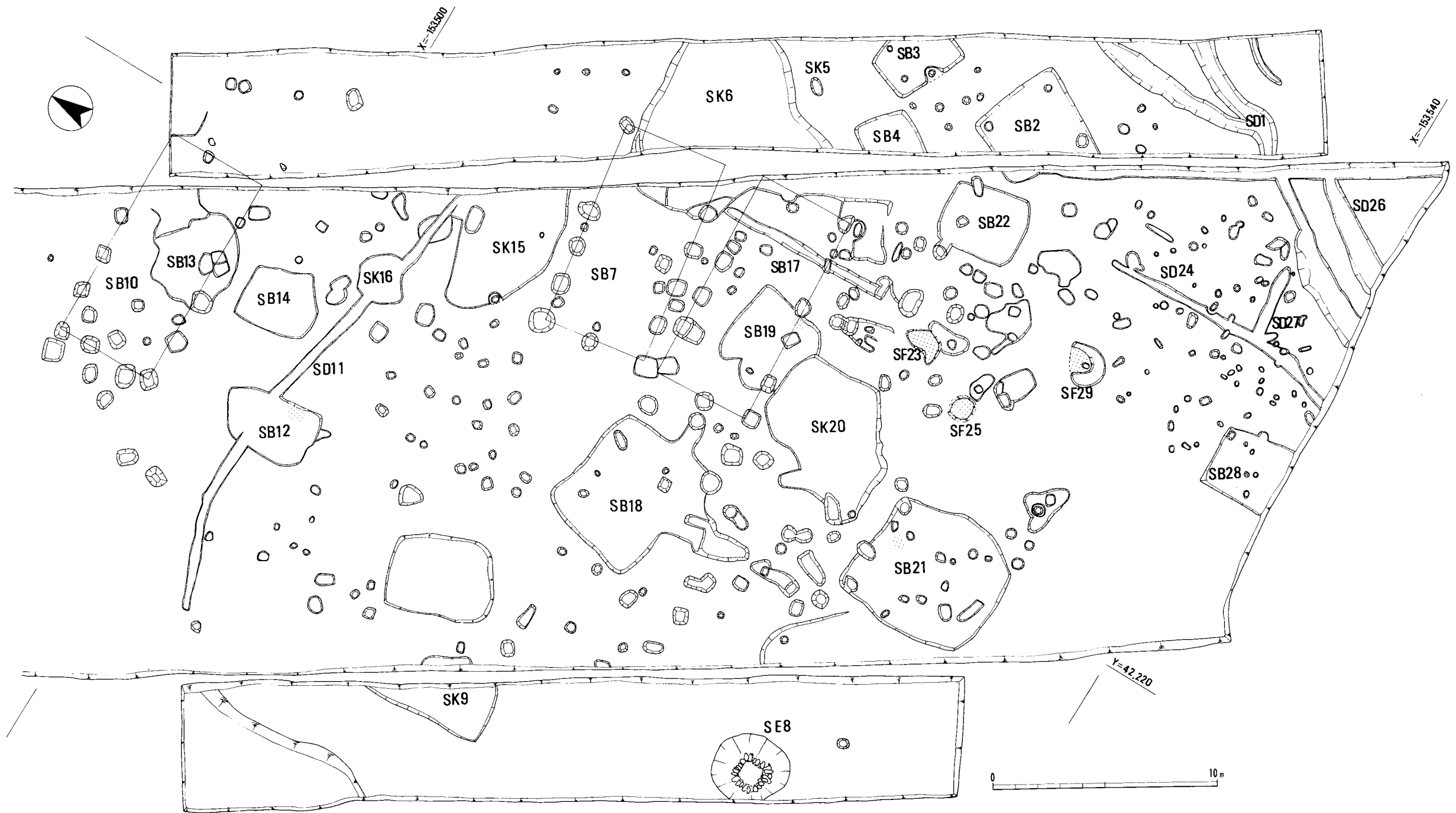
B. 焼土

S F 23 遺物包含層中に長さ2m、幅約1mの範囲で焼土が検出され、その厚さは15～25cm程である。中央から土師器甕(14)の上半部が出土した。南側には30×15×10cmの砂岩が2個方向をそろえて並んでおり、その周りに拳大の砂岩が9個程散乱してみられるが、これらはいずれも火を受けている。

S F 29 径1.8m、深さ約20cmの焼土坑である。北側の径1m程の範囲には焼土がみられ、その上には土師器甕(13)が倒立状態で置かれており、その周辺には20～40cm、厚さ約7cmの泥岩が4個みられ

遺構	規模 (m)	面積 (㎡)	深さ (cm)	長軸方向	柱穴	焼土	出土遺物	備考
S B 21	6.2×6.0	37.2	20	N32° E	×	床面	土師器甕(7～9)、須恵器蓋(10)・杯(11)・鉢(12)	古墳時代
S B 18	5.9×4.9	28.91	10	N52° W	×	なし	土師器甕(1～3)、須恵器杯身(4)・蓋(5・6)	飛鳥時代
S B 2	3.0×2.4以上	7.2以上	20	N63° W	○	不明	土師器皿(15～17)、須恵器蓋(18・19)	奈良時代
S B 3	3.5×2.5以上	8.75以上	20	N37° W	○	不明	土器小片	奈良時代
S B 4	2.5×2.2以上	5.5以上	20	N30° W	×	不明	土師器皿(20)・甕(21～23)	奈良時代
S B 12	4.4×2.8	12.32	20	N29° E	×	東壁	土師器碗(24)・杯(25～26)	奈良時代
S B 14	3.5×3.0	10.5	20	N28° E	×	なし	土師器碗(27)・杯(28～30)・皿(31～33)・甕(34・35) 須恵器杯(36～38)	奈良時代
S B 19	4.0×3.8以上	15.2以上	10～20	N49° W	×	東壁	土師器碗(39)・皿(40・41)・甕(42・43)、須恵器蓋(44) 杯(45～46)	奈良時代 SK20より古い
S B 22	3.7×3.2	11.84	10	N25° E	×	なし	土師器杯(47)、製塩土器(48)、須恵器杯(49)	奈良時代
S B 28	3.1以上×3.1	9.61以上	10～20	N30° E	×	不明	土師器碗(78)・杯(79・80)・甕(81・82)、灰釉陶器高杯(83)、土錘(84)	平安時代

第3表 竪穴住居一覧表



第7図 遺構平面図 (1:200)

た。

(2) 奈良時代の遺構

A. 竪穴住居

竪穴住居はSB2・3・4・12・14・19・22の7棟である。各竪穴住居の規模等詳細については第3表のとおりである。東辺に焼土を伴うものと全く焼土を伴わないのがみられる。

B. 土坑

SK13 東西4.5m、南北4.0m程の不定型な土坑である。遺構検出面からの深さは20cmである。

SK20 東西7.5m、南北5.0m、深さ10~30cmの土坑で、切り合いはSB19より新しい。平面形から、

竪穴住居が2棟重複している可能性がある。重複しているとすれば、西側の竪穴住居は3.5m×3.5m前後の大きさで、東側のそれは4.0m×4.0m前後と考えられる。

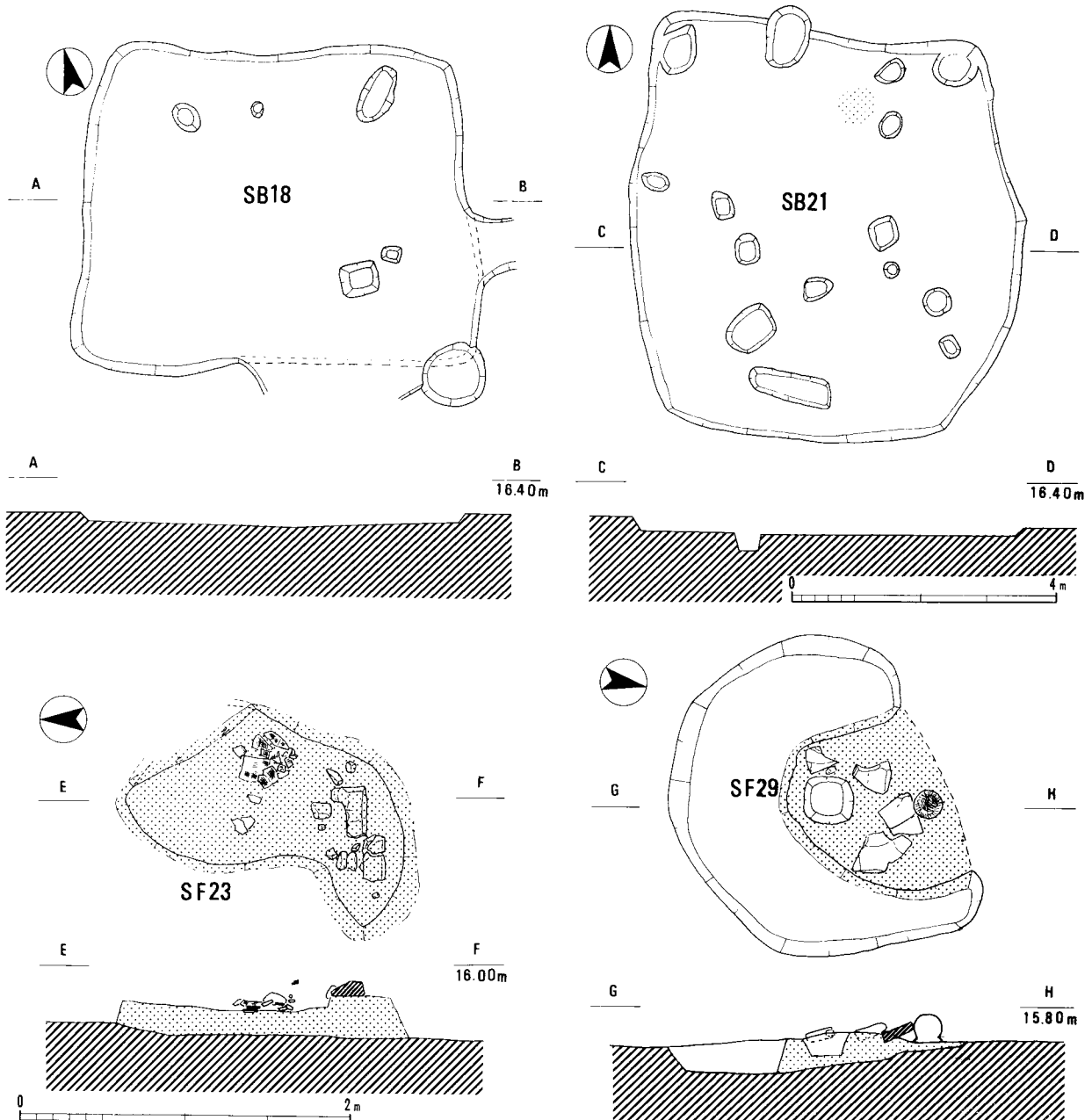
(3) 平安時代の遺構

A. 竪穴住居

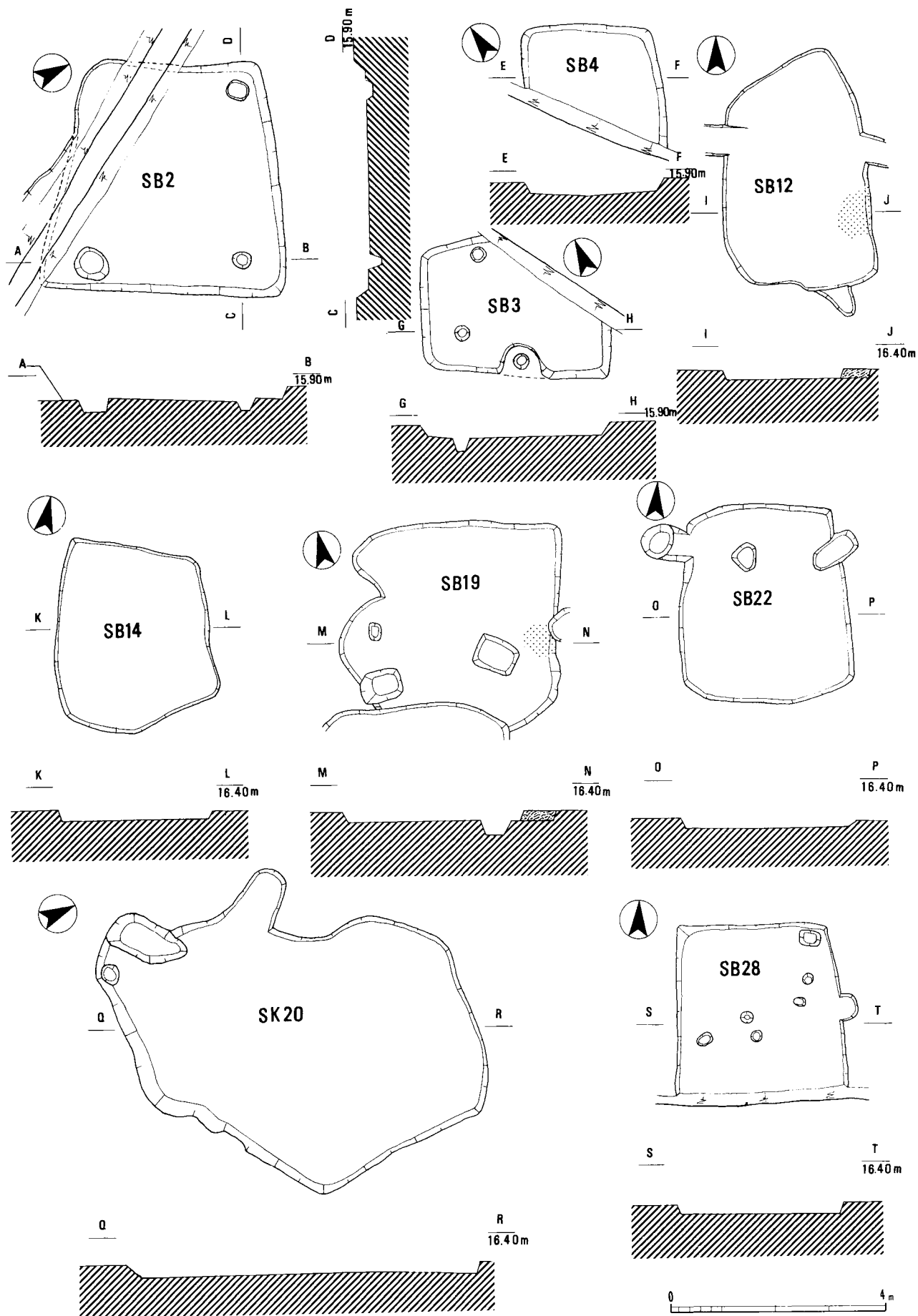
SB28の1棟のみで、規模等については第3表のとおりである。

B. 掘立柱建物

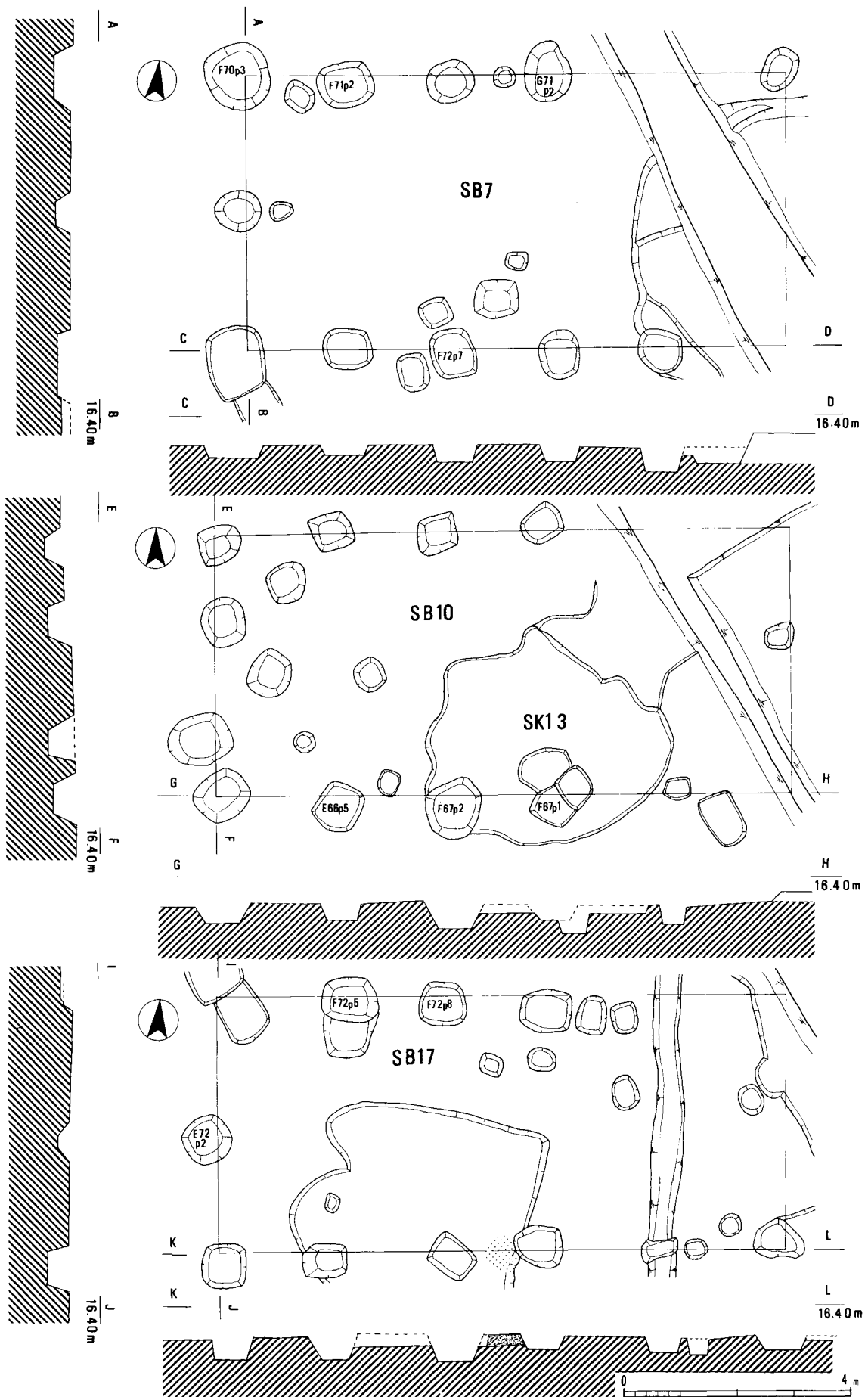
SB7・10・17の3棟を検出したが、規模等については第4表のとおりである。3棟とも柱掘形は70cm前後×90cm前後の長方形を基本としており、深さ



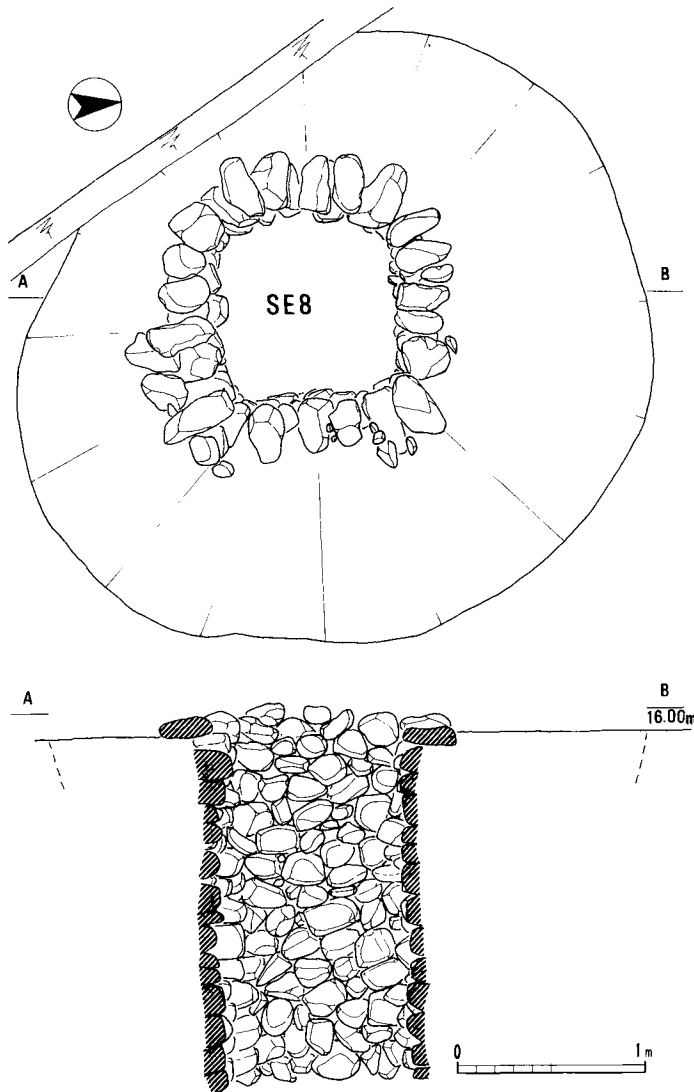
第8図 遺構実測図 (SB18・21…1 : 100 SF23・29…1 : 40)



第9図 遺構実測図 (1 : 100)



第10図 遺構実測図 (1 : 100)



第11図 遺構実測図 (1:40)

は20~40cm程であるが、柱痕跡は確認できなかった。

C. 井戸

SE8 平面形が一辺約1mの方形の石積井戸で、深さは約1.8mである。石材は人頭大の物を使用している。井戸枠等の木製品は確認出来なかった。掘形は直径約3.5mの円形である。

D. 溝

SD1・11・24・27の4条を検出した。各々の規模等については第5表のとおりである。なおSD1には古墳時代から奈良時代の遺物も多数混入していた。

E. 土坑

SK6 東西7m以上、南北9m程の不定形な土坑で、検出面からの深さは30cmである。

SK9 南北5.5m以上、東西3.0mで、深さ10cmである。

SK16 東西2.2m、南北2.0mの方形で、深さは20cmである。

(5) 時期不明の遺構

A. 溝

SD26 規模等については第5表のとおりである。

遺構	規模(間)	棟方向	桁行(m)	梁行(m)	柱間寸法(m)		面積(m ²)	出土遺物	時代
					桁行	梁行			
SB7	5×2	N83° E	9.5	4.8	1.9等間	2.4等間	45.6	土師器甕(86)、黒色土器椀(87・88)、灰釉陶器(89)	平安時代
SB10	5×2	N88° E	10.0	4.5	2.0等間	1.5+3.0(2.0+2.5)	45.0	土師器椀(90)・杯(91・92)・皿(93)	平安時代
SB17	5×2	N86° E	10.0	4.4	2.0等間	2.2等間(1.5+2.9)	44.0	土師器杯(94~96)・甕(97・98)、灰釉陶器皿(99)	平安時代

第4表 掘立柱建物一覧表

遺構	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	方向	出土遺物	時代	備考
SD1	18以上	0.5~1.5	0.2	N33° E	土師器小皿(110・111)、須恵器杯(112・113)・甕(114)	平安時代	
SD11	23以上	0.5	0.2	N79° W	土師器椀(115)・杯(116・117)・小皿(118)・甕(119)、緑釉陶器(120)、灰釉陶器(121)	平安時代	
SD24	11以上	0.3~0.7	0.2	N1° W	土師器杯(122・123)	平安時代	SD27より古、B地区SD1か?
SD26	5以上	0.7~1.3	0.2	N34° E		不明	
SD27	3.5	0.5	0.3	N84° E	山茶椀(124)	平安時代	SD24より新、埋土に石を含む

第5表 溝一覧表

B. 焼土

S F 25 径1mの範囲で焼土がみられた。

C. 土坑

S K 15 東西5.0m以上、南北4.7m、深さ10cmである。

3. 遺物

遺構及び遺物包含層から、古墳時代後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代の遺物が多数出土した。その種類は土師器碗・杯・皿・小皿・盤・壺・甕・鍔付円筒状土器、製塩土器、黒色土器、瓦器小椀、須恵器杯・蓋・高杯・鉢・壺・甕、灰釉陶器碗・皿・小皿・高杯、緑釉陶器碗・皿、山茶碗、山皿、白磁碗、土錘、瓦（丸瓦、平瓦）、加工陶器、石製品（砥石）などである。

各遺物の詳細については遺物観察表（第6表）に示したが、特徴的な遺物のみ以下に略述しておきたい。

・須恵器鉢（12） 推定口径約19cmで、口縁部が内傾する。概報では蓋としたが訂正しておきたい。

・土師器甕（14） いわゆる長胴甕である。口縁部はヨコナデである。胴部外面はタタキを施した後、部分的に縦または横方向にハケ調整をし、さらに縦方向にヘラケズリをおこなっている。内面はナデているが、不徹底なために青海波文が残っている。

・土師器杯（30） 高台を有する杯で、底部は平底、体部は直線的に外傾する。高台は底部にヘラで格子状に刻みをつけた後貼りつける。体部内面には格子状暗文がみられる。底部中央には径2.3～3.1cmの楕円形の穿孔がみられるが、焼成後、外面からの穿孔である。

・土師器杯（57） 小片のため口径は推定である。口縁部をヨコナデし、底部外面をヘラケズリしているが、底部内面にはハケメがみられる。

・土師器碗（153） 口径約13cmの碗で、底部は平底である。口縁部をヨコナデし、底部外面は未調整

である。内面は体部にハケメ調整がみられ、底部はナデ調整を施している。

・土師器杯（172） 底部外面に墨書「為」がみられる。

・土師器杯（173） 体部内面にハケメ調整を施す。

・土師器甕（188） 胴部は球胴状で、口縁部はほぼ直立し、端部はまるい。粘土つなぎ痕がみられる。口縁部はヨコナデ、外面は頸部は8本/cmの細かいハケメ、胴部は4本/cmの粗いハケメ、底部はヘラケズリである。内面は胴部、底部ともナデている。

・土師器甕（206） 長胴甕であるが、外面の胴部中央にヘラ記号がみられる。

・土師器鍔付円筒状土器（207） 口径16cm前後の円筒状の土器で下方に広がる。外面は縦のハケメ、内面は横のハケメで、ハケ調整後、口縁部から5cm程下に鍔を貼りつけた後、横方向にナデる。県内の類例としては、斎宮跡のS K 2250^②、S K 5200^③出土のものがある。

・須恵器高杯（229） 口径は10cm前後である。杯部の外面に沈線を一条巡らせ、その上に1.3cm程の間隔で径0.5cm程の球状の貼付文を施す。

・緑釉陶器（234・235）（234）は皿で内面には底部と体部の境に沈線を施す。口縁には輪花がみられるが、破片のためその数は不明である。胎土は軟質である。（235）は底部小片であるが、高台は削り出しで、胎土は硬質である。

・加工陶器（260） 中世の陶器鉢類の体部を加工したものである。

4. 小 結

A地区は古墳時代後期から平安時代の集落跡であることが判明した。以下、(1)古墳～飛鳥時代、(2)奈良時代、(3)平安時代の順に若干のまとめをしておき

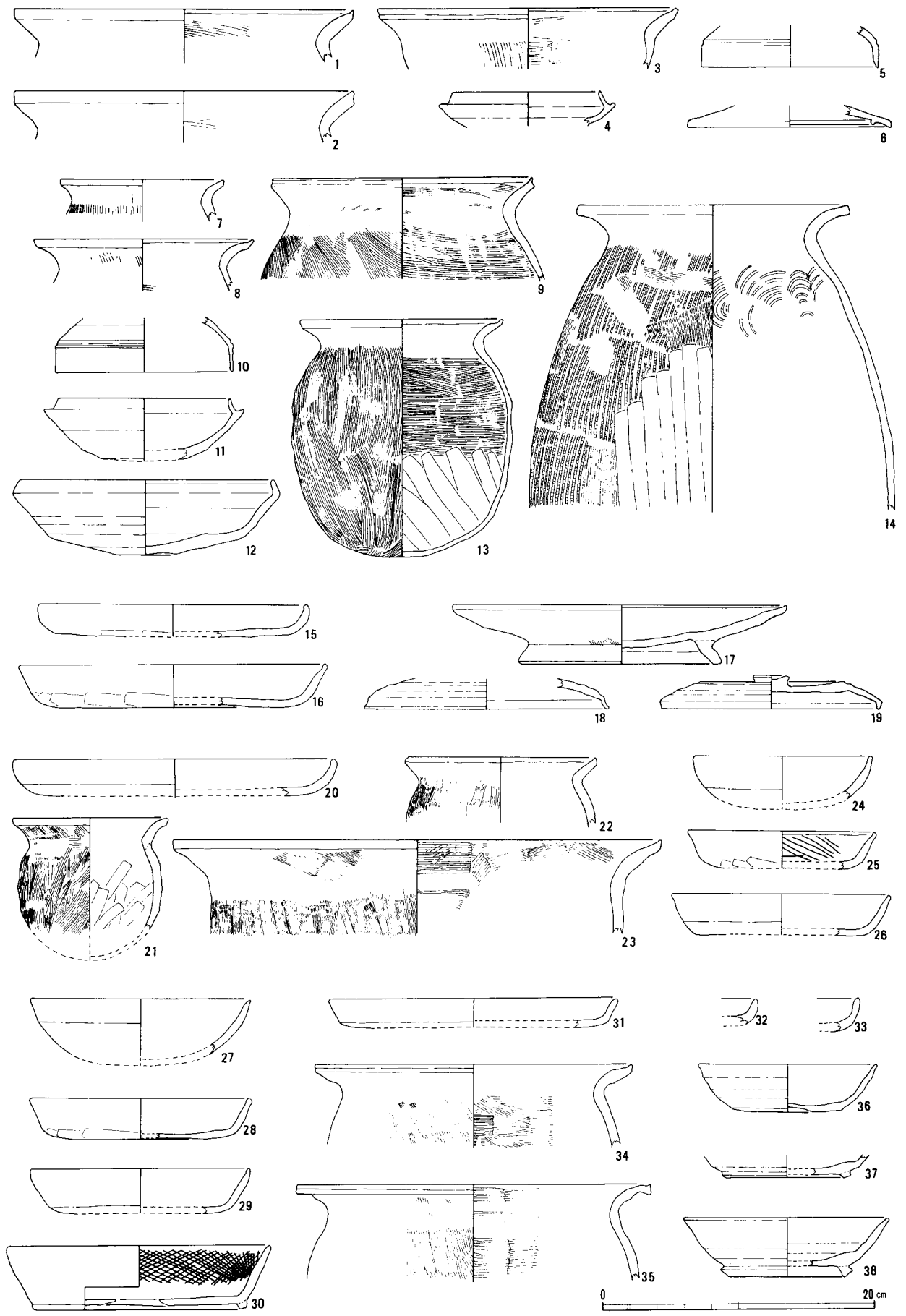
たい。

(1) 古墳時代～飛鳥時代

この時期の主な遺構は堅穴住居2棟と焼土2基で

遺物 番号	登録番号	出土遺構位置	器 種 形	口 径 cm	器 高 cm	底 径 cm	遺存度	形態の特徴	技 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
1	11-1020	第2次 SB18	D71 土師器 甕	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、内面にハ ケメが残る	並	並	浅黄橙10YR8/4	
2	11-1021	第2次 SB18	D71 土師器 甕	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、内面にハ ケメが残る	砂粒含	並	浅黄橙10YR8/4	
3	11-1022	第2次 SB18	D72 土師器 甕	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ、口縁部内面にハ ケメが残る	並	並	浅黄橙10YR8/4	
4	11-1019	第2次 SB18	D72 須恵器 杯身	不明	不明	—	口縁 小片	たちあがりは低 く内傾	ロクロナデ	良	良	青灰10BG6/1	
5	11-1017	第2次 SB18	D71 須恵器 蓋	不明	不明	—	口縁 小片	沈線	ロクロナデ	砂含	硬	灰N6/	
6	11-1018	第2次 SB18	D71 須恵器 蓋	不明	不明	—	口縁 小片	内面にかえり	ロクロナデ	良	良、自 然釉	青灰5B5/1	
7	11-1042	第2次 SB21	C75 土師器 甕	(12)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ	並	並	淡橙5YR8/3	
8	11-1041	第2次 SB21	C75 土師器 甕	(16)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、内面にハ ケメ	並	並	浅黄橙10YR8/3	
9	11-1040	第2次 SB21	C74 土師器 甕	(19)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	良、細 砂粒含	良	浅黄2.5YR/4	
10	11-1043	第2次 SB21	C75 須恵器 蓋	不明	不明	—	口縁 小片	沈線	ロクロナデ	良	良、自 然釉	灰白10Y7/1	
11	11-1039	第2次 SB21	C75 須恵器 杯	(13)	不明	—	口縁 1/2	たちあがりは低 く内傾	ロクロナデ、底部ロクロケ ズリ、ロクロ回転時計廻 り	良、石 含	硬	青灰5BG6/1	
12	11-1038	第2次 SB21	C75 須恵器 鉢	(19)	5.5	—	1/2	口縁内傾	ロクロナデ、底部ヘラ切り 未調整、ロクロ回転時計廻 り	良、砂 粒含	良	青灰5BG6/1	
13	11-1123	第2次 SF29	E76 土師器 甕	14.8	17.3	—	完形		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ、内面上半ハケメ・ 下半ヘラケズリ	砂粒含	良	黄橙7.5YR8/8	
14	11-1120	第2次 SF23	E75 土師器 甕	19.4	不明	—	上半ほ ぼ完形	長胴甕	外面全面にタタキ後、一部ハケ メ後、一部ヘラケズリ、内面同 心円スタンプ後ナデ	砂粒含	並	黄橙7.5YR8/8	
15	11-0024	第1次 SB2	B12 土師器 皿	(19)	2.3	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部外面 ヘラケズリ	良、砂 粒含	並	橙5YR7/8	
16	11-0029	第1次 SB2	B12 土師器 皿	(22)	3.1	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部外面 ヘラケズリ	砂粒含	良	黄橙10YR8/8	
17	11-0074	第1次 SB2	B12 土師器 付台皿	24	4.2	高台 14.6	1/2		口縁部～体部ヨコナデ、外 面体部下半にハケメが残る	良	良	橙5YR7/8	
18	11-0045	第1次 SB2	B12 須恵器 杯蓋	(18)	不明	—	口縁 1/2		ロクロナデ	砂粒含	良 自然釉	青灰5B5/1	
19	11-0071	第1次 SB2	B12 須恵器 杯蓋	(16)	2.4	—	天井部 完 口縁1/2	つまみ	ロクロナデ、天井部ヘラキ リ未調整、ロクロ回転時計 廻り	砂粒含	良	青灰5B6/1	
20	11-0034	第1次 SB4	B20 土師器 皿	不明	(2.7)	—	口縁小 片		口縁部ヨコナデ	良	良	橙5YR7/8	
21	11-0030	第1次 SB4	B20 土師器 甕	(12)	不明	—	上半 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ヘラケズリ、 粘土つなぎ痕	金雲母 含	良	淡黄2.5YR8/3	
22	11-0040	第1次 SB4	B20 土師器 甕	(14)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	砂粒含	並	にぶい黄橙10YR7/3	2次焼成
23	11-0032	第1次 SB4	B20 土師器 甕	(36)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ハケメが残る	砂粒含	並	浅黄橙7.5YR8/3	外面煤付着
24	11-1003	第2次 SB12	E67 土師器 碗	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	並	並	黄橙10YR8/6	
25	11-1002	第2次 SB12	E67 土師器 杯	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、底部ヘラ ケズリ	良	良	橙5YR7/8	放射状暗文
26	11-1001	第2次 SB12	E67 土師器 杯	(16)	3.0	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	黄橙7.5YR8/8	
27	11-1029	第2次 SB14	F68 土師器 碗	(16)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整?	砂粒含	並	浅黄橙7.5YR8/4	
28	11-1024	第2次 SB14	F68 土師器 杯	(16)	3.0	—	1/2		口縁部ヨコナデ、底部ヘラ ケズリ	良	良	黄橙7.5YR8/8	
29	11-1025	第2次 SB14	F68 土師器 杯	(16)	3.3	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部不明	良	良	黄橙7.5YR8/8	
30	11-1023	第2次 SB14	F68 土師器 杯	(19)	4.7	高台 15.4	ほぼ完 形	高台	底部にヘラで格子状に刻み をつけた後、高台を貼りつ ける	精良	良	橙5YR6/8	底部に穿孔、 格子状暗文
31	11-1026	第2次 SB14	F68 土師器 皿	不明	3.1	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部不明	良	良	黄橙7.5YR8/8	
32	11-1027	第2次 SB14	F68 土師器 皿	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ	良	良	黄橙7.5YR8/8	
33	11-1028	第2次 SB14	F68 土師器 皿	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ	良	良	浅黄橙7.5YR8/4	
34	11-1037	第2次 SB14	F68 土師器 甕	(23)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	砂粒含	並	浅黄橙10YR8/3	
35	11-1036	第2次 SB14	F68 土師器 甕	(26)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	砂粒含	並	外面暗褐7.5YR3/3 内面灰褐7.5YR6/2	
36	11-1032	第2次 SB14	F68 須恵器 杯	(13)	3.5	8.0	1/2	体部やや内弯	体部ロクロナデ、底部ヘラ キリ未調整、ロクロ回転時 計廻り	砂粒含	良	青灰5BG6/1	
37	11-1034	第2次 SB14	F68 須恵器 杯	不明	不明	高台 (9)	底部 1/2	高台は外に開く	ロクロナデ	細砂粒 含	やや不 良	明オリーブ灰2.5GY 7/1	

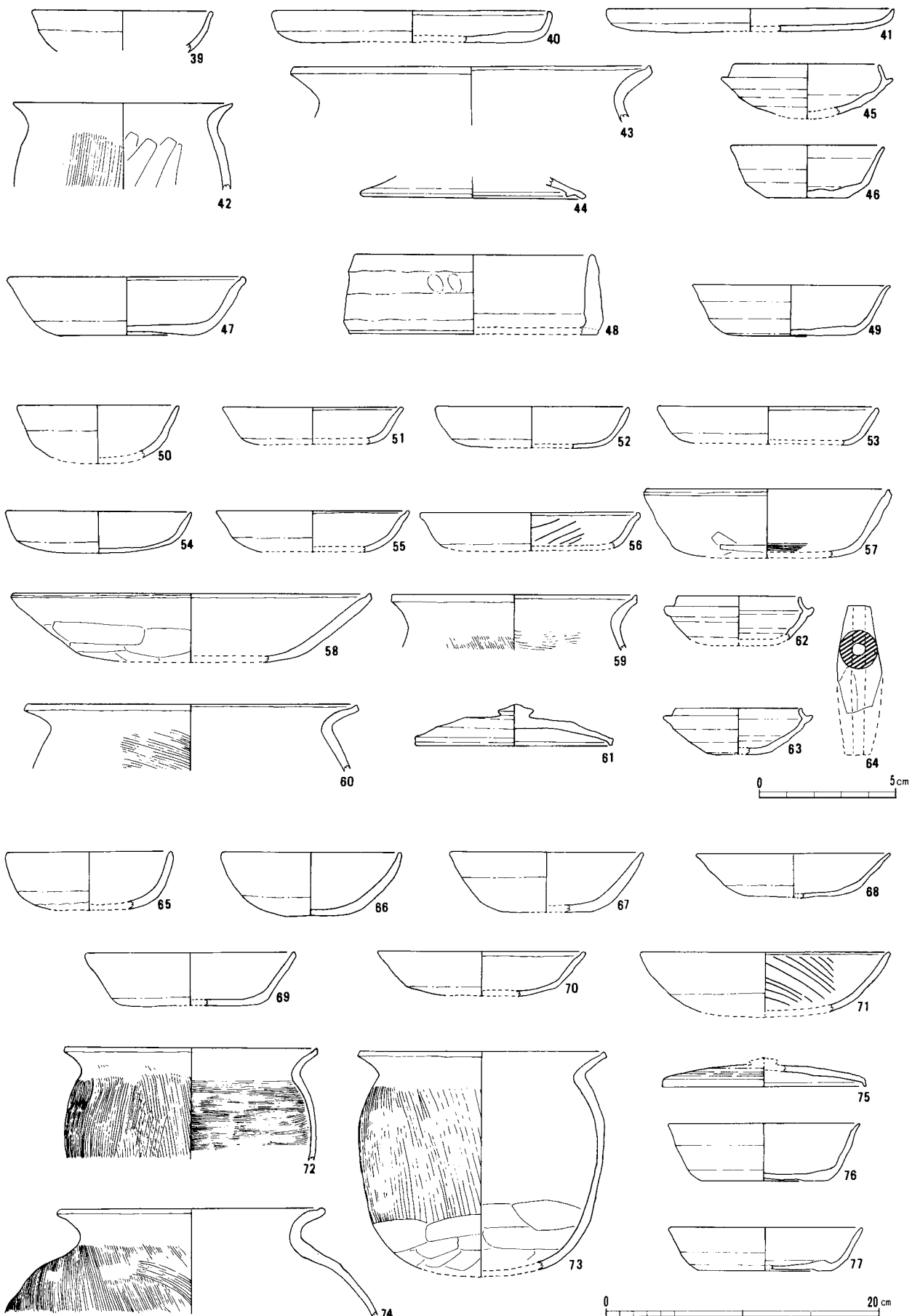
第6-1表 出土遺物観察表



第12図 出土遺物実測図 (1 : 4)

遺物 番号	登録番号	出土遺構位置	器 種 形	口 径 cm	器 高 cm	底 径 cm	遺存度	形態の特徴	技 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
38	11-1033	第2次 S B14	G70 須恵器 杯	(15)	4.3	高台 (10)	底部 1/2	高台は外に強烈 に開く	体部ロクロナデ	砂粒多 量含	並	灰白7.5Y8/1	
39	11-1011	第2次 S B19	F73 土師器 碗	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	並	並	黄橙10YR8/6	
40	11-1008	第2次 S B19	F73 土師器 皿	(20)	2.3	—	1/2		口縁部ヨコナデ、底部ヘラ ケズリ?	良	良	橙5YR7/8	
41	11-1007	第2次 S B19	F73 土師器 皿	(21)	1.6	—	1/2		口縁部ヨコナデ、底部ヘラ ケズリ?	細砂粒 含	良	浅黄橙10YR8/4	
42	11-1009	第2次 S B19	F73 土師器 甕	(16)	不明	—	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ヘラケズリ	並	並	浅黄橙10YR8/3	
43	11-1010	第2次 S B19	F73 土師器 甕	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ	並	並	浅黄橙10YR8/3	
44	11-1014	第2次 S B19	F73 須恵器 杯蓋	不明	不明	—	口縁 小片	内面に返り	ロクロナデ	細砂粒 含	並、自 然釉	灰白10Y8/1	
45	11-1012	第2次 S B19	F73 須恵器 杯身	(11)	不明	—	1/4		ロクロナデ、底部ロクロケ ズリ	細砂粒 含	硬	青灰10BG6/1	
46	11-1013	第2次 S B19	F73 須恵器 杯	(11)	3.8	6.0	体部1/2 底部1/2	体部は直線的に 外傾	ロクロナデ、底部未調整	砂粒含	並	灰白10Y7/1	
47	11-1048	第2次 S B22 C76 包含層	G75 土師器 杯	(17)	4.3	—	体部1/2 底部1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	砂粒含	良	橙5YR7/8	
48	11-1049	第2次 S B22	G75 製塩土器	不明	6.8	不明	体部 小片	志摩式	内面ナデ、外面未調整、指 頭圧痕あり	砂粒含	並	橙5YR7/8	
49	11-1047	第2次 S B22	G75 須恵器 杯	14.4	3.7	(10)	1/2	体部は直線的に 外傾	ロクロナデ、底部ロクロケ ズリ、ロクロ回転時計廻り	砂粒含	良	明青灰10BG7/1	
50	11-1084	第2次 S K13	G67 土師器 碗	(12)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	並	並	淡黄2.5Y8/3	
51	11-1088	第2次 S K13	G67 土師器 杯	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	黄橙7.5YR8/8	
52	11-1086	第2次 S K13	G67 土師器 杯	(14)	3.1	—	口縁 体部1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
53	11-1087	第2次 S K13	G67 土師器 杯	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	黄橙7.5YR8/8	
54	11-1085	第2次 S K13	G67 土師器 杯	13.4	3.1	—	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
55	11-1089	第2次 S K13	G67 土師器 杯	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
56	11-1090	第2次 S K13	G67 土師器 杯	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ	精良	良	橙5YR7/8	放射状暗文
57	11-1091	第2次 S K13	G67 土師器 杯	不明	不明	—	小片		口縁部ヨコナデ、底部外面 ヘラケズリ、底部内面ハケ メ	良	良	橙5YR7/8	
58	11-1092	第2次 S K13	G67 土師器 甕	(26)	(5)	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部外面 ヘラケズリ	良	良	橙5YR7/8	
59	11-1098	第2次 S K13	G67 土師器 甕	不明	不明	—	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	細砂粒 含	並	淡黄2.5Y8/4	
60	11-1097	第2次 S K13	G67 土師器 甕	(24)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	細砂粒 含	並	淡黄2.5Y8/3	
61	11-1093	第2次 S K13	G67 須恵器 杯蓋	14.4	3.0	—	完形	つまみ	ロクロナデ、天井部ロクロ ケズリ、ロクロ回転時計廻 り	砂粒含	良	オリーブ灰2.5GY6/ 1	
62	11-1095	第2次 S K13	G67 須恵器 杯身	(9)	不明	—	口縁 1/4	たちあがりは低 く内傾	ロクロナデ	細砂粒 含	硬	青灰5BG6/1	
63	11-1094	第2次 S K13	G67 須恵器 杯身	(9)	3.3	—	1/2	たちあがりは低 く内傾	ロクロナデ、底部ロクロケ ズリ	細砂粒 含	硬	青灰5BG6/1	
64	11-1099	第2次 S K13	G67 土製品 土甕	全長 不明	径 不明	孔径 0.5	1/2	細長い		土師質	良	黒N2/	重量6.7g残
65	11-1103	第2次 S K20	D73 土師器 碗	(12)	不明	—	口縁 体部1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整、粘土巻き上げ痕	並	並	灰褐5YR6/2	
66	11-1104	第2次 S K20	E74 土師器 碗	13.0	4.7	—	完形	底部平底	口縁部ヨコナデ、底部未調 整、指押さえ	並	良	淡黄2.5YR8/4	
67	11-1105	第2次 S K20	D73 土師器 碗	(14)	4.3	—	1/4	底部平底	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	並	並	浅黄橙7.5YR8/4	
68	11-1112	第2次 S K20	E73 土師器 杯	(14)	3.2	—	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	並	並	浅黄橙10YR8/3	
69	11-1109	第2次 S K20	D73 土師器 杯	(15)	3.8	—	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	砂粒含	良	橙5YR7/6	
70	11-1113	第2次 S K20	D73 土師器 杯	(14)	不明	—	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
71	11-1111	第2次 S K20	D73 土師器 杯	(18)	不明	—	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	放射状暗文
72	11-1108	第2次 S K20	D・E73 土師器 甕	(18)	不明	—	上半 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	金雲母 含	並	浅黄橙10YR8/3	
73	11-1107	第2次 S K20	D73 土師器 甕	(18)	不明	—	1/4		口縁部ヨコナデ、胴部外面上 半ハケメ・下半ヘラケズリ、 胴部内面上半ナデ・下半ヘラ ケズリ	砂粒含	並	浅黄橙10YR8/3	
74	11-1106	第2次 S K20	E74 土師器 甕	19.0	不明	—	上半部 のみ完	球胴状	口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	良	良	淡黄2.5YR8/4	

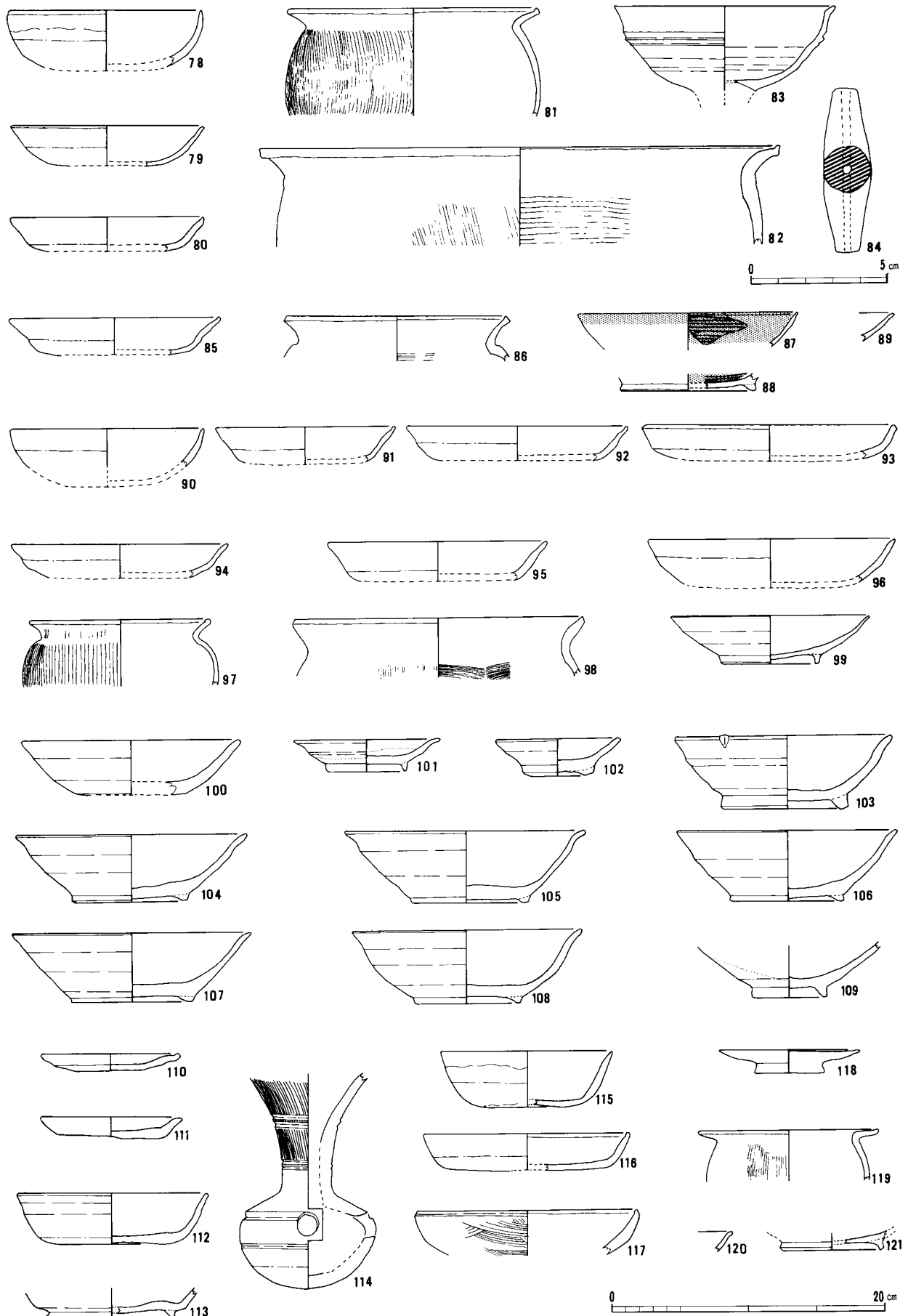
第6-2表 出土遺物観察表



第13図 出土遺物実測図 (1 : 4, 64は1 : 2)

遺物番号	登録番号	出土遺構位置	器種 器形	口径 cm	器高 cm	底径 cm	遺存度	形態の特徴	技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
75	11-1102	第2次 D73 SK20	須恵器 杯蓋	(15)	不明	-	1/2		ロクロナデ、天井部ロクロケズリ、ロクロ回転逆時計廻り	砂粒含	良	オリーブ灰 2.5GY6/1	
76	11-1100	第2次 D73 SK20	須恵器 杯	(14)	4.2	9.0	1/2	体部は直線的に外傾	ロクロナデ、底部ヘラ切り後ナデ消、ロクロ回転逆時計廻り	砂粒含	良	青灰5BG6/1	
77	11-1101	第2次 D73 SK20	須恵器 杯	(14)	3.1	(10)	1/2	体部は直線的に外傾	ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整	砂粒多量含	良	青灰5BG6/1	
78	11-1050	第2次 D78 SB28	土師器 碗	(14)	不明	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土紐巻き上げ痕	並	並	淡黄2.5YR8/3	
79	11-1051	第2次 D78 SB28	土師器 杯	(14)	不明	-	体部1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	並	浅黄橙7.5YR8/4	
80	11-1052	第2次 D78 SB28	土師器 杯	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	橙5YR7/8	
81	11-1054	第2次 D78 SB28・包含層	土師器 甕	(18)	不明	-	上半1/2		口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ	砂粒含	良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄褐10YR5/3	2次焼成による変色と付煤
82	11-1053	第2次 D78 SB28	土師器 甕	(38)	不明	-	口縁1/2		口縁部ヨコナデ、体部内外面ハケメ	良	良	黄橙10YR8/8	
83	11-1055	第2次 D78 SB28 D76・C77包含層	陶器 灰釉高杯	(16)	不明	不明	杯部1/2	沈線2条	杯部ロクロナデ	精良	硬、自然釉	灰白5Y7/1	
84	11-1056	第2次 D78 SB28	土製品 土鉢	全長6.0	径1.8	孔径0.3	完形	細長い		土師質	並	浅黄橙10YR8/4	重量12.3g
85	11-1059	第2次 SB7 (F70 pit3)	土師器 杯	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	並	橙7.5YR7/6	
86	11-1058	第2次 SB7 (F72 pit7)	土師器 甕	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ、体部内面ハケメ	砂粒含	並	内面 にぶい黄橙 10YR7/3 外面 淡橙5YR8/3	
87	11-1065	第2次 SB7 (F70 pit3)	黒色土器 碗	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ、内面ヘラミガキ内面と外面口縁部いぶし焼き	並	並	浅黄橙10YR8/3	A類
88	11-1066	第2次 SB7 (F71 pit2)	黒色土器	不明	不明	高台(10)	底部1/2	高台外傾	内面ヘラミガキ内面いぶし焼き	雲母・砂粒含	並	にぶい赤褐5YR5/3	A類
89	11-1062	第2次 SB7 (G71 pit2)	陶器 灰釉	不明	不明	不明	口縁小片		ロクロナデ、内外面施釉	良	良	灰白2.5Y8/2	
90	11-1070	第2次 SB10 (F67 pit1)	土師器 碗	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ	並	並	淡黄2.5YR8/3	
91	11-1067	第2次 SB10 (F67 pit2)	土師器 杯	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	外面 浅黄橙7.5YR8/3 内面 明赤褐5YR5/6	
92	11-1068	第2次 SB10 (E66 pit5)	土師器 杯	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ	並	並	橙5YR7/8	
93	11-1071	第2次 SB10 (F67 pit2)	土師器 皿	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ	砂粒含	良	黄橙7.5YR7/8	
94	11-1078	第2次 SB17 (F72 pit5)	土師器 杯	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ、指押さえ	並	良	明赤褐5YR5/8	
95	11-1077	第2次 SB17 (F72 pit5)	土師器 杯	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ	良	良	橙5YR6/8	
96	11-1076	第2次 SB17 (F72 pit5)	土師器 杯	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ	良	良	橙2.5YR7/8	
97	11-1074	第2次 SB17 (E72 pit2)	土師器 甕	(13)	不明	-	上半1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面ハケメ、内面ナデ	並	並	にぶい橙5YR6/4	二次焼成
98	11-1075	第2次 SB17 (E72 pit2)	土師器 甕	不明	不明	-	口縁小片		口縁部ヨコナデ、胴部内外面ハケメ	並	並	淡黄2.5Y8/4	
99	11-1073	第2次 SB17 (F72 pit8)	陶器 灰釉皿	(14)	3.5	高台(7)	1/2		ロクロナデ	細砂粒含	良、自然釉	灰白5Y7/1	
100	11-0069	第1次 SE8 C28	土師器 杯	(16)	4.0	(8)	体部1/2		ロクロナデ、底部糸切り痕	砂粒多量含	良	にぶい褐7.5YR5/4	ロクロ製
101	11-0001	第1次 SE8 C28	陶器 灰釉小皿	11	2.4	高台6	1/2		ロクロナデ、漬け掛けによる施釉	良	良	灰白10Y8/1	
102	11-0064	第1次 SE8 C28	陶器 山皿	(9)	2.7	高台5.2	体部1/2 底部完		体部ロクロナデ、底部糸切り後ナデ、靱殻痕	砂粒含	良、自然釉	灰白10Y8/1	重ね焼き痕
103	11-0072	第1次 SE8 C28	陶器 山茶碗	(16)	5.3	高台9.0	1/2	輪花(数不明)	体部ロクロナデ、底部糸切り後ナデ	砂粒含	良	白10Y6/1	
104	11-0073	第1次 SE8 C28	陶器 山茶碗	15.8	4.9	高台8.4	ほぼ完		体部ロクロナデ、底部糸切り後ナデ	砂粒多量含	自然釉	灰白10Y7/1	
105	11-0003	第1次 SE8 C28	陶器 山茶碗	17.6	5.3	高台8.6	体部1/2 底部完		体部ロクロナデ、ロクロ回転逆時計廻り、底部糸切り痕	砂粒含	良、自然釉	灰白10Y7/1	
106	11-0061	第1次 SE8 C28	陶器 山茶碗	(16)	5.2	高台8.4	1/2		体部ロクロナデ、ロクロ回転逆時計廻り、底部糸切り、靱殻痕	砂粒含	良	灰白10Y7/1	
107	11-0002	第1次 SE8 C28	陶器 山茶碗	(17)	5.0	高台8.8	体部1/2 底部完		体部ロクロナデ、底部糸切り	砂粒含	やや軟	灰白10Y8/1	
108	11-0008	第1次 SE8 C28	陶器 山茶碗	(17)	5.3	高台7.6	体部1/2 底部完		体部ロクロナデ、底部糸切り	砂粒含	良、自然釉	灰白10Y7/1	
109	11-0062	第1次 SE8 C28	磁器 白磁碗	不明	不明	高台5.6	下半1/2	ケズリ出し高台	体部ロクロナデ、外面ロクロケズリ、内面と外面体部に施釉	精良	良	灰白10Y7/1	
110	11-0007	第1次 SD1 B8	土師器 小皿	9.8	1.3	-	ほぼ完形		口縁部ヨコナデ、指押さえ、底部未調整	砂粒含	良	にぶい黄橙10YR6/4	
111	11-0006	第1次 SD1 B8	土師器 小皿	10.2	1.6	-	ほぼ完形		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	橙7.5YR7/6	

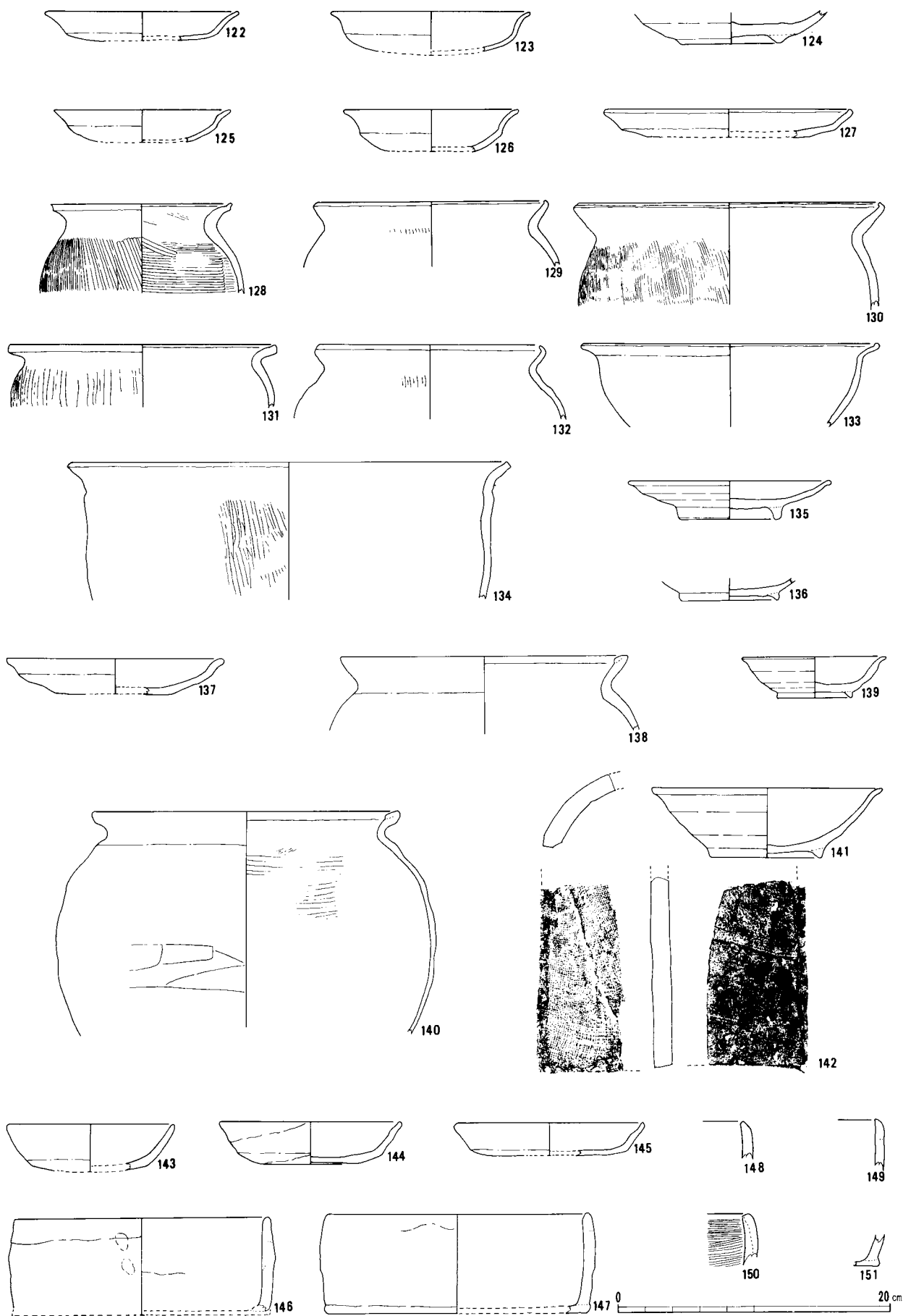
第6-3表 出土遺物観察表



第14図 出土遺物実測図 (1 : 4, 84は1 : 2)

遺物 番号	登録番号	出土遺構位置	器 種 器 形	口 径 cm	器 高 cm	底 径 cm	遺 存 度	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
112	11-0063	第1次 SD1	B8 須恵器 杯	(14)		3.7	1/2	体部は直線的に 外傾	体部ロクロナデ、底部ヘラ キリ未調整、ロクロ回転時 計廻り	砂粒含	並	青灰5BG5/1	
113	11-1116	第2次 SD1	G79 須恵器 杯	不明	不明	高台 (10)	底部 1/4	高台外傾	体部ロクロナデ、底部ロク ロケズリ、ロクロ回転時計 廻り	砂粒含	硬	外面 暗青灰5B4/1 内面 青灰B6/1	
114	11-0011	第1次 SD1	B8 須恵器 盃	不明	不明	-	体部・ 頸部完	体部に沈線 頸部に沈線	底部ケズリのちナデ、ロク ロ回逆時計廻り	砂粒含	良、自 然釉	青灰5B6/1	
115	11-1126	第2次 SD11	D67 土師器 碗	12.6	3.6	-	1/2	底部平底	口縁部ヨコナデ、底部未調 整、粘土紐巻き上げ痕	並	並	浅黄橙10YR8/3	
116	11-1128	第2次 SD11	G69 土師器 杯	(15)	2.7	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	並	黄橙7.5YR8/8	
117	11-1127	第2次 SD11	C66 土師器 杯	不明	不明	-	口縁 小片		内面ナデ、外面ハケメ	並	並	にぶい橙7.5YR7/4	
118	11-1129	第2次 SD11	C66 土師器 台付小皿	(10)	1.7	高台 5.0	体部1/2 台部完 形		ロクロナデ、底部糸切り痕	粗、砂 粒含	並	黄橙10YR8/6	ロクロ製
119	11-1130	第2次 SD11	C66 土師器 盃	(13)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	砂粒含	並	にぶい褐7.5YR5/3	
120	11-1132	第2次 SD11	E67 陶器 緑釉	不明	不明	-	口縁 小片	口縁端部外反	内外面とも淡緑色に施釉	精良 硬質	硬	明オリープ灰 2.5GY7/1	
121	11-1133	第2次 SD11	D67 陶器 灰釉	不明	不明	高台 (7)	底部 1/2		ロクロナデ	精良	硬	灰白7.5Y7/1	
122	11-1119	第2次 SD24	E79 土師器 杯	(14)	2.1	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	黄橙7.5YR8/8	
123	11-1118	第2次 SD24	E78 土師器 杯	(14)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	砂粒含	並	黄橙7.5YR8/8	
124	11-1117	第2次 SD27	E78 陶器 山茶碗	不明	不明	高台 7.0	底部は ほぼ完	高台逆三角形	ロクロナデ、底部糸切り痕、 粉殻痕	砂粒含	良	灰白7.5Y8/1	
125	11-0038	第1次 SK6	B23 土師器 杯	(13)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	軟	並	浅黄橙10YR8/4	
126	11-0041	第1次 SK6	B24 土師器 杯	(13)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	砂粒含	不良	橙5YR7/8	
127	11-1115	第2次 SK6	G72 土師器 皿	(18)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	並	並	橙5YR6/6	
128	11-1114	第2次 SK6 D77 包含層	G72 土師器 盃	(13)	不明	-	上半 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面にハケメ	並	並	にぶい橙5YR6/4	
129	11-0042	第1次 SK6	B28 土師器 盃	(17)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 にハケメが残る	並	良	にぶい黄橙10YR7/4	
130	11-0033	第1次 SK6	B24 土師器 盃	(22)	不明	-	上半 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	砂粒含	並	にぶい黄橙10YR6/3	
131	11-0036	第1次 SK6	B28 土師器 盃	(20)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	砂粒含	並	浅黄橙7.5YR8/4	
132	11-0043	第1次 SK6	B24 土師器 盃	(16)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	砂粒含	並	浅黄橙7.5YR8/3	
133	11-0055	第1次 SK6	B28 土師器 盃	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部ヨコナデ	砂粒含	並	橙5YR7/8	
134	11-0053	第1次 SK6	B28 土師器 盃	不明	不明	-	口縁 小片		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	並	並	浅黄橙10YR8/3	
135	11-0076	第1次 SK6	B28 陶器 灰釉皿	(15)	2.8	高台 (7)	1/2		ロクロナデ、底部ロクロケ ズリ、施釉(刷毛塗り)、ロ クロ回転時計廻り	良	並	浅黄橙7.5YR8/3	
136	11-0037	第1次 SK6	B28 陶器 灰釉	不明	不明	高台 (7)	底部 1/4		ロクロナデ、底部糸切り痕	良	良	灰7.5Y6/1	
137	11-0068	第1次 SK9	C40 土師器 杯	(16)	2.6	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	並	並	にぶい黄橙10YR7/2	
138	11-0065	第1次 SK9	C40 土師器 盃	(21)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ	並	並	淡黄2.5Y8/3	
139	11-0004	第1次 SK9	C40 陶器 山皿	10.6	3.0	高台 5.4	1/2		ロクロナデ、底部糸切り痕	良	良、自 然釉	灰白10Y7/1	
140	11-1081	第2次 SK16	F69 土師器 盃	(22)	不明	-	上半部 1/2	口縁端部折り返 す	口縁部ヨコナデ、胴部内面 ハケメが残る、胴部外面下 半ヘラケズリ	砂粒含	並	浅黄橙10YR8/3 にぶい黄橙10YR4/3	
141	11-1082	第2次 SK16	F69 陶器 山茶碗	(17)	5.1	高台 8.2	底部完 体部 1/2		ロクロナデ、底部糸切り後ナ デ	砂粒含	良、自 然釉	灰白2.5GY8/1	
142	11-1083	第2次 SK16	F69 瓦 丸瓦	全長 不明	幅 不明	厚さ 1.5	小片		凸面ナデ・ケズリ、凹面布 目痕、端面ケズリ、側面ケ ズリ	砂粒含	良	灰白10Y7/1	
143	11-1143	第2次 pit2	F75 土師器 碗	(12)	不明	-	口縁 1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	砂粒含	並	浅黄橙7.5YR8/6	
144	11-1142	第2次 pit2	F75 土師器 杯	(13)	3.1	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整、粘土紐巻き上げ痕	良	良	橙5YR7/8	
145	11-1141	第2次 pit2	F75 土師器 杯	(14)	2.4	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	砂粒含	良	橙5YR7/8	
146	11-1134	第2次 pit2	F75 製塩土器	不明	不明	不明	小片	志摩式	内面ナデ、外面押さえ痕跡 あり、粘土紐巻き上げ痕	砂粒多 含	並	橙5YR7/8	
147	11-1136	第2次 pit2	F75 製塩土器	不明	7.2	不明	小片	志摩式	内面ナデ、粘土紐巻き上げ 痕、外面未調整、底部モミ ガラク	砂粒多 含	並	橙5YR7/8	
148	11-1139	第2次 pit2	F75 製塩土器	不明	不明	不明	口縁 小片	志摩式	内面ナデ、外面未調整	砂粒多 含	並	にぶい黄橙10YR7/4	

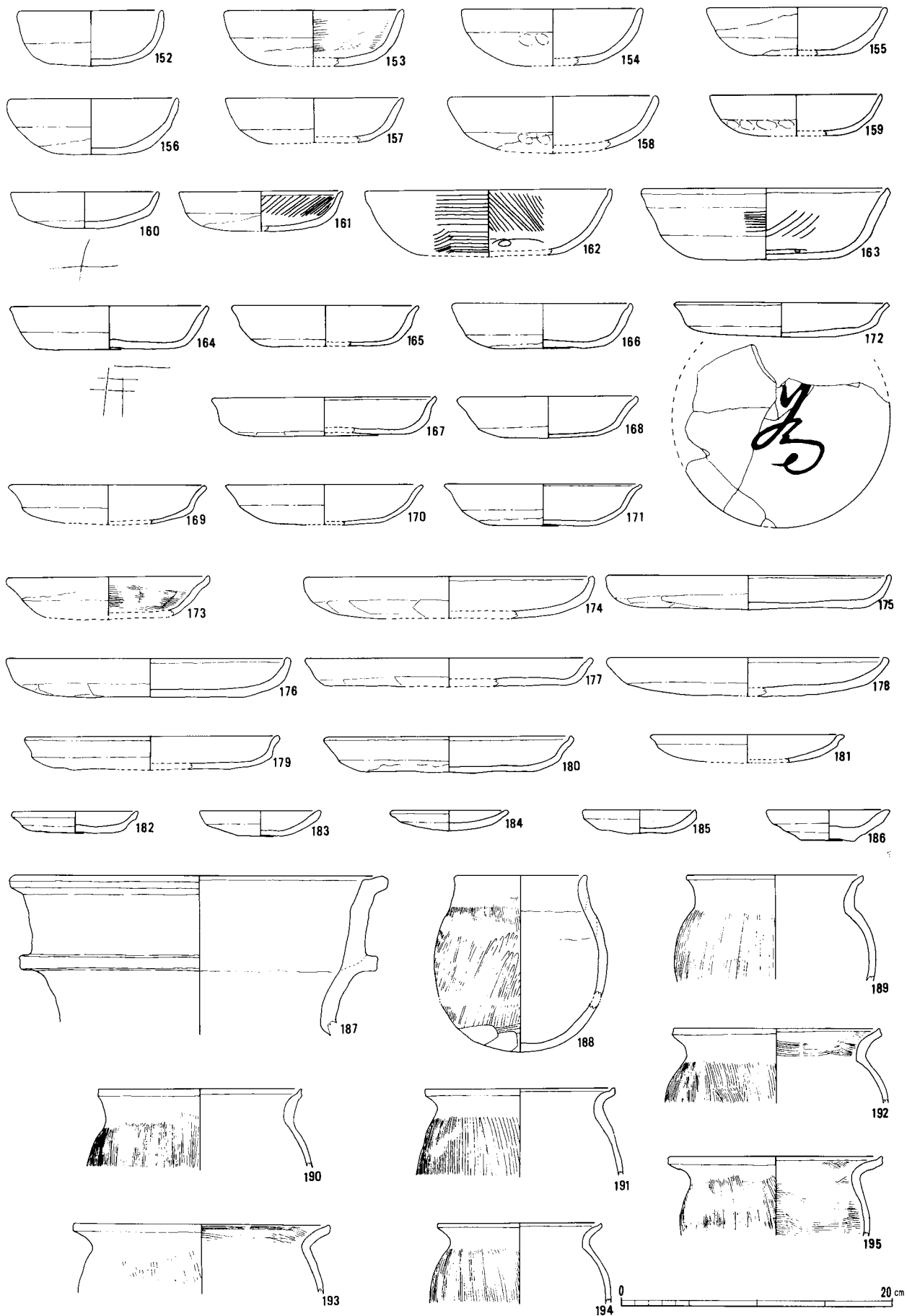
第6-4表 出土遺物観察表



第15図 出土遺物実測図 (1 : 4)

遺物番号	登録番号	出土遺構位置	器種	口径	器高	底径	遺存度	形態の特徴	技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
			形状	cm	cm	cm							
149	11-1138	第2次 F75 pit2	製塩土器	不明	不明	不明	口縁 小片	志摩式	内面ナデ、外面未調整、粘土紐巻き上げ痕	砂粒多 含	並	橙5YR7/8	
150	11-1140	第2次 F75 pit2	製塩土器	不明	不明	不明	口縁 小片	志摩式	内面ハケメ、外面未調整か?	砂粒多 含	並	橙5YR7/8	
151	11-1137	第2次 F75 pit2	製塩土器	不明	不明	不明	底部 小片	志摩式	内面ナデか?、外面未調整、底部モミガラ痕	砂粒多 含	並	赤橙10R6/8	
152	11-1209	第2次 E76 包含層	土師器 碗	10.4 11.6	4.1	-	完形		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	並	黄橙10YR8/6	歪みあり
153	11-1198	第2次 F79 包含層	土師器 碗	(13)	4.1	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、内面体部ハケメ、内面底部ナデ、粘土巻き上げ痕	並	並	浅黄橙10YR8/3	
154	11-1197	第2次 F76 包含層	土師器 碗	(13)	4.2	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、指押さえ	並	並	浅黄橙10YR8/3	
155	11-1199	第2次 E79 包含層	土師器 碗	(13)	3.0	-	3/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土巻き上げ痕	並	並	浅黄橙10YR8/3	
156	11-0028	第1次 C20 包含層	土師器 碗	(13)	4.1	-	3/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土巻き上げ痕	良	並	橙5YR7/6	
157	11-1208	第2次 F75 包含層	土師器 碗	(13)	3.3	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	並	淡黄2.5Y8/3	
158	11-1200	第2次 E79 包含層	土師器 碗	(15)	不明	-	3/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、指押さえ、粘土巻き上げ痕	砂粒含	並	浅黄橙10YR8/3	
159	11-1210	第2次 B75 包含層	土師器 碗	12.6	3.0	-	口縁完 底部1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整、指押さえ	砂粒含	並	橙5YR6/8	
160	11-0019	第1次A52 包含層	土師器 碗	(11)	2.7	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部ケズリのちナデ	良	並	橙5YR6/8	底部外面にヘラ記号「十」
161	11-1220	第2次 E76 包含層	土師器 杯	(12)	2.9	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土巻き上げ痕	良	良	橙5YR7/8	放射状暗文
162	11-1219	第2次 F76 包含層	土師器 杯	(18)	(5)	-	1/4		外面ヘラミガキ	精良	良	橙5YR7/8	放射状暗文、ラセン暗文
163	11-1217	第2次 F67 包含層	土師器 杯	(18)	5.2	-	1/2		口縁部ヨコナデ、外面ヘラミガキ、未調整	精良	良	橙5YR7/8	放射状暗文、ラセン暗文
164	11-1216	第2次 F77 包含層	土師器 杯	(14)	3.2	-	口縁1/2 底部完		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	並	橙5YR7/8	底部外面にヘラ記号
165	11-1218	第2次 F75 包含層	土師器 杯	(13)	3.0	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	良	橙5YR6/8	
166	11-1211	第2次 F75 包含層	土師器 杯	(13)	3.3	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土紐巻き上げ痕、指押さえ	砂粒含	並	浅黄橙10YR8/4	
167	11-1207	第2次 G76 包含層	土師器 杯	(16)	2.7	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	良	良	橙5YR7/8	
168	11-1145	第2次 C72 pit6	土師器 杯	(13)	3.0	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	並	黄橙7.5YR8/8	
169	11-1214	第2次 G77 包含層	土師器 杯	(14)	不明	-	口縁~ 体部1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	並	黄橙7.5YR8/8	
170	11-1213	第2次 G79 包含層	土師器 杯	(14)	2.9	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	不良	浅黄橙7.5YR8/6 灰白10YR8/2	
171	11-1212	第2次 F76 包含層	土師器 杯	(15)	3.0	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土紐巻き上げ痕	良	並	黄橙10YR8/6	
172	11-1148	第2次 G78 pit6	土師器 杯	(14)	2.5	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	橙5YR7/8	底部外面に墨書「為」
173	11-1215	第2次 G74 包含層	土師器 杯	(15)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土紐巻き上げ痕、内面体部ハケメ	並	並	浅黄橙7.5YR8/6	
174	11-1202	第2次 D78 包含層	土師器 皿	(21)	(3)	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	良	良	黄橙7.5YR7/8	
175	11-1203	第2次 F76 包含層	土師器 皿	20.8	2.6	-	3/4		口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	砂粒含	良	橙5YR7/8	
176	11-1204	第2次 G75 包含層	土師器 皿	(21)	2.9	-	体部1/2 底部完		口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	良	良	橙5YR7/8	
177	11-1205	第2次 G76 包含層	土師器 皿	(21)	2.1	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	良	良	黄橙7.5YR8/8	
178	11-0022	第1次 B44 包含層	土師器 皿	(20)	2.8	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	良	黄橙7.5YR8/8	
179	11-0020	第1次 C20 包含層	土師器 皿	(19)	2.5	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	橙5YR8/8	
180	11-1206	第2次 F76 包含層	土師器 皿	(18)	2.6	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調整、粘土紐巻き上げ痕	良	良	橙5YR7/8	
181	11-1201	第2次 E78 包含層	土師器 皿	(14)	不明	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	黄橙10YR8/6	
182	11-0047	第1次 B16 包含層	土師器 小皿	9.2	1.6	-	ほぼ完 形		口縁部ヨコナデ、底部未調整	砂粒含	良	浅黄橙10YR8/3	
183	11-0048	第1次 B16 包含層	土師器 小皿	8.8	1.9	-	完形		口縁部ヨコナデ、底部未調整	砂粒含	並	黄橙7.5YR8/8	
184	11-1195	第2次 F68 包含層	土師器 小皿	8.3	1.5	-	口縁1/2 底部ほ ぼ完		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	並	黄橙10YR8/8	
185	11-1196	第2次 G79 包含層	土師器 小皿	8.2	2.3	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整	並	並	灰白10YR8/2	

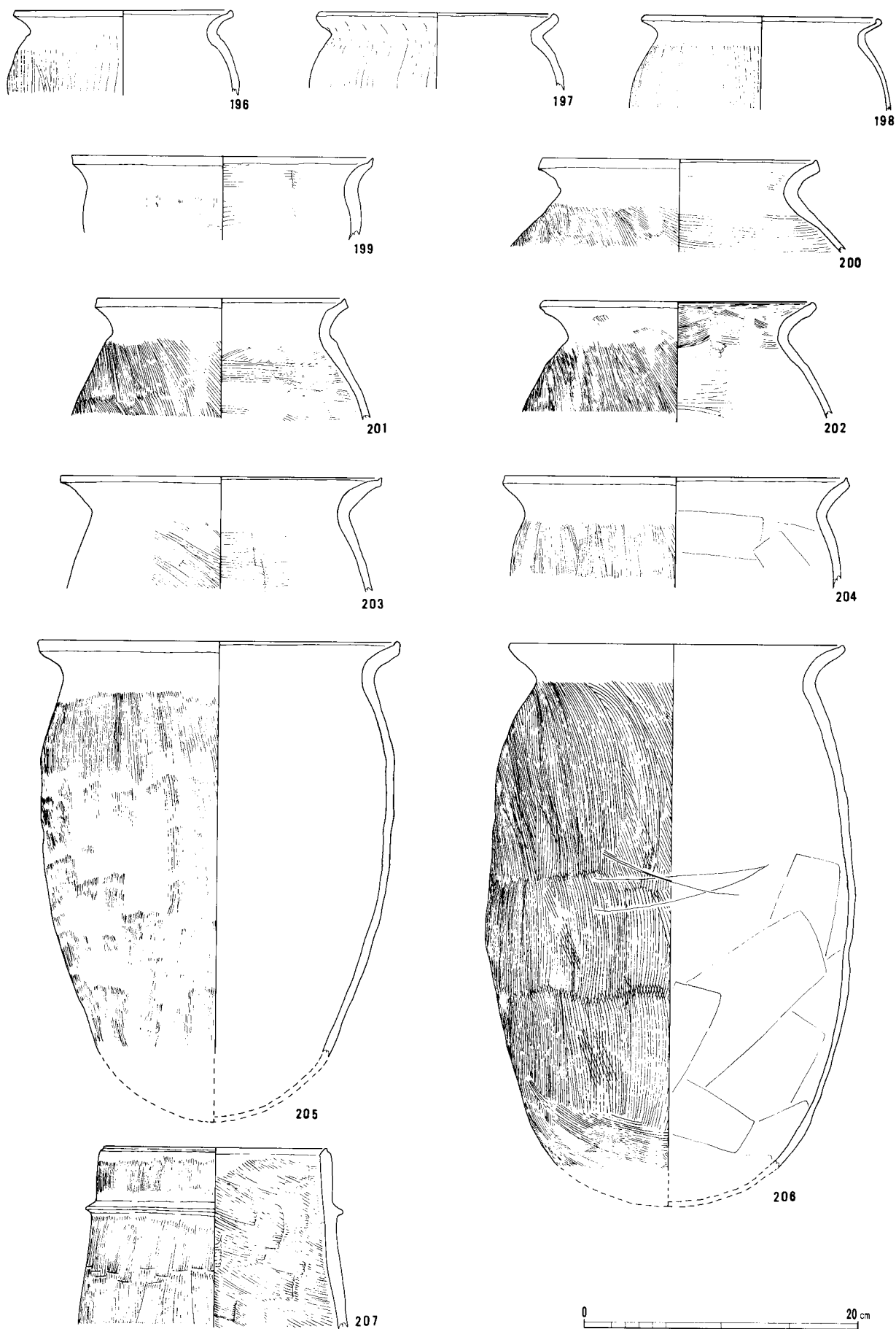
第6-5表 出土遺物観察表



第16图 出土遺物実測図 (1 : 4)

遺物番号	登録番号	出土遺構位置	器種 器形	口径 cm	器高 cm	底径 cm	遺存度	形態の特徴	技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
186	11-0018	第1次包含層 C36	土師器 小皿	8.8	2.3	-	口縁 $\frac{1}{2}$ 底部完		ロクロナデ、底部糸切り痕	並	並	にぶい褐7.5YR6/3	ロクロ製
187	11-0052	第1次包含層 B12	土師器 壺	(28)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$	二重口縁	ヨコナデ	砂粒含	良	褐7.5YR4/6	
188	11-1147	第2次C76 pit5 C76-D76 包含層	土師器 甕	9.6	(13)	-	上半完 形下半 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ、底部外 面ヘラケズリ、粘土巻き痕	並	並	淡橙5YR8/4 灰褐5YR5/2	
189	11-1224	第2次包含層 F76	土師器 甕	(13)	不明	-	上半 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	並	並	淡黄橙10YR8/4	
190	11-1225	第2次包含層 E75	土師器 甕	(15)	不明	-	口縁 $\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	並	並	橙2.5YR7/6 黄灰2.5Y5/1	
191	11-1229	第2次包含層 G75	土師器 甕	(14)	不明	-	上半 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	並	並	淡黄2.5Y8/3	
192	11-1228	第2次包含層 E78	土師器 甕	(15)	不明	-	口縁 $\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ、口縁部 内面にハケメが残る	並	並	淡黄2.5Y8/3	
193	11-0023	第1次包含層 C20	土師器 甕	(19)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ、口縁部内面にハケ メが残る	並	並	にぶい褐7.5YR5/3	
194	11-1122	第2次包含層 E75	土師器 甕	(12)	不明	-	口縁 $\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	砂粒含	並	淡黄2.5Y8/3	
195	11-0016	第1次包含層 C20	土師器 甕	(16)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	並	並	明赤褐5YR5/6	内面煤付着
196	11-0014	第1次包含層 A20	土師器 甕	(16)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ	並	不良	淡黄褐7.5YR8/3	二次焼成
197	11-0044	第1次包含層 B28	土師器 甕	(17)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ	並	並	橙2.5YR7/6	
198	11-1223	第2次包含層 F76	土師器 甕	(17)	不明	-	上半 $\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	砂粒含	並	橙2.5YR7/8	
199	11-1121	第2次包含層 E75	土師器 甕	(22)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	砂粒含	並	黄橙7.5YR8/8	
200	11-1226	第2次包含層 F78	土師器 甕	(20)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	並	並	淡黄2.5Y8/4	
201	11-1227	第2次包含層 C77	土師器 甕	(18)	不明	-	上半 $\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	並	並	淡黄橙10YR8/4	
202	11-0017	第1次包含層 B8	土師器 甕	(20)	不明	-	上半 $\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	良	並	淡黄橙10YR8/3	
203	11-1222	第2次包含層 B76	土師器 甕	(23)	不明	-	口縁 $\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハケメ	並	並	淡黄2.5Y8/3	外面に煤付着
204	11-1221	第2次包含層 G79	土師器 甕	(25)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ヘラケズリ	細砂粒含	並	にぶい黄橙10YR7/4	
205	11-1231	第2次包含層 G76	土師器 甕	(26)	不明	-	$\frac{3}{4}$		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面ナデ	並	並	淡黄橙10YR8/4	
206	11-1230	第2次包含層 F76	土師器 甕	25.6	不明	-	口縁 $\frac{3}{4}$ 胴部は ほぼ完形		口縁部ヨコナデ、胴部外面 ハケメ・内面下半ヘラケズ リ	並	並	淡黄2.5Y8/3	胴部外面にへ う記号
207	11-1151	第2次包含層 E75	土師器 鋳付き円 筒状土器	(16)	不明	-	上部 $\frac{1}{4}$		内外面ハケメ	砂粒多含	並	明黄褐10YR7/6	
208	11-1165	第2次包含層 G74	製塩土器	不明	不明	不明	小片		内面ナデ、底部杓殻痕	砂粒含	並	黄橙7.5YR8/8	胎土分析試料
209	11-1162	第2次包含層 E72	製塩土器	不明	4.6	不明	小片		内面ナデ、外面未調整、底 部杓殻痕、粘土紐巻き上げ 痕	粗	並	外面 にぶい赤褐色 2.5YR4/3 内面 橙5YR7/8	胎土分析試料
210	11-1166	第2次包含層 E77	製塩土器	不明	5.3	不明	小片		内面ナデ、外面未調整、底 部杓殻痕	粗、石 含	並	黄橙7.5YR8/8	胎土分析試料
211	11-1164	第2次包含層 G74	製塩土器	不明	不明	不明	小片		内面ナデ、外面未調整、粘 土紐巻き上げ痕、外面押さ え	砂粒多 含	並	橙5YR7/8	胎土分析試料
212	11-1163	第2次包含層 C74	製塩土器	不明	6.8	不明	小片		内面ナデ、外面未調整、底 部杓殻痕、外面押さえ	砂粒多 含	並	橙5YR7/8	胎土分析試料
213	11-0060	第1次包含層 B28	黒色土器 碗	不明	不明	高台 11.2	底部 $\frac{1}{4}$		内面ヘラミガキ、内面いぶ し焼き	良	良	明赤褐5YR5/8	A類
214	11-1192	第2次包含層 F79	黒色土器 碗	不明	不明	高台 (7)	底部 $\frac{1}{4}$		内面いぶし焼き	砂粒含	良	にぶい橙7.5YR7/4	A類
215	11-1190	第2次包含層 D78	黒色土器 碗	(19)	不明	-	口縁 $\frac{1}{2}$		内面ヘラミガキ、外面ケズ リ後ナデか?	砂粒含	良	明黄褐10YR6/6	A類
216	11-1144	第2次包含層 F78 pit11 G79 包含層	黒色土器 碗	(16)	不明	-	$\frac{1}{2}$		口縁部ヨコナデ、内面ヘラ ミガキ、外面下半ケズリ	砂粒含	良	黄橙10YR8/6	A類
217	11-1030	第2次包含層 F68	瓦器 小碗	(9.4)	3.4	高台 4.1	体部 $\frac{1}{2}$ 底部完 形	口縁内面端部に 沈線	内外面ヘラミガキ	精良	良	灰白7.5Y8/1	ラセン暗文
218	11-0046	第1次包含層 B84	瓦器 小皿	(10)	1.4	-	$\frac{1}{4}$		口縁部ヨコナデ、底部外面 未調整	良	良	灰白7.5Y7/1	暗文
219	11-1169	第2次包含層 F79	須恵器 杯蓋	(10)	3.8	-	$\frac{1}{2}$		ロクロナデ、天井部ヘラキ リ未調整一部ロクロケズリ、 ロクロ回転時計廻り	精良	硬	青灰10BG6/1	
220	11-1168	第2次包含層 E75	須恵器 杯蓋	(14)	3.8	-	$\frac{1}{4}$		ロクロナデ、天井部ロクロ ケズリ、ロクロ回転時計廻 り	砂粒含	並	灰白10Y7/1	
221	11-1167	第2次包含層 C76	須恵器 杯蓋	7.8	2.9	-	ほぼ完 形	つまみ 口縁内面に返り	ロクロナデ、ロクロ回転時 計廻り	砂粒含	良、自然 粘	灰10Y6/1	
222	11-1174	第2次包含層 F76・ F77包含層	須恵器 杯蓋	(11)	不明	-	$\frac{1}{2}$	口縁内面に返り	ロクロナデ	細砂粒含	硬、自然 粘	灰N6/	

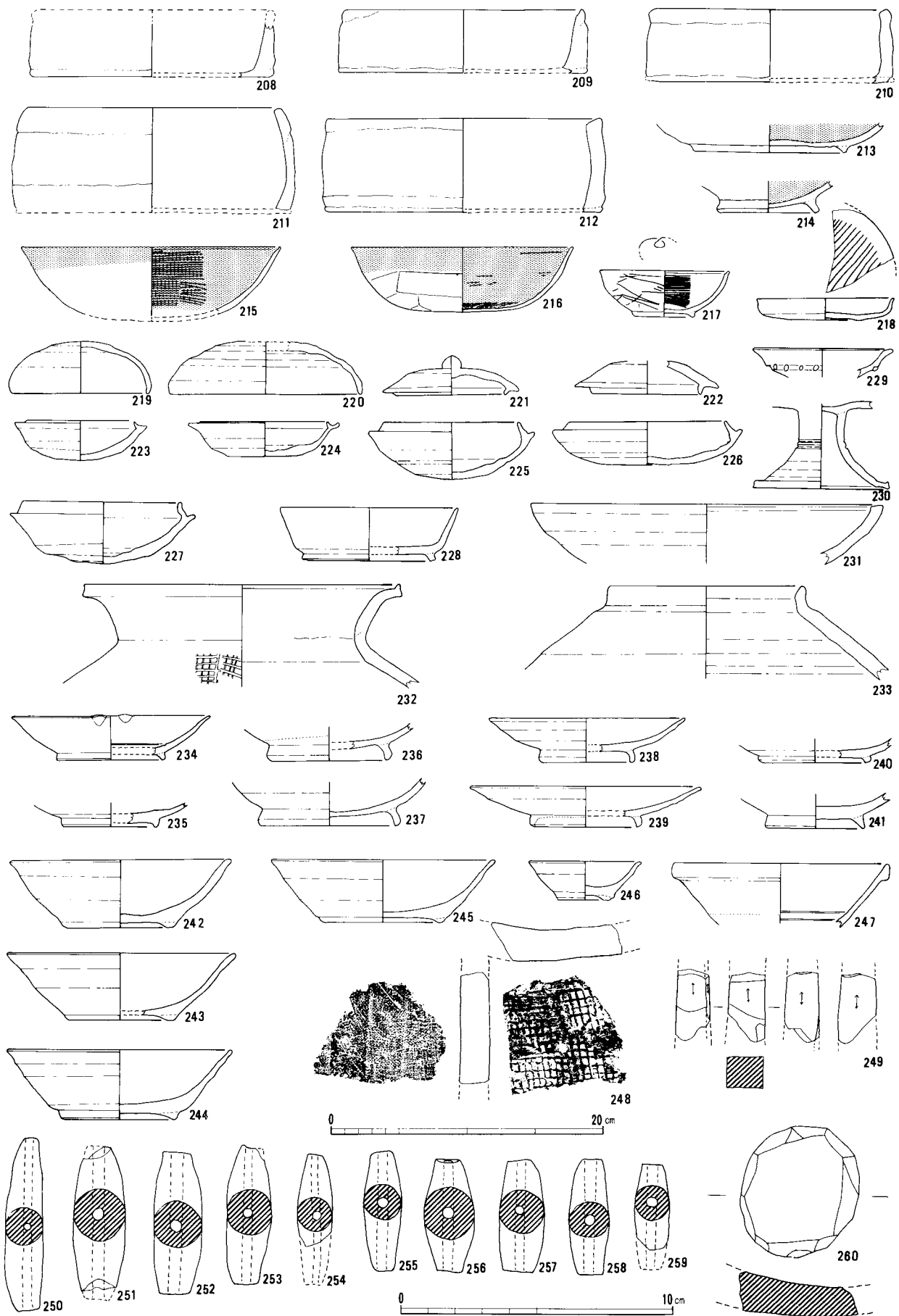
第6-6表 出土遺物観察表



第17图 出土遺物実測図 (1 : 4)

遺物番号	登録番号	出土遺構位置	器種 器形	口径 cm	器高 cm	底径 cm	遺存度	形態の特徴	技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
223	11-1171	第2次包含層	E75 須恵器杯身	8~9	3.9	-	ほぼ完形	たちあがりは低く内傾	ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整	砂粒含	良、自然釉	外面暗青灰10BG3/1 内面青灰10BG6/1	歪みあり
224	11-0013	第1次包含層	B 8 須恵器杯身	(9)	2.4	-	1/2	たちあがりは低く内傾	ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整	砂粒含	並	灰白10Y7/1	
225	11-1170	第2次包含層	E78 須恵器杯身	(10)	4.1	-	1/2	たちあがりは低く内傾	ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整、ロクロ回転時計廻り	良	良	灰白N7/	
226	11-0075	第1次包含層	C20 須恵器杯身	(11)	3.1	-	1/2	たちあがりは低く内傾	ロクロナデ、底部ロクロケズリ、ロクロ回転時計廻り	砂粒含	良	外面 灰N6/1 内面 灰白5Y7/1	
227	11-0012	第1次包含層	B44 須恵器杯身	(12)	4.5	-	1/2	たちあがりは低く内傾	ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整	良、砂粒含	良	青灰5BG6/1	
228	11-1172	第2次包含層	B76 須恵器杯身	(11)	3.9	高台(10)	1/2	高台は外に開く体部は直線的に外傾	ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整	精良	良	明青灰10BG7/1	
229	11-1178	第2次包含層	E75 須恵器高杯	(10)	不明	不明	口縁1/2	沈線、球状の貼付文	ロクロナデ	良	良、自然釉	灰白2.5GY8/1	
230	11-1179	第2次包含層	D75 須恵器高杯	不明	不明	脚径(10)	脚部1/2	沈線2本	ロクロナデ	良	やや軟	灰白5GY8/1	
231	11-1177	第2次包含層	F79 須恵器鉢	(26)	不明	-	口縁1/2		ロクロナデ	砂粒含	良	明青灰10BG7/1	
232	11-1176	第2次包含層	D78 須恵器甕	(23)	不明	-	口縁1/2		ロクロナデ、胴部タタキ、内面ナデ消し、粘土つなぎ痕	良	硬	青灰10BG6/1	
233	11-1175	第2次包含層	F69 須恵器壺	(14)	不明	-	口縁1/2		口縁部ロクロナデ、胴部外面ロクロケズリ・内面ロクロナデ	良	良	灰白7.5Y7/1	
234	11-1149	第2次包含層	F78pit10, F79pit3, G79包含層	(14)	(3.2)	高台(8)	1/2	輪花(数不明)内面に段をもつ	内外面とも全面に緑色の施釉	精良軟質	良	黄橙10R8/6	
235	11-1150	第2次包含層	排土 陶器緑釉	不明	不明	高台不明	底部小片		ロクロナデ、外面ロクロケズリ、削り出し高台、内面と外面体部に淡緑色の施釉	精良硬質	硬	灰7.5Y6/1	
236	11-1158	第2次包含層	G77 陶器灰釉碗	不明	不明	高台(8)	底部1/2	三日月高台	外面ロクロケズリ、内外面とも刷毛塗りによる施釉、重焼き痕	砂粒含	硬	灰白7.5Y8/1	
237	11-1157	第2次包含層	G77 陶器灰釉碗	不明	不明	高台10.0	底部のみ	三日月高台	外面体部ロクロケズリ、内面刷毛塗りによる施釉、重焼き痕、ロクロ回転時計廻り	精良砂粒含	硬	灰白7.5Y8/1	
238	11-1161	第2次包含層	F77 陶器灰釉皿	(15)	3.3	高台(6)	1/2	三日月高台	ロクロナデ、底部外面ナデ消し	良	硬	灰白7.5Y8/1	
239	11-0067	第1次包含層	B28 陶器灰釉皿	(17)	3.0	高台(7)	体部1/2 底部1/2	三日月高台	ロクロナデ、外面下半ロクロケズリ、内外面とも刷毛塗りによる施釉	精良	硬	灰白7.5Y7/1	
240	11-1155	第2次包含層	F78 陶器灰釉	不明	不明	高台(8)	底部1/2		ロクロナデ、底部外面ナデ	精良	硬	灰白7.5Y8/1	
241	11-1156	第2次包含層	G79 陶器灰釉碗	不明	不明	高台(7)	底部1/2	高台外傾	ロクロナデ、底部外面ナデ	精良	硬	灰白7.5Y7/1	
242	11-1153	第2次包含層	G79 陶器山茶碗	16.0	5.0	高台7.4	完形	高台逆台形口縁端部やや外反	ロクロナデ、底部糸きり後ナデ	良	良、自然釉	灰白N8/	
243	11-1154	第2次包含層	F69 陶器山茶碗	16.8	4.9	高台7.6	上半1/2 下半1/2	高台逆台形口縁端部やや外反	ロクロナデ	砂粒含	並	灰白7.5Y8/1	
244	11-0009	第1次包含層	C24 陶器山茶碗	(17)	5.1	高台8.0	1/2	高台逆三角形	ロクロナデ、底部糸きり痕、ロクロ回転時計廻り	良	良	灰白7.5Y8/1	
245	11-0021	第1次包含層	B16 陶器山茶碗	(16)	4.6	高台9.0	1/2	高台逆三角形口縁端部やや外反	ロクロナデ、底部糸きり痕	良	良、自然釉	灰白N8/	
246	11-0010	第1次包含層	B 8 陶器山皿	(8)	2.9	高台4.0	口縁1/2 底部完		ロクロナデ、靉靄痕、重焼き痕	良	良、自然釉	灰白7.5Y7/1	
247	11-0050	第1次包含層	B32 磁器白磁碗	(16)	不明	不明	上半1/2	玉縁状口縁内面に沈線	内面と外面上半に施釉	精良	良	灰オリーブ7.5Y6/2	
248	11-0077	第1次包含層	C64 瓦平瓦	全長不明	幅不明	厚さ2.3	小片		凹面布目痕、凸面格子叩き痕	並砂粒含	不良	明黄褐10YR6/6	
249	11-1152	第2次包含層	G69 石製品磁石	全長不明	幅不明	厚さ2.7	小片	柱状		砂岩		灰白5Y8/2	四面使用
250	11-1181	第2次包含層	F66 土製品土鏝	全長6.4	径1.4	孔径0.3	完形	細長い	ナデ	土師質	良	淡黄2.5Y8/4	重量9.7g
251	11-1188	第2次包含層	G78 土製品土鏝	全長5残	径1.9	孔径0.4	端部欠損	細長い	ナデ	土師質	良	淡黄2.5Y8/3 黒褐2.5Y3/1	重量13.8g残
252	11-1183	第2次包含層	E75 土製品土鏝	全長5.2	径1.8	孔径0.4	完形	細長い	ナデ	土師質	良	浅黄橙7.5YR8/6	重量14.9g
253	11-1186	第2次包含層	E78 土製品土鏝	全長5.0	径1.6	孔径0.3	完形	細長い	ナデ	土師質	良	浅黄2.5Y8/3	重量12.3g
254	11-1187	第2次包含層	F78 土製品土鏝	全長3残	径1.2	孔径0.3	約1/2	細長い	ナデ	土師質	良	橙5YR7/6	重量4.8g残
255	11-1184	第2次包含層	G77 土製品土鏝	全長4.4	径1.3	孔径0.3	完形	細長い	ナデ	土師質	良	黄橙7.5YR8/8	重量7.2g残
256	11-1180	第2次包含層	D61 土製品土鏝	全長4.2	径1.9	孔径0.4	完形	細長い	ナデ	土師質	良	黄橙7.5YR8/8	重量13.2g
257	11-1182	第2次包含層	G68 土製品土鏝	全長4.0	径1.6	孔径0.3	完形	細長い	ナデ	土師質	良	淡黄2.5Y8/3 黒褐2.5Y3/1	重量9.7g
258	11-1185	第2次包含層	E78 土製品土鏝	全長4.2	径1.5	孔径0.3	完形	細長い	ナデ	土師質	良	灰白10YR8/2 黒10YR1.7/1	重量8.5g
259	11-1146	第2次包含層	E78 pit4 土製品土鏝	全長3残	径1.2	孔径0.3	約1/2	細長い	ナデ	土師質	良	にぶい褐7.5YR6/3	重量4.9g残
260	11-1189	第2次包含層	G54 加工陶器	径4.3~4.8	厚さ1.0~1.3	完形				砂粒含	硬	淡橙5YR8/4	重量33.9g

第6-7表 出土遺物観察表



第18図 出土遺物実測図 (1 : 4, 250~260は1 : 2)

ある。住居跡は少ないが、この時期の遺物は、遺物包含層や奈良・平安時代の遺構埋土にも相当量みられた。東に近接する下之庄遺跡から飛鳥・奈良時代の住居が検出されていることも考え合わせると、発掘区は当該時期の集落の縁辺部であると考えるのが妥当であろう。

(2) 奈良時代

この時期の主な遺構には竪穴住居7棟と土坑2基がみられる。掘立柱建物はみられず、竪穴住居のみで構成された集落の可能性がある。

奈良時代から平安時代初頭にかけての集落跡は、周辺の遺跡でも数多く発掘されている。当遺跡のように竪穴住居のみまたは竪穴住居を中心として構成される集落としては、奈良時代から平安時代初頭にかけての竪穴住居が34棟検出された上野垣内遺跡、竪穴住居が16棟検出された天保遺跡がみられる。一方、掘立柱建物のみまたは掘立柱建物を中心として構成された集落としては、中尾遺跡、下之庄東方遺跡等がみられる。このように竪穴住居を中心として構成される集落と、掘立柱建物を中心として構成された集落があり、当該地域における各々の集落の構成あるいは各集落間の社会的関係等について今後検討する必要がある。

(3) 平安時代

竪穴住居1棟、掘立柱建物3棟、井戸1基、溝4条、土坑3基がみられる。

竪穴住居S B 28、掘立柱建物S B 7・10・17、溝S D 24、土坑S K 6の出土遺物については、古いもの

も混入してはいたが、図示した遺物のうち土師器は概ね斎宮編年の平安時代前Ⅱ期から中期のものであり、灰釉陶器皿(99)は猿投窯編年でいう折戸53号窯式(10世紀)と思われる。従ってこれらの遺構は平安時代中期のものと考えてよいであろう。

掘立柱建物3棟は、いずれも5間×2間の建物であるが、棟方向は揃っておらず若干の時期差があるものと思われる。周辺の遺跡における奈良・平安時代の5間×2間、あるいは5間×3間の大型の掘立柱建物例には、下之庄東方遺跡高畑地区の掘立柱建物9・10、同遺跡四反畑地区の掘立柱建物6、片野遺跡のS B 87等がある。これらの詳細な時期区分は不明であるが、両遺跡とも掘立柱建物が複数みられる集落である。当遺跡においてもこうした大型の掘立柱建物が単独でみられるとは考え難く、付随する建物が発掘区外に存在して集落を形成していたものと思われる。

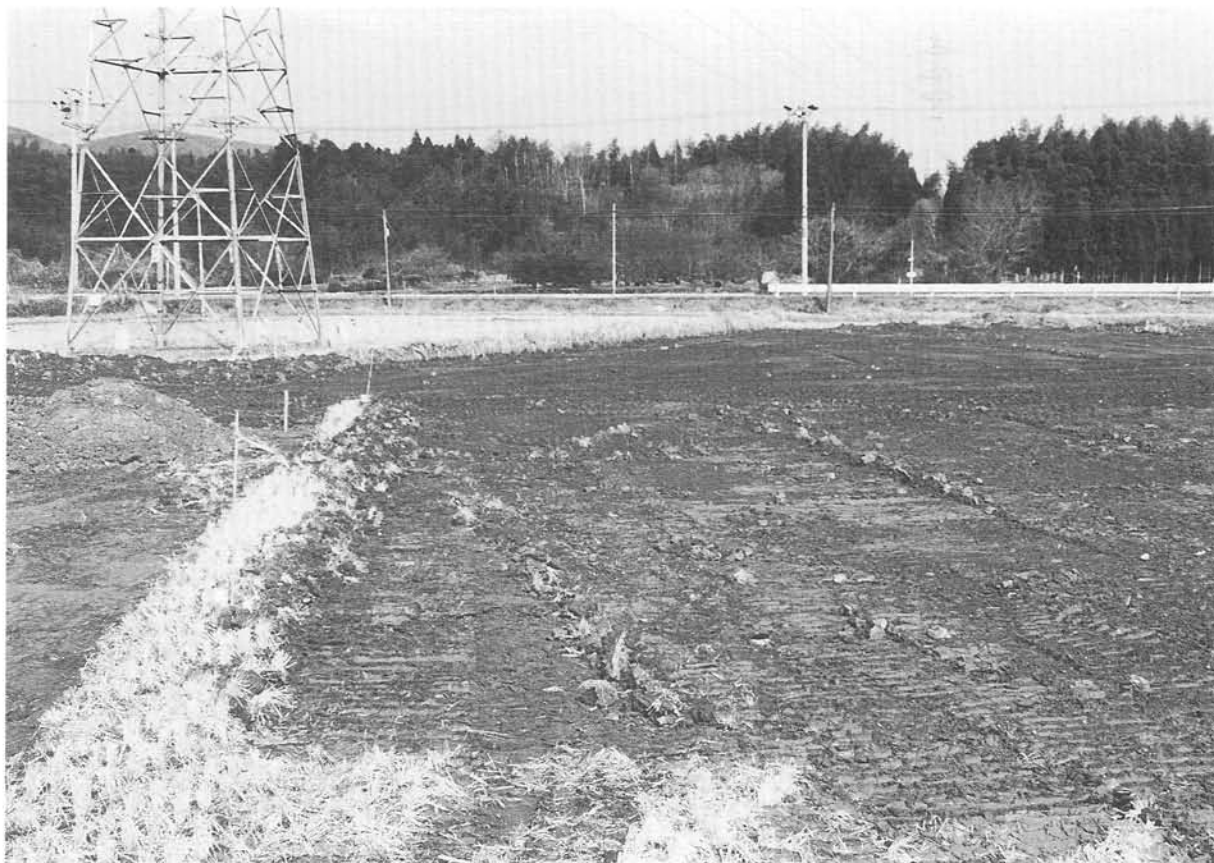
井戸S E 8からはロクロ製の土師器杯(100)、山茶碗(103~108)等が出土している。ロクロ土師器杯(100)は斎宮編年の平安時代後期から末期のものであり、山茶碗は藤澤編年のⅢ段階5型式に比定できそうであり、従ってS E 8の時期は平安時代末期と考えてよいであろう。後期および末期の遺構は他に溝(S D 1・11・27)、土坑(S K 9・16)がみられる。この時期の住居跡は発掘区の範囲外にあると推定される。

(河北秀実)

〔註〕

- ① a. 三重県教育委員会『三重県埋蔵文化財包蔵地一覧表(4)』1980
- b. 三重県教育委員会『三重県埋蔵文化財包蔵地一覧表(5)』1981
- ② 三重県斎宮跡調査事務所『三重県斎宮跡調査事務所年報 1981 史跡斎宮跡—発掘調査概報—』1982
- ③ 三重県斎宮跡調査事務所『三重県斎宮跡調査事務所年報 1988 史跡斎宮跡—発掘調査概報—』1989
- ④ 『三重県埋蔵文化財年報16』三重県教育委員会 1986
- ⑤ 田中喜久雄「上野垣内遺跡」『昭和54年度県営園場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会 1980
- ⑥ 「近畿自動車道(久居～勢和間)埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ」三重県教育委員会 1988
- ⑦ 註⑥に同じ
- ⑧ a. 『一級河川中村川埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ 下之庄東方遺跡(高畑地区)』三重県教育委員会 1987

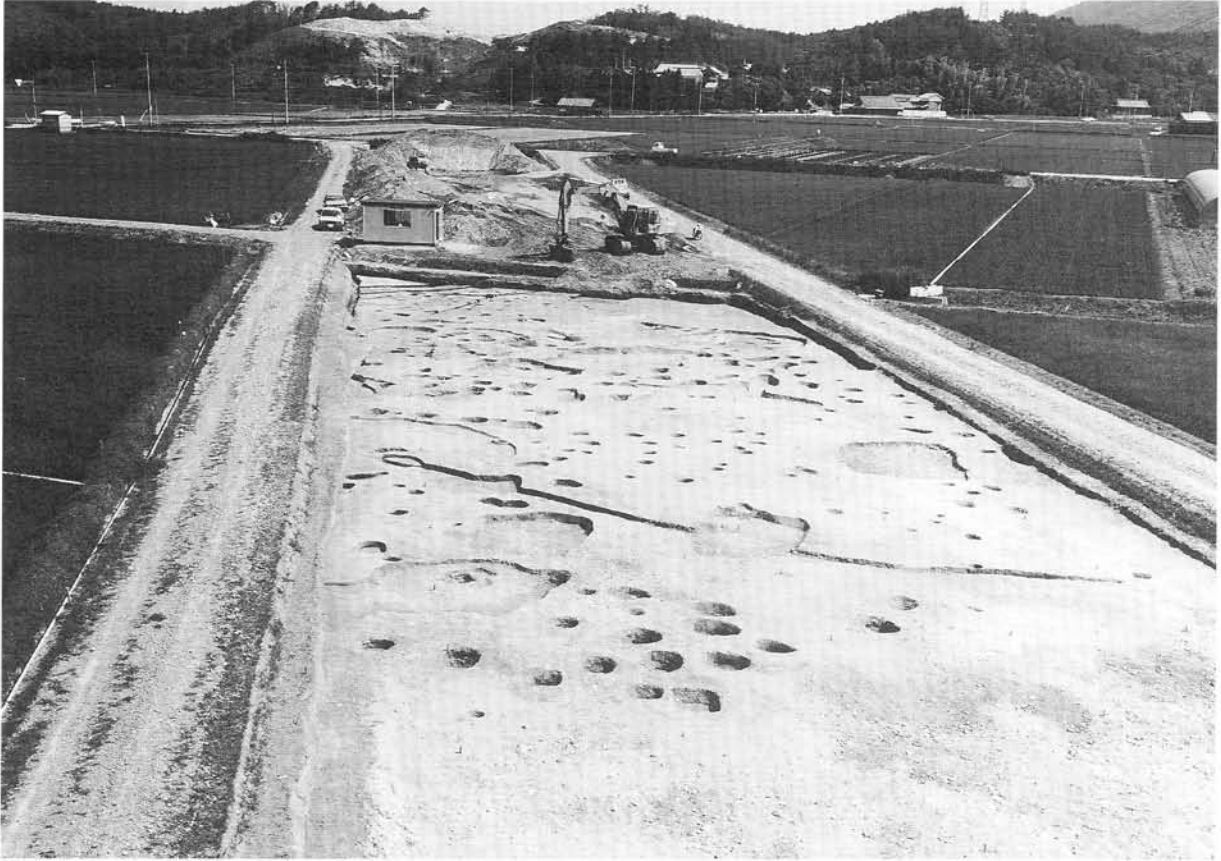
- b. 『一級河川中村川埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ 下之庄東方遺跡(小野・四反畑・夜ノ堀地区)』三重県教育委員会 1988
- ⑨ 三重県斎宮跡調査事務所「斎宮跡の土師器」『三重県斎宮跡調査事務所年報 1984 史跡斎宮跡—発掘調査概報—』1985
- ⑩ a. 植崎彰一他『愛知県猿投山西南麓古窯跡群分布調査報告(Ⅰ)』愛知県教育委員会 1980
- b. 植崎彰一他『愛知県古窯跡群分布調査報告(Ⅲ)』愛知県教育委員会 1983
- ⑪ 註⑧aに同じ
- ⑫ 註⑧bに同じ
- ⑬ 河瀬信幸『片野遺跡発掘調査報告』三重県教育委員会 1985
- ⑭ 註⑨に同じ
- ⑮ a. 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館 1982
- b. 藤澤良祐「穴田南窯址群発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅱ』瀬戸市歴史民俗資料館 1983



調査前風景（北から）



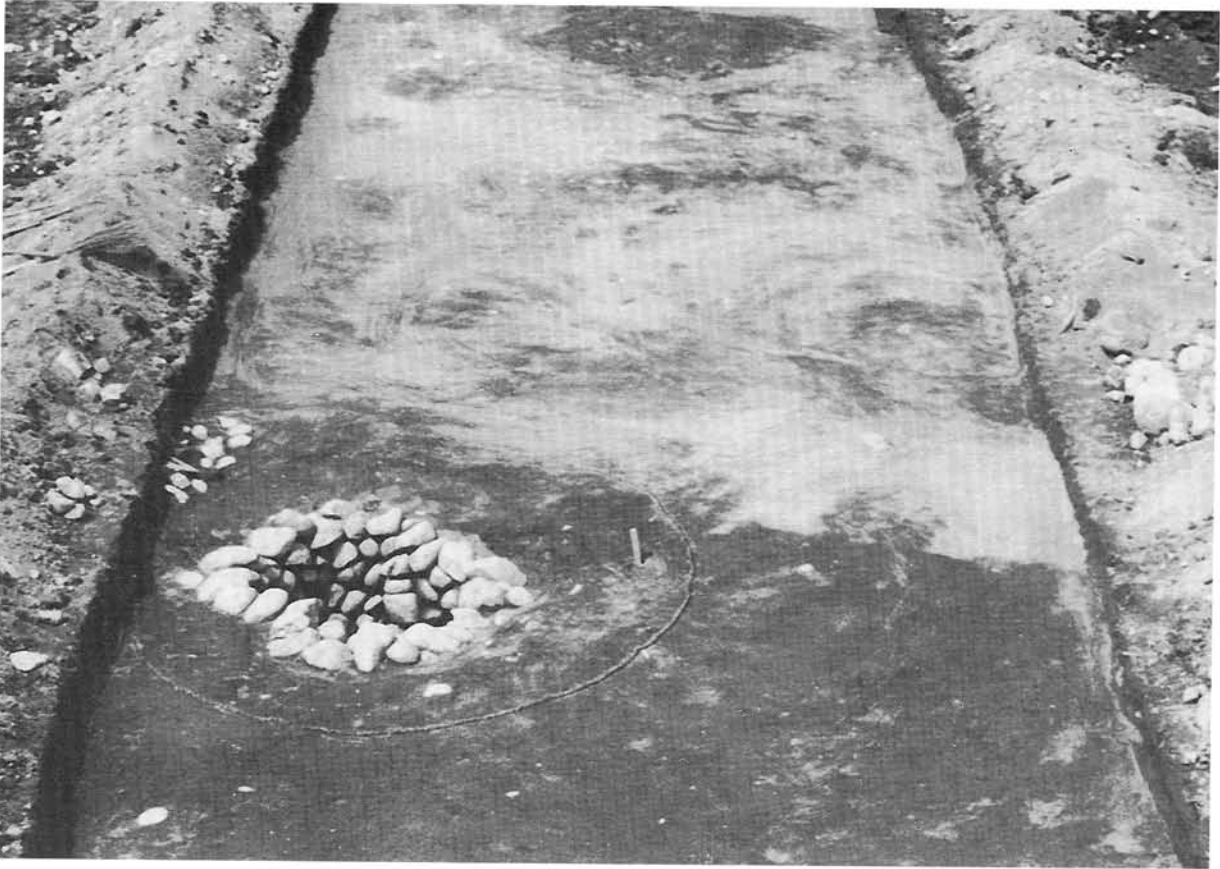
第2次調査発掘区全景（南から）



第2次調査南半部（北から）



第1次調査Bトレンチ全景（北から）



第1次調査Cトレンチ全景 (南から)

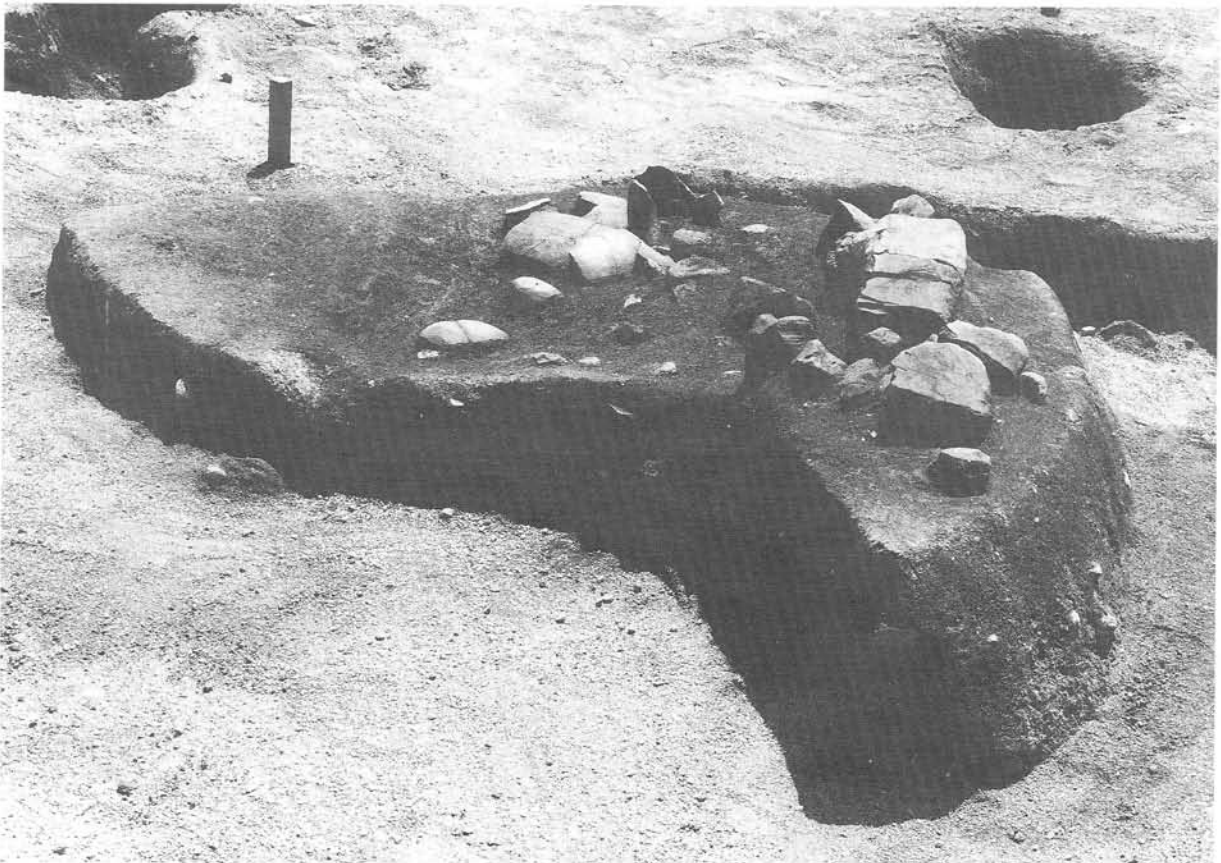


S B18 (北から)

PL 4



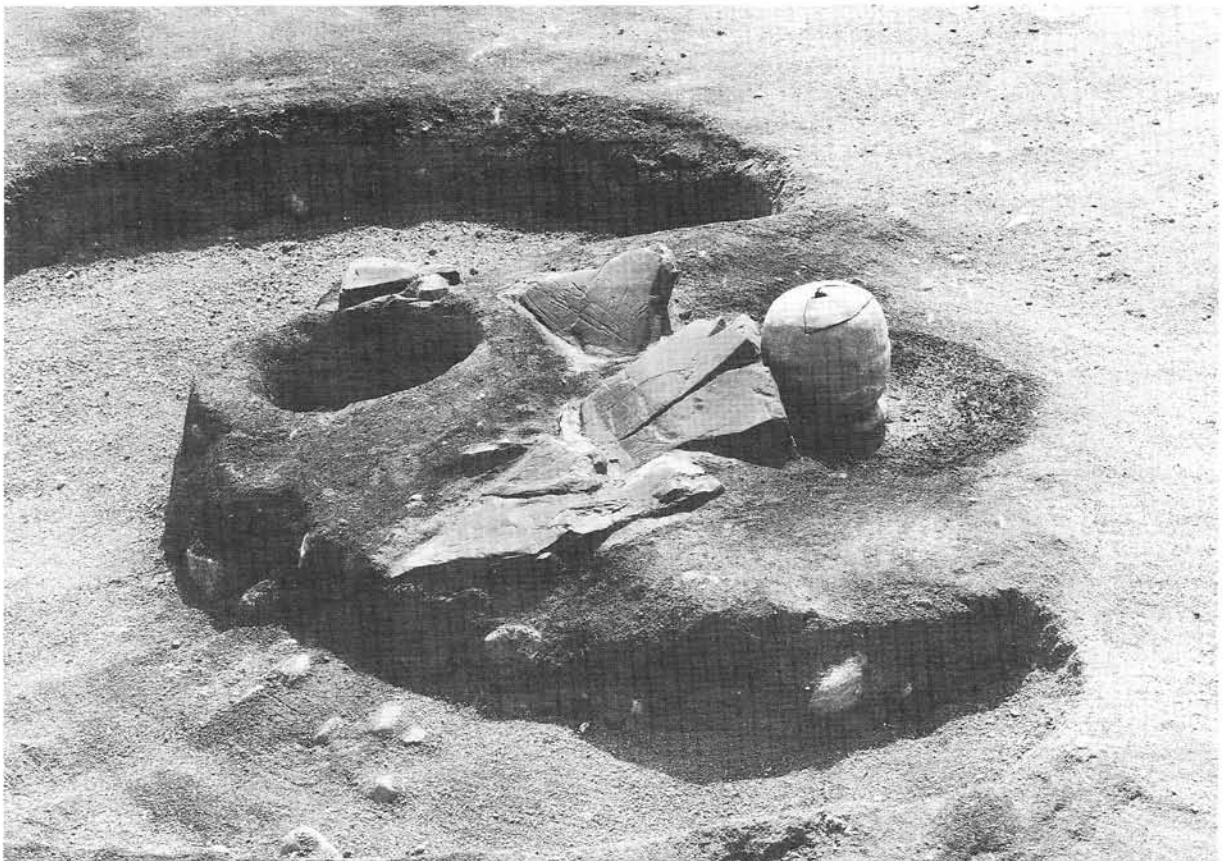
S B21 (西から)



S F23 (西から)

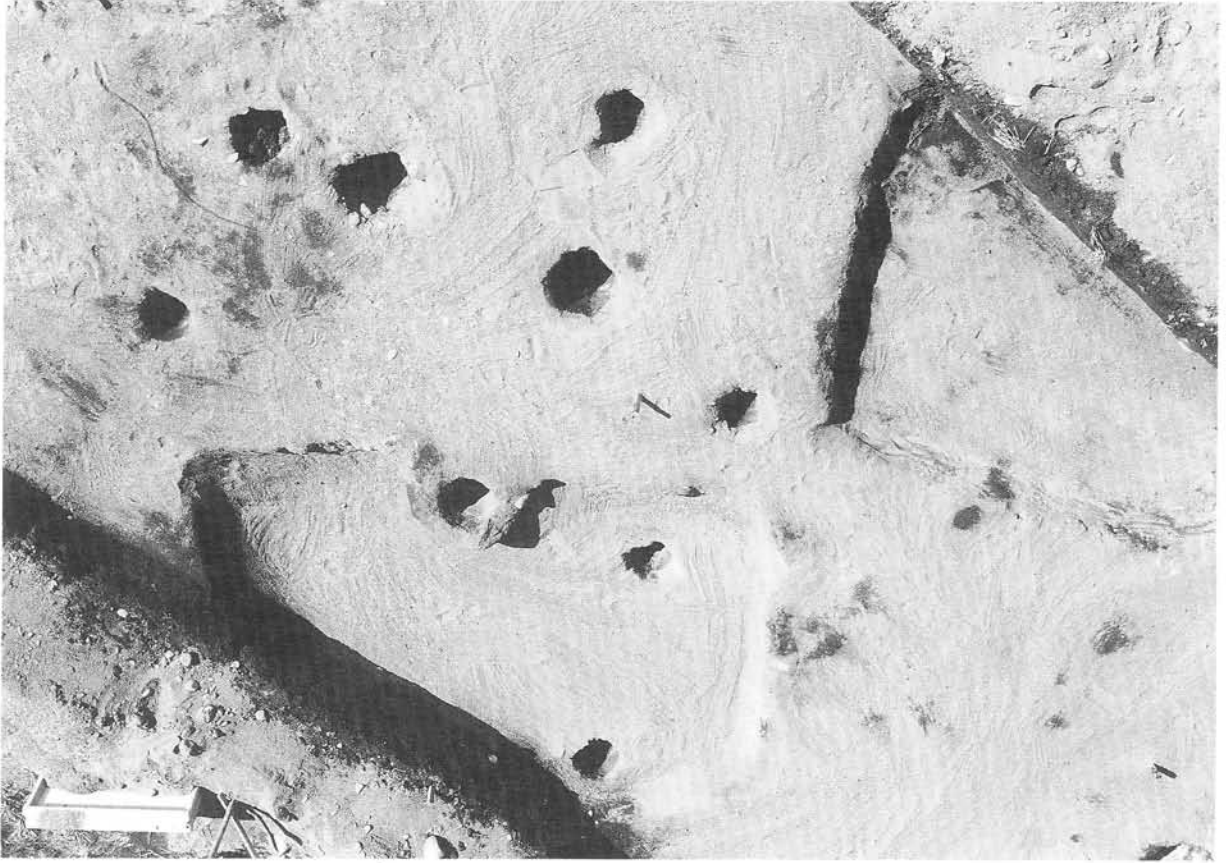


S F29 (南から)



S F29 (東から)

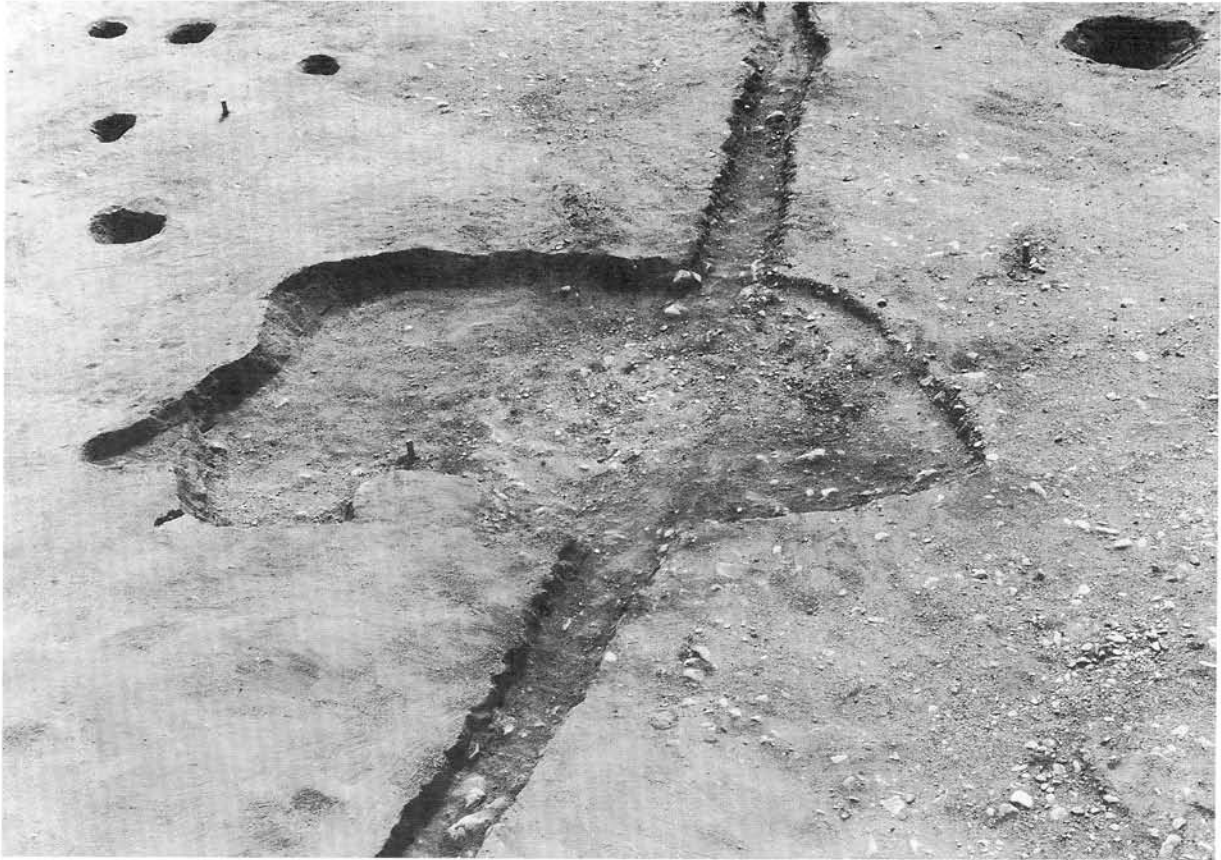
SB4・3 (南カ5)



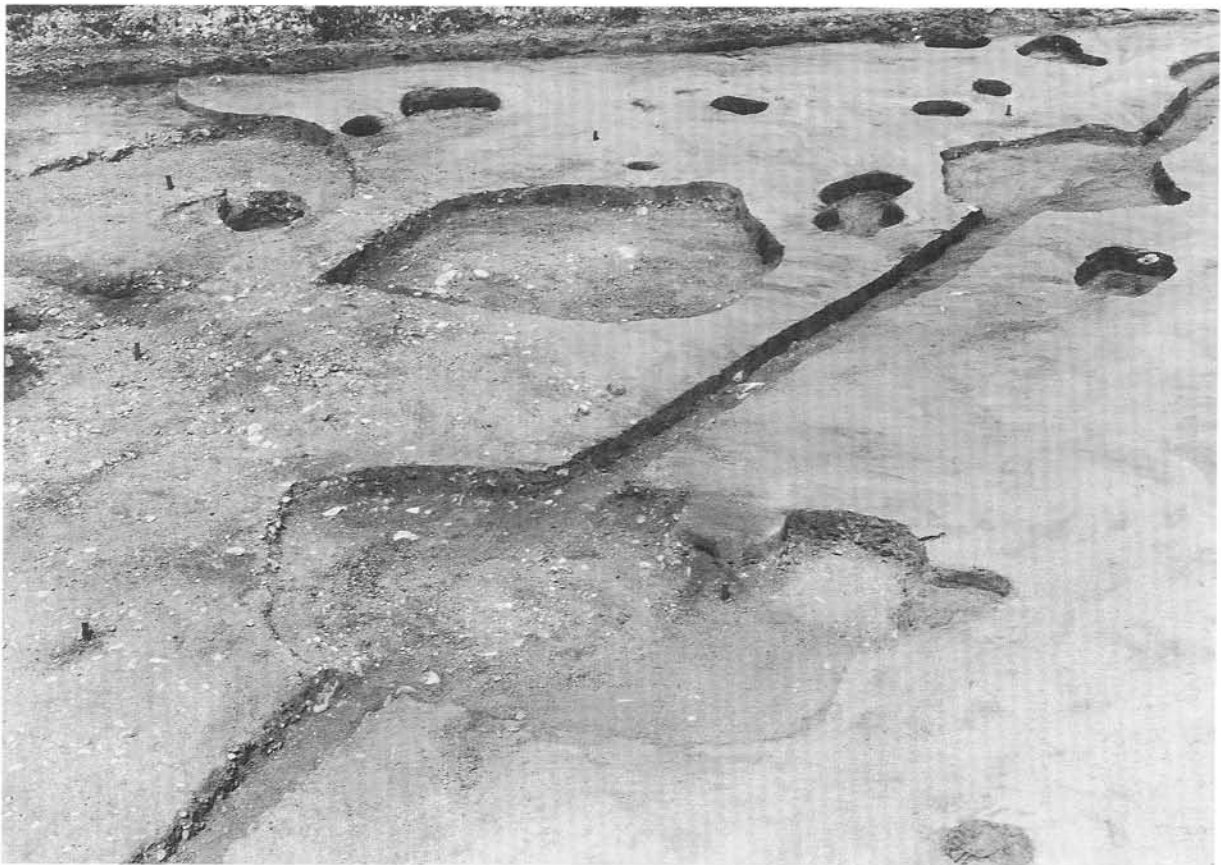
SB2 (南カ5)



P16



SB12 (東から)



SB14・12, SD11・SK16 (西から)

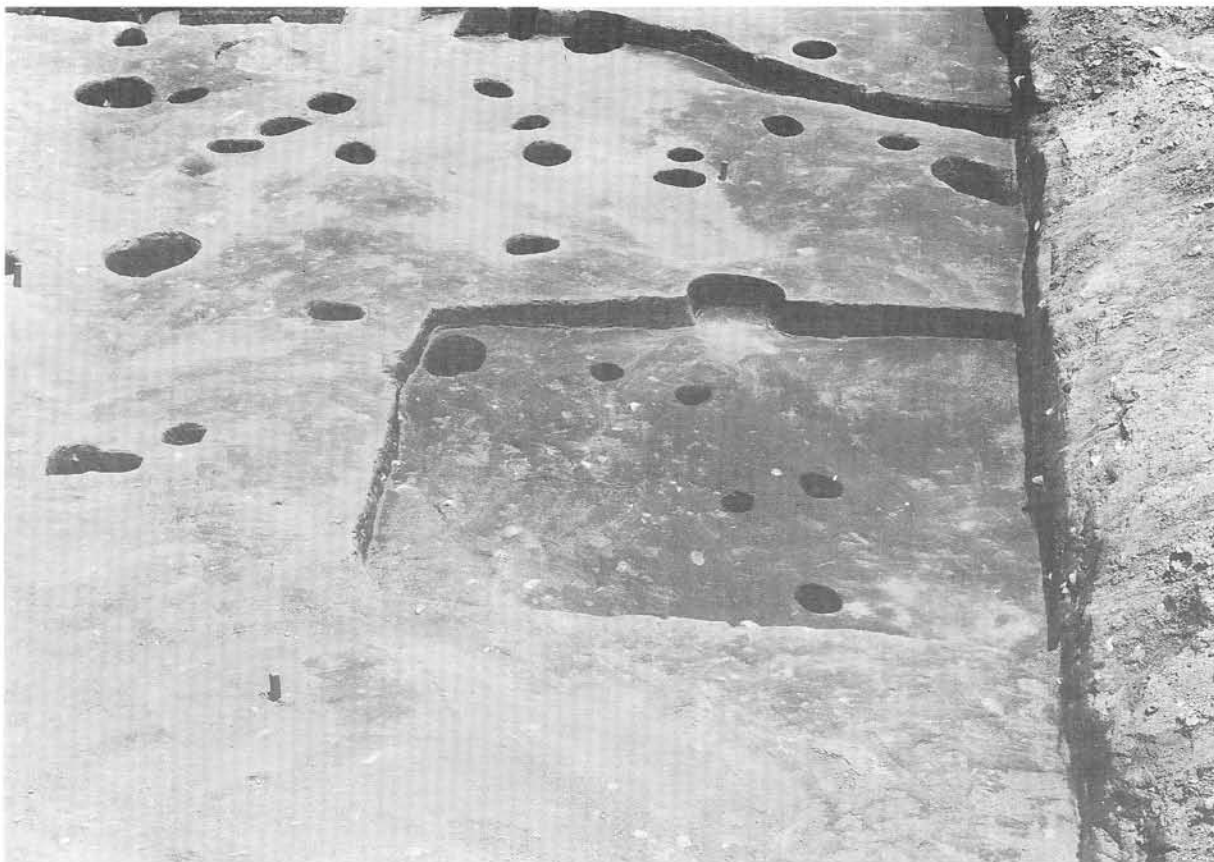
PL 8



S B19 (西から)



S B22 (北から)



S B28 (西から)

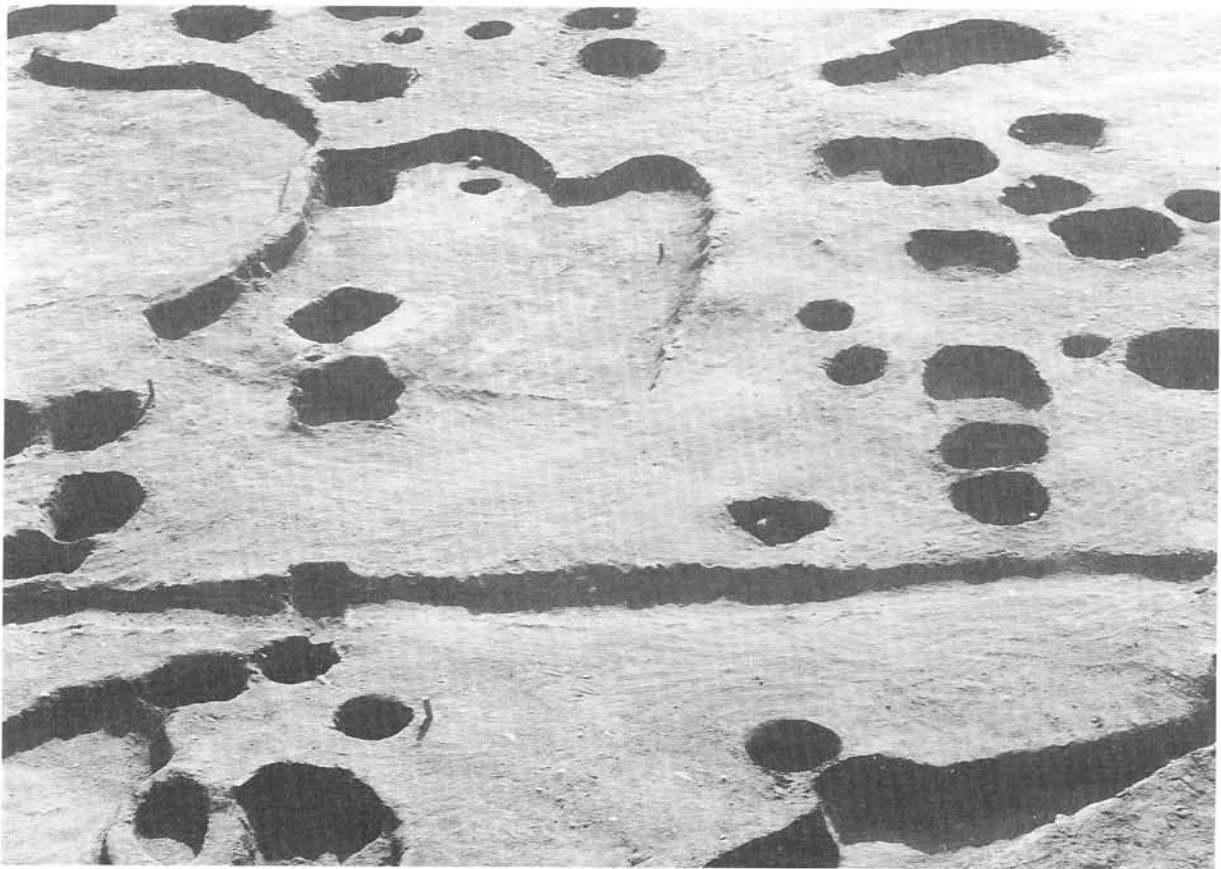


S B7 (東から)

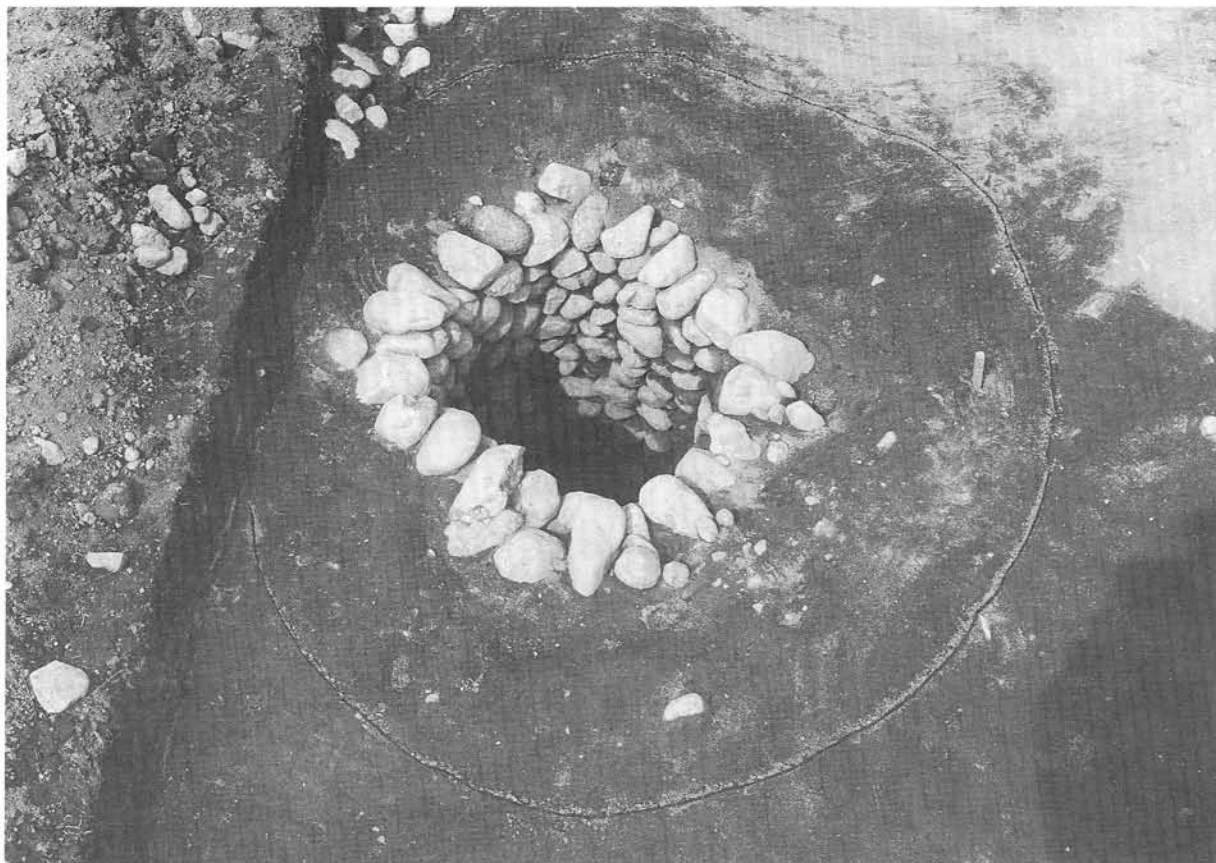
P L10



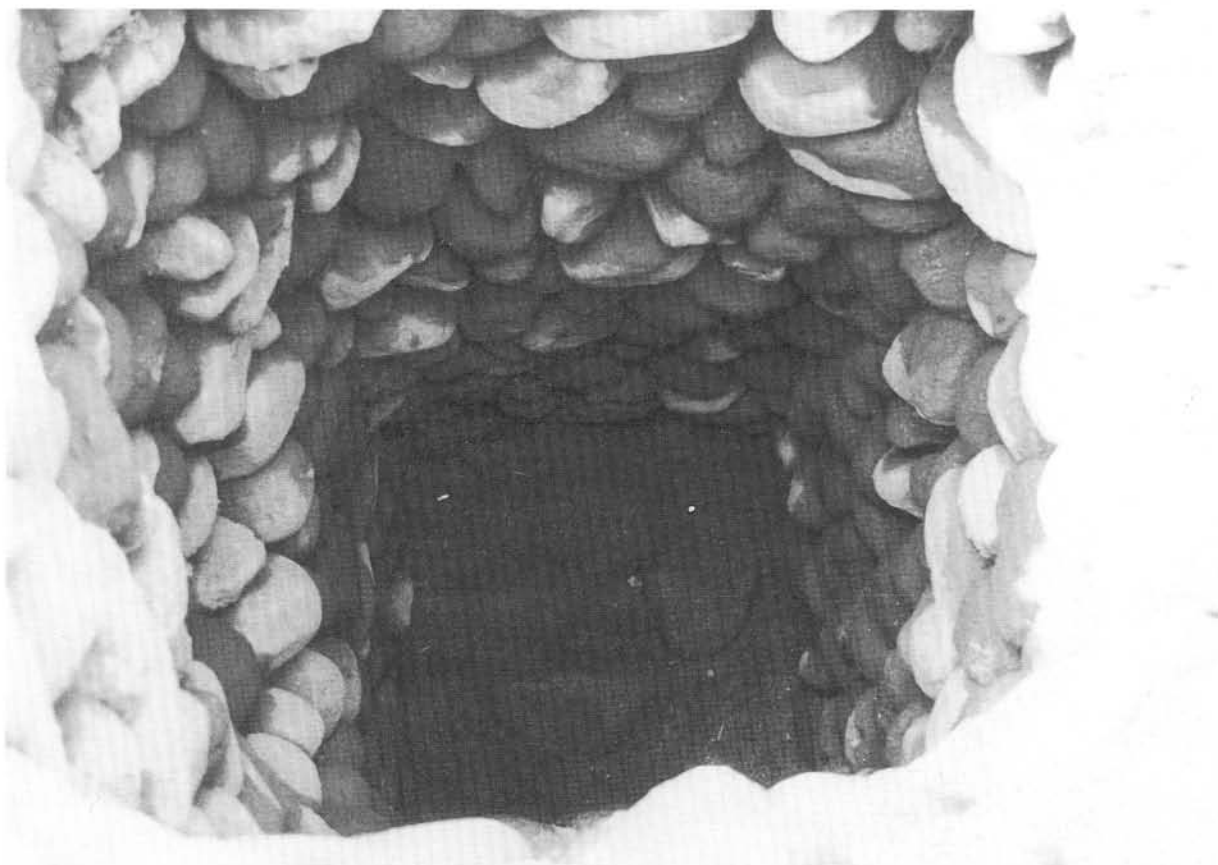
S B10, S K13 (東から)



S B17・19 (東から)

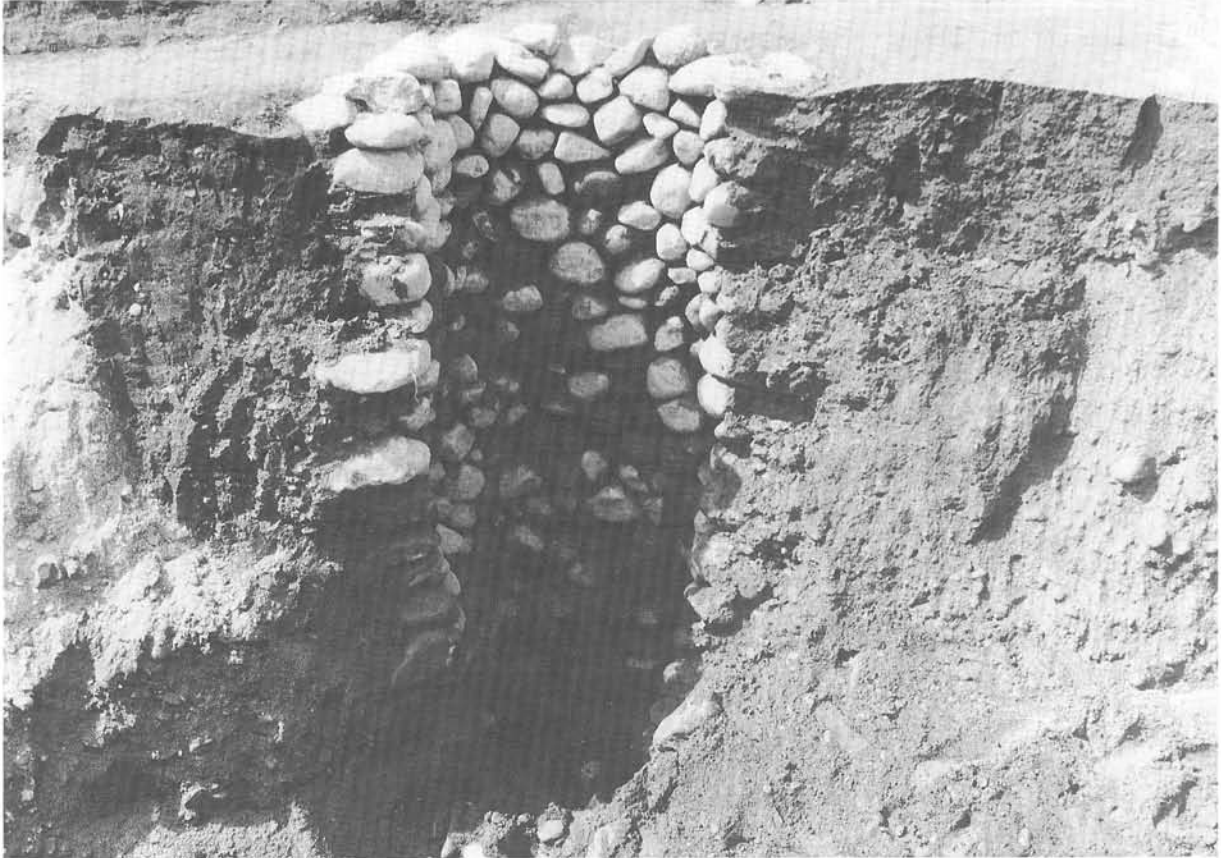


SE 8 (南から)



SE 8 石積み状況

P L 12



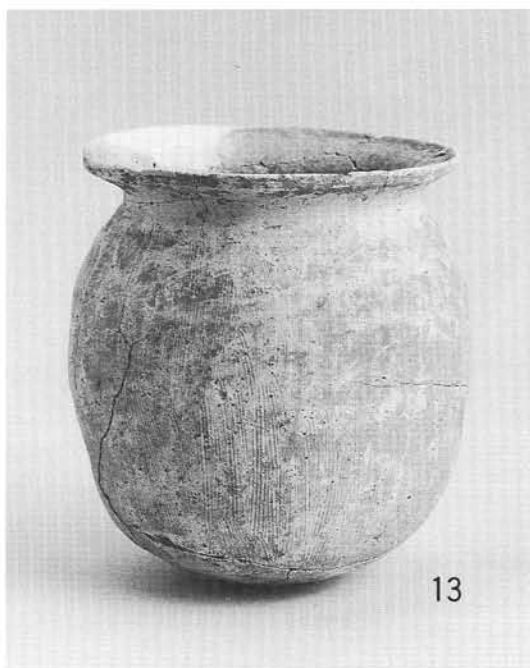
S E 8 断ち割り状況



S K 6 (南から)



12



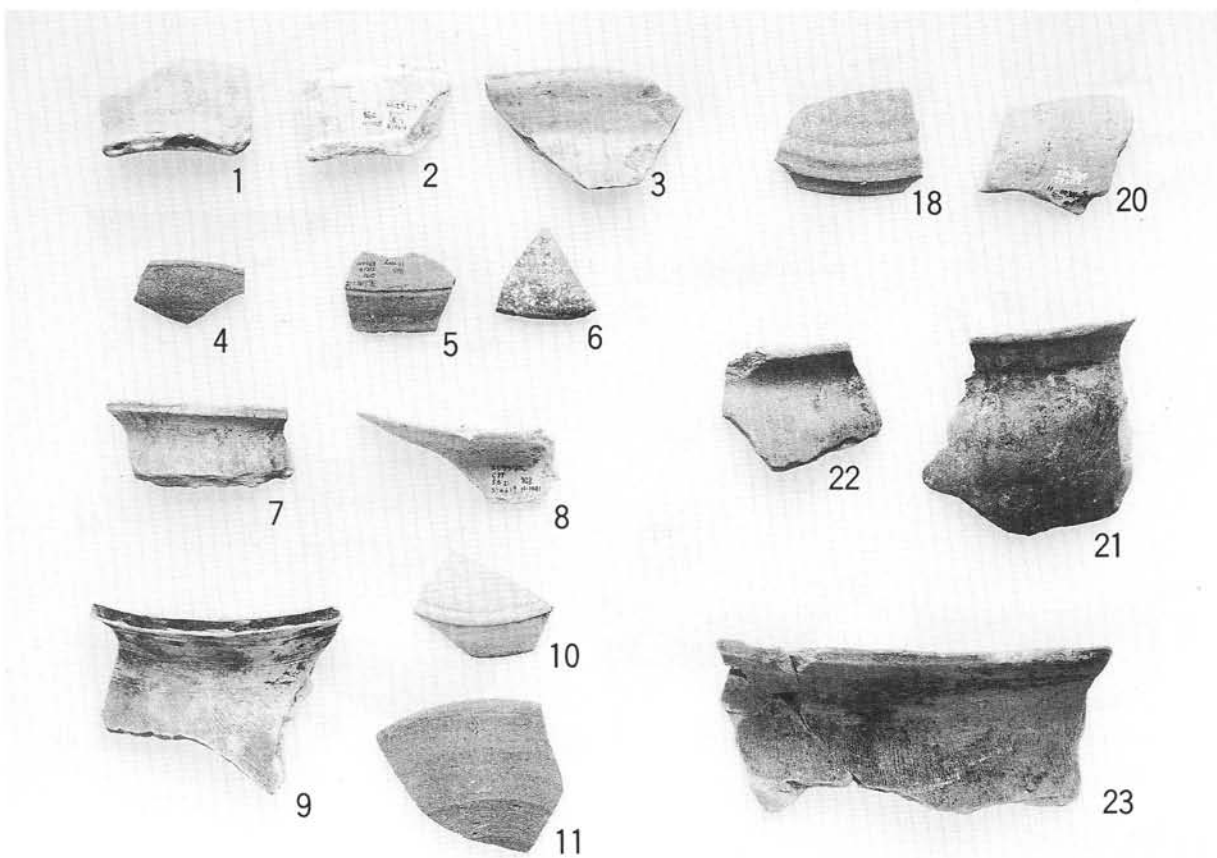
13



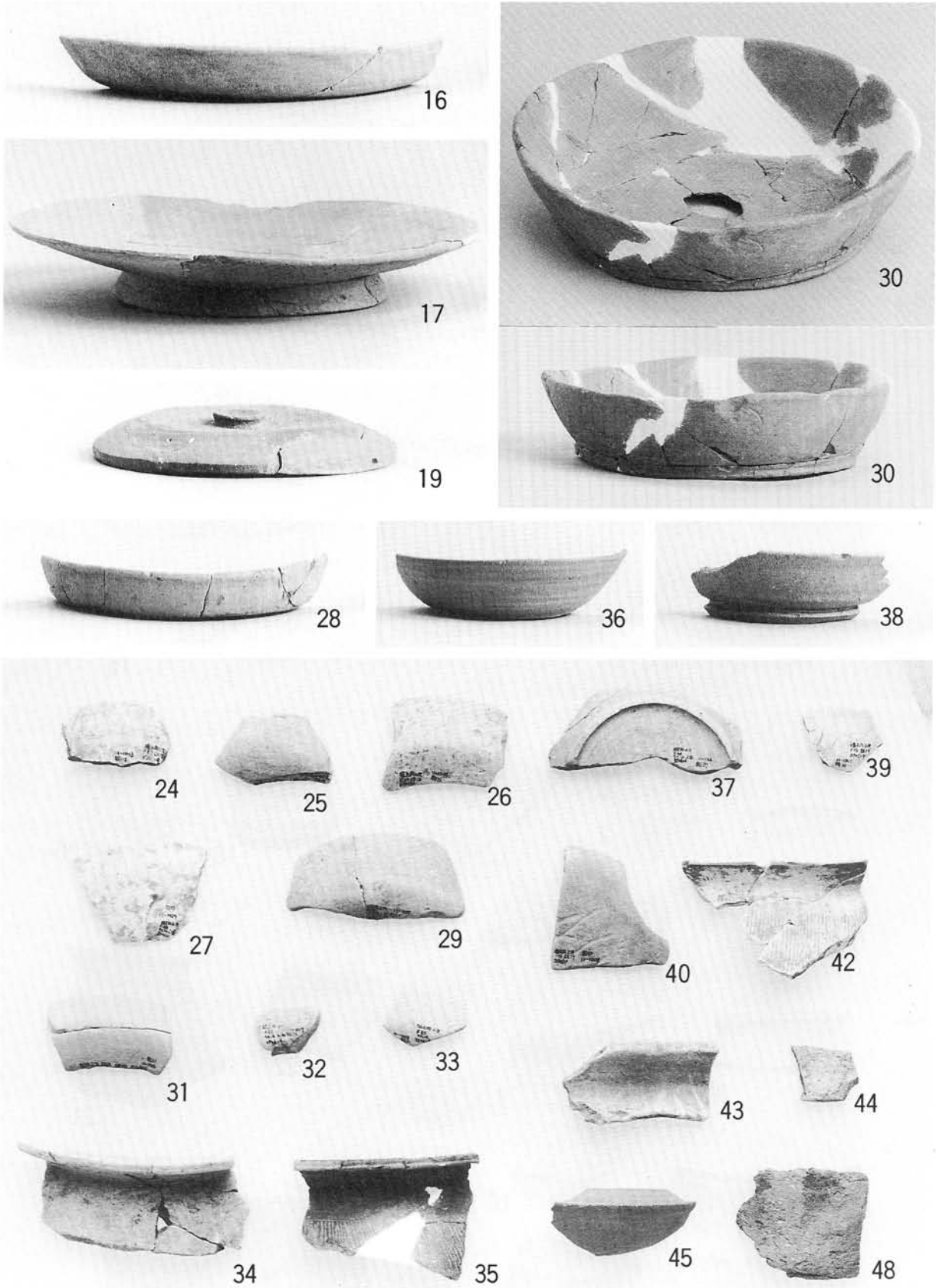
14



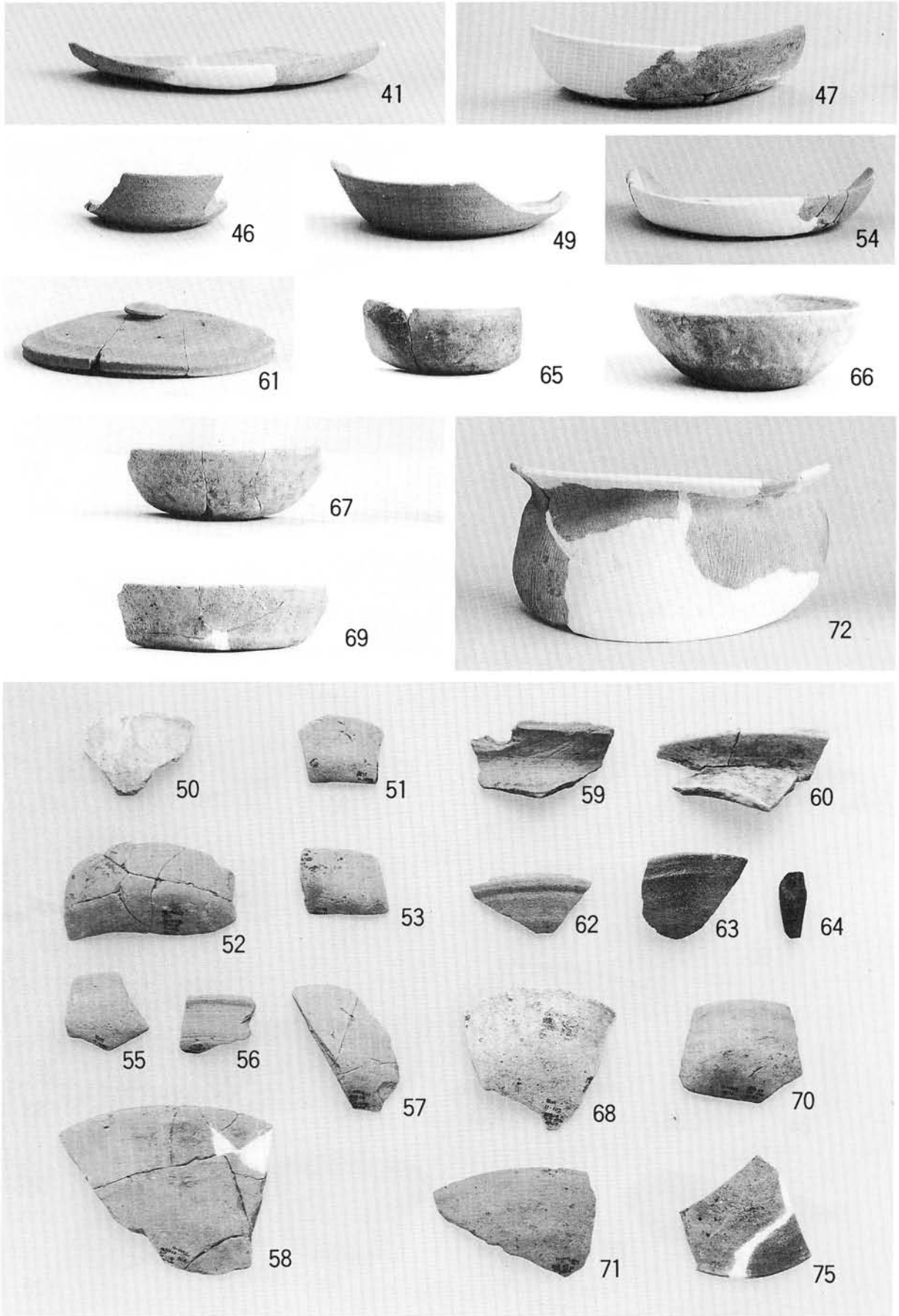
15



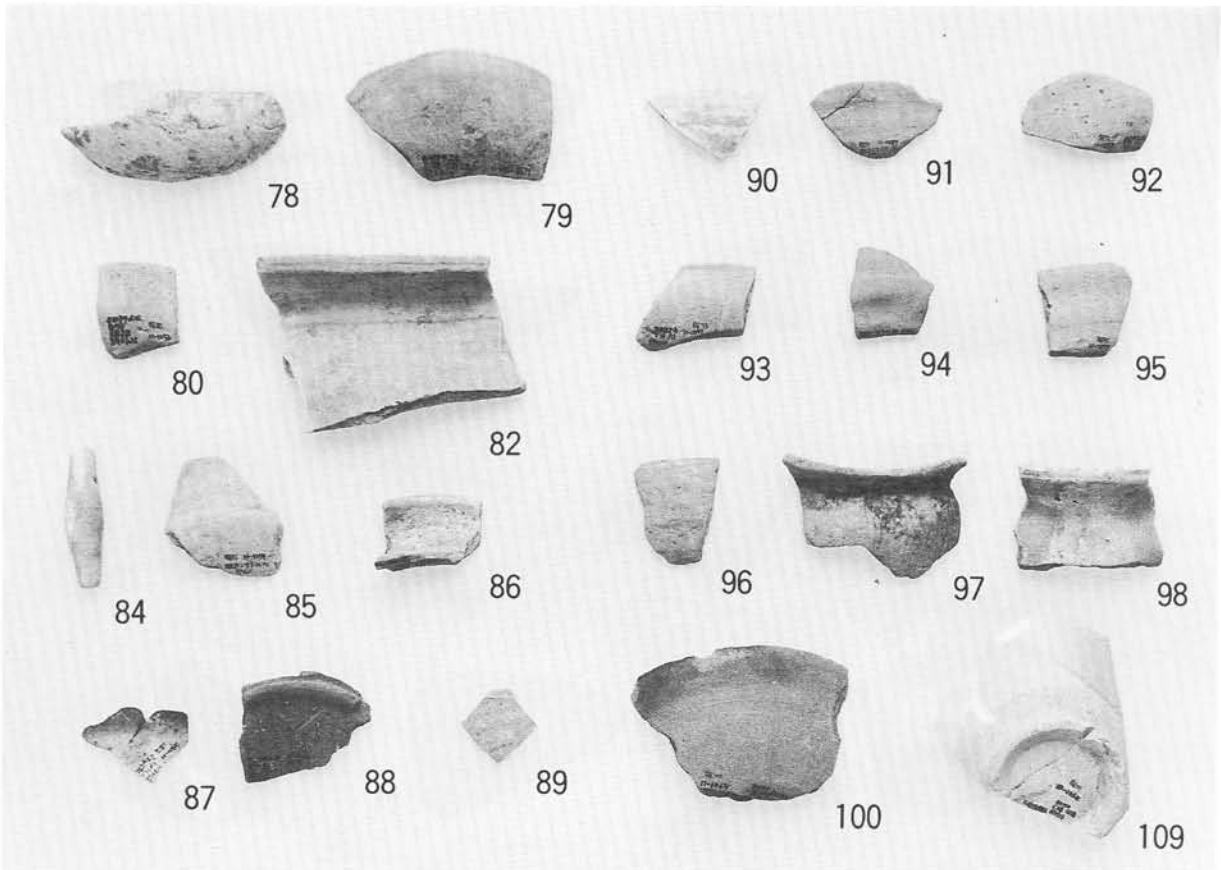
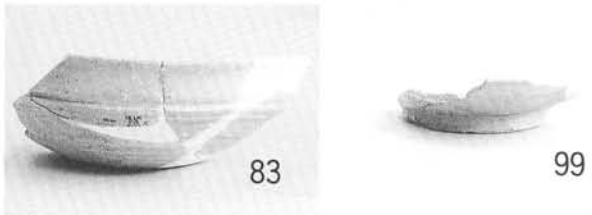
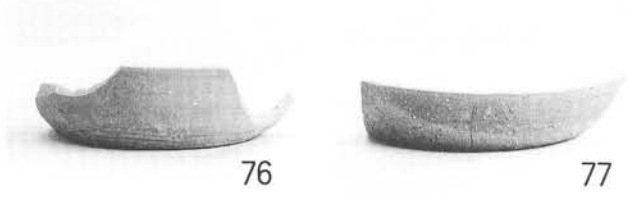
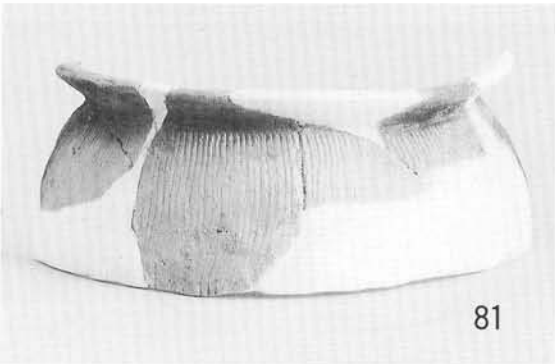
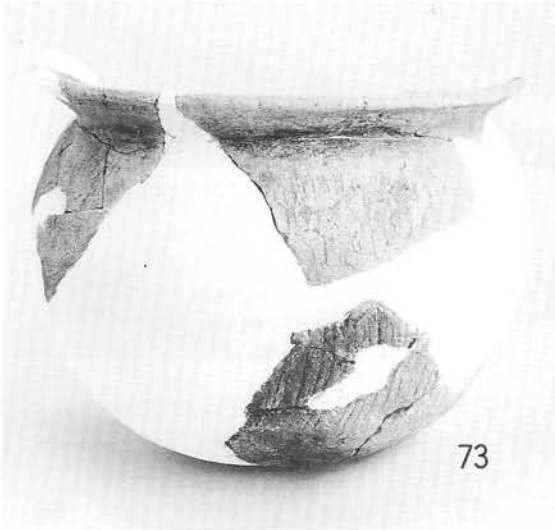
出土遺物 (1 : 3)



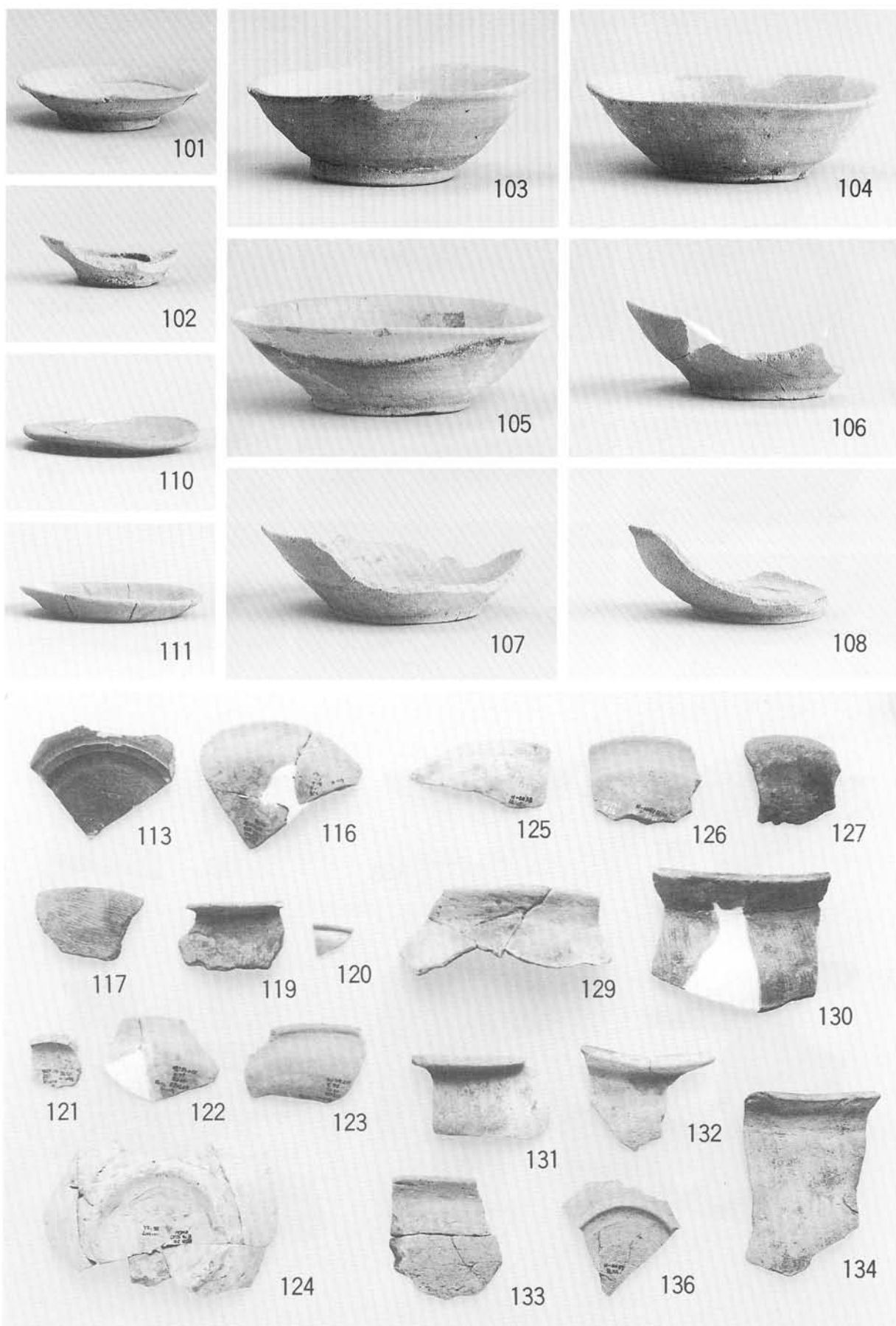
出土遺物 (1 : 3)



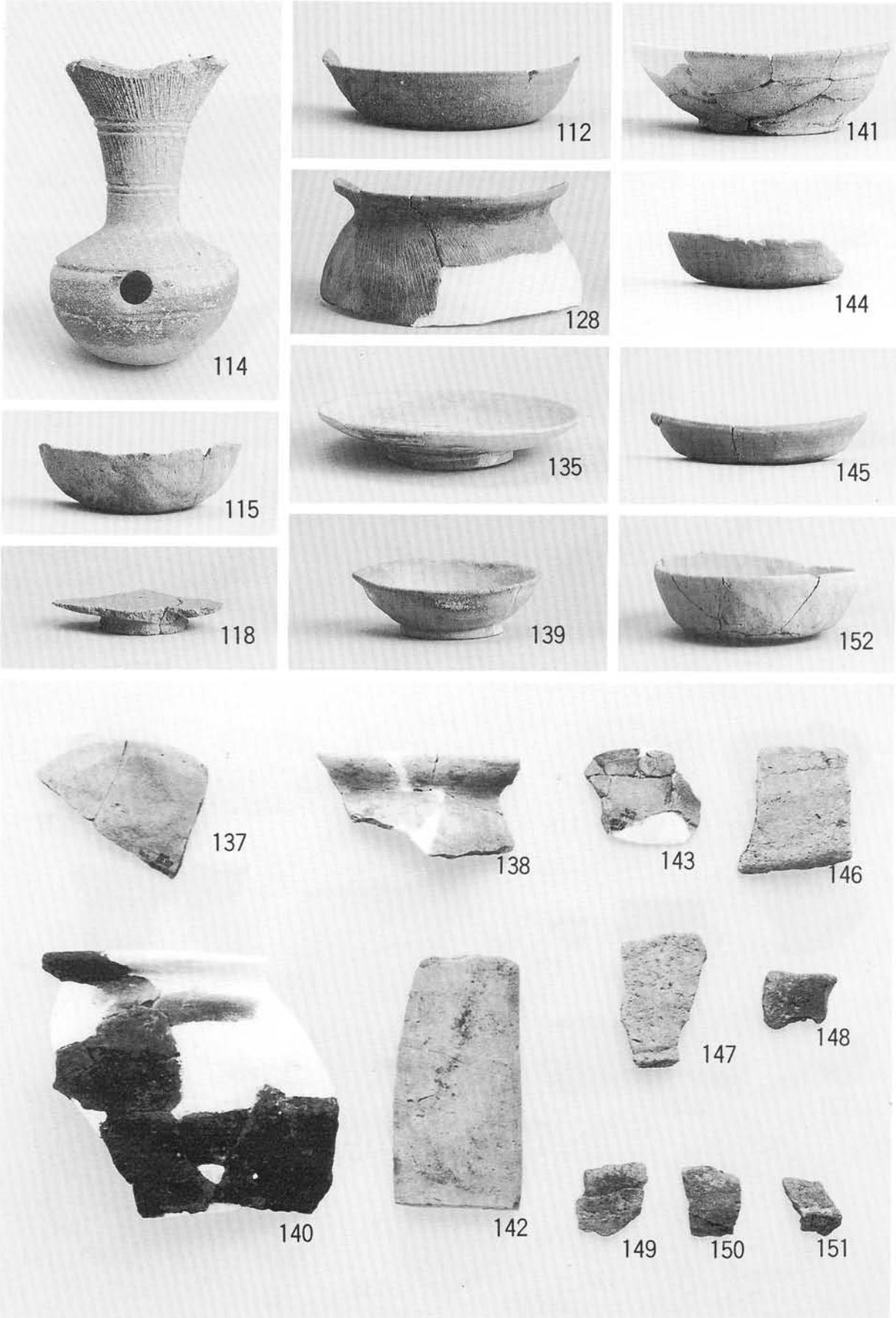
出土遺物 (1 : 3)



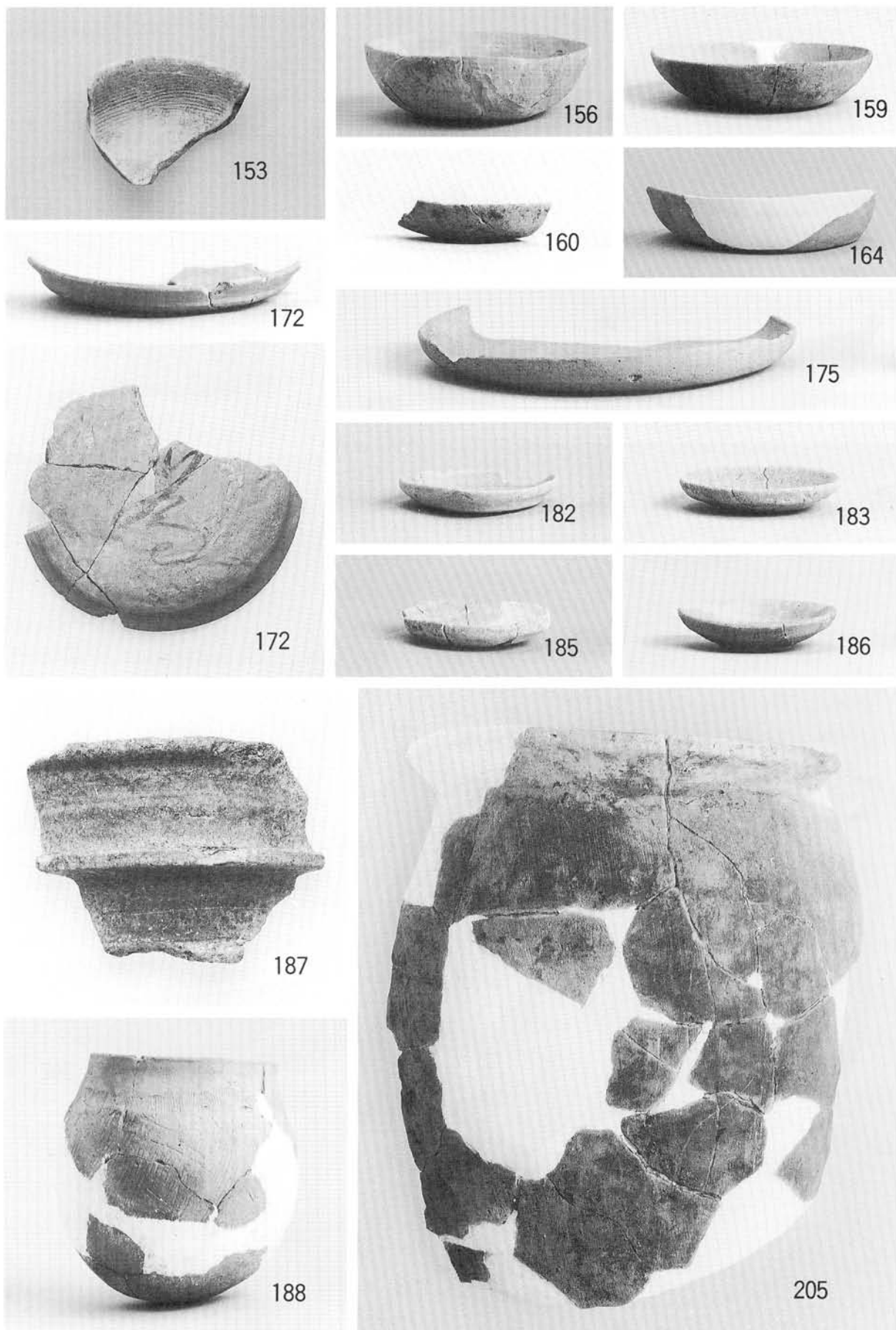
出土遺物 (1 : 3)



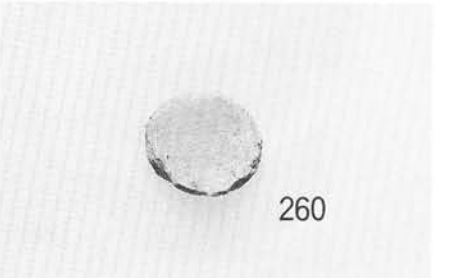
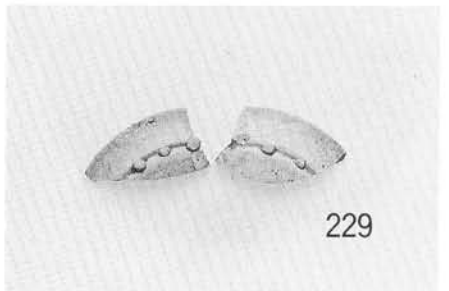
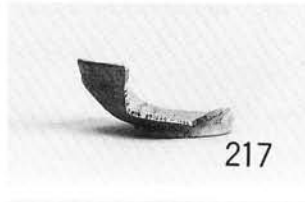
出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3)

Ⅱ. B地区

1. はじめに

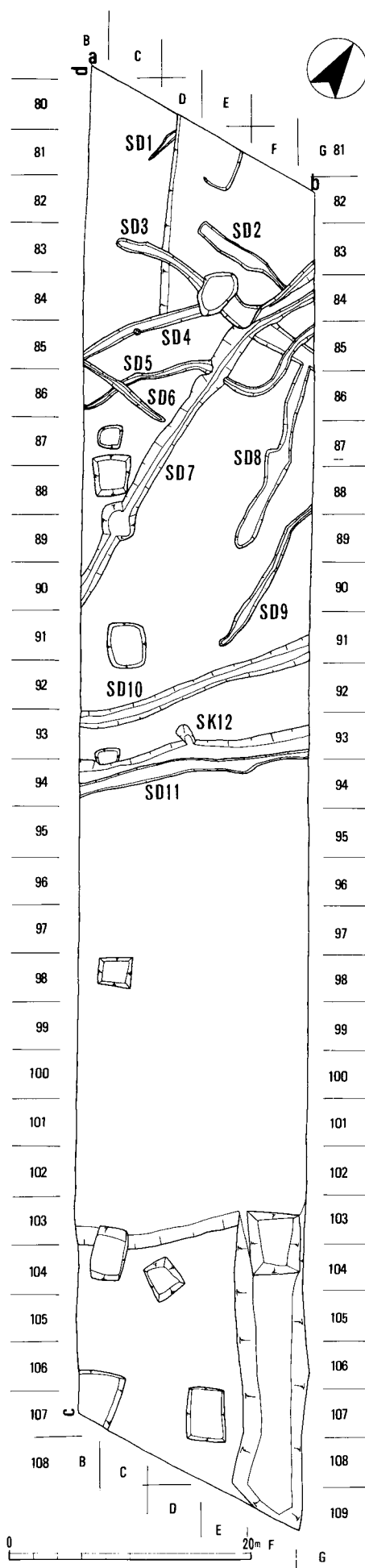
B地区は、農道をはさんでA地区の南に位置し、行政区画は嬉野町大字堀之内字糍田である。現況はA地区同様、圃場整備済みの水田で、標高は16.6m前後である。調査区の地区割りは、東西、南北両方向ともA地区の第2次調査区から引き続き番号を付与した。その結果、東西はB～G列、南北は79～109列までとなった。調査面積は2,200㎡、調査期間は昭和62年7月23日から同年10月1日までである。

2. 層序および遺構

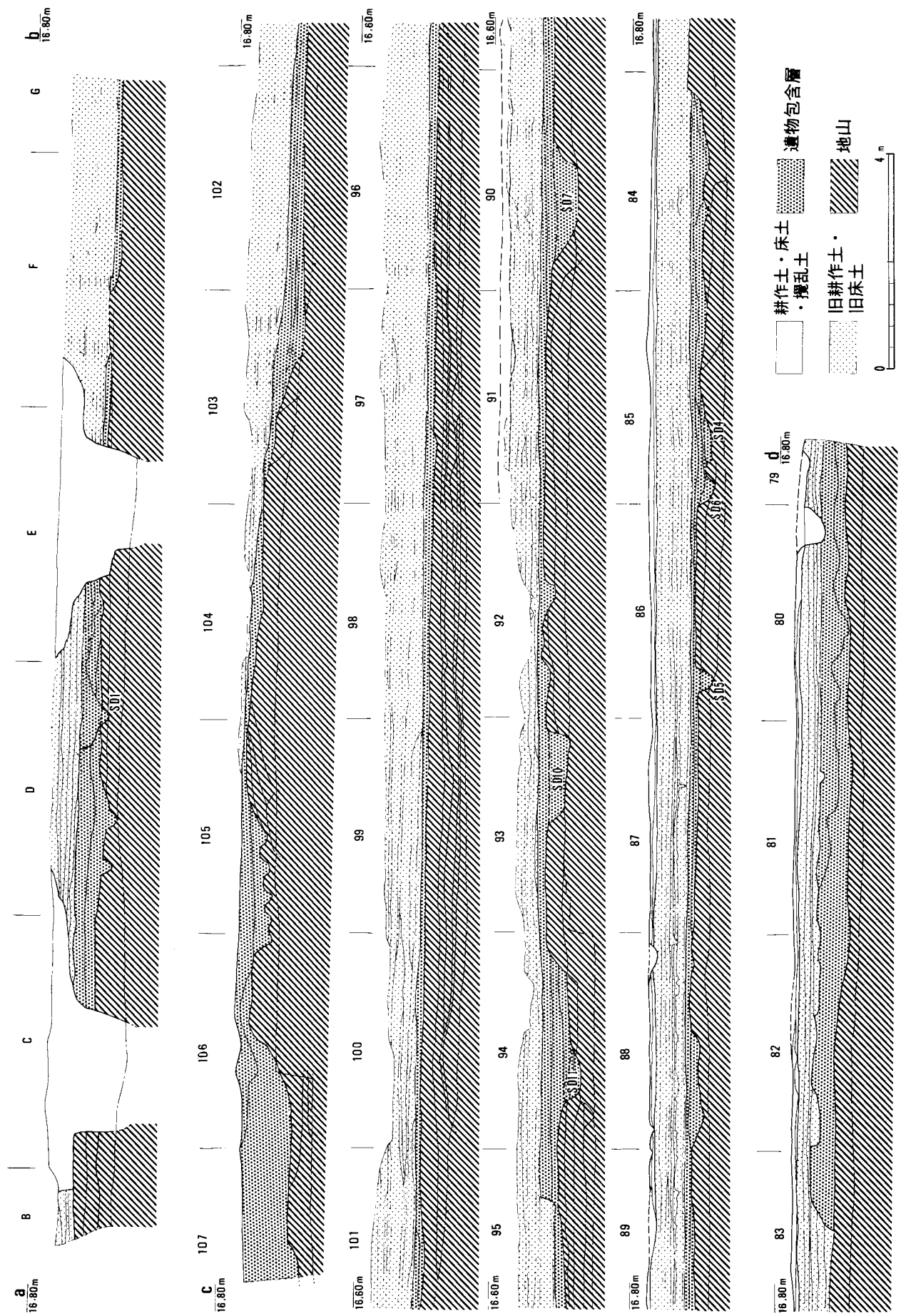
層序は耕作土・床土の下に旧耕作土と旧床土が多い所で4層（厚さ約70cm）あり、以下、褐色または灰オリーブ砂質土（遺物包含層）、褐色砂となっている。発掘区の層序および遺構の状況は北部、中央部、南部に大別できる。

北部は、A地区に隣接しており、発掘区の北端から南へ約50m、地区杭の94列付近までである。耕作土・床土の下は旧耕作土・旧床土が2～4層、約30～60cmあり、その下が褐色または灰オリーブ砂質土（遺物包含層）、褐色砂となっている。遺構検出は褐色砂の上面で行ったが、その高さは標高15.4～15.8mである。北端から地区杭83列付近までは30～60cm程の厚さで灰オリーブ色または褐色をした遺物包含層がみられるが、それ以南は遺物包含層上半が後世の開墾等によって削平を受けており、20cm程の厚さで灰オリーブ色をした遺物包含層が続くが、遺物量は少なくなる。検出された遺構は、溝10条（SD1～10）と土坑1基（SK12）だけで、A地区にみられるような住居跡は検出されなかった。

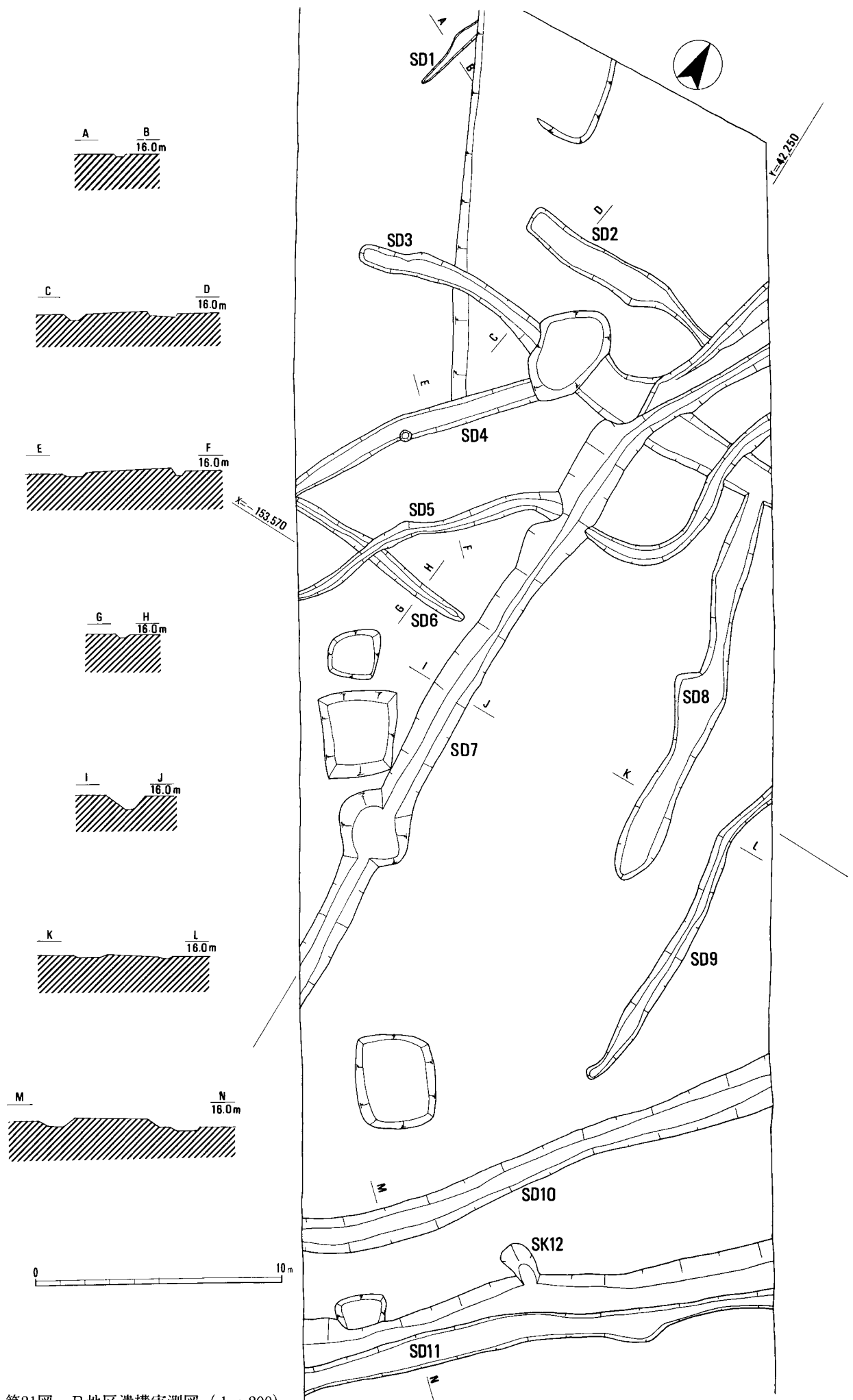
中央部は、地区杭の94列付近から104列付近までの南北約40mの間である。耕作土・床土の下は、旧耕作土・旧床土が2～4層、約40～70cmあり、その下が暗オリーブ色または灰オリーブ色をした砂質土



第19図 発掘区地区割および遺構配置図（1：500）



第20图 B地区北壁・西壁土层断面图 (1:100)



第21图 B地区遺構実測図 (1 : 200)

(遺物包含層)、褐色砂となっている。遺物包含層は厚さ20cm前後であるが、遺物量は少ない。遺構検出は褐色砂の上で行ったが、検出面は北部より低く標高約15.1～15.4mである。遺構は平安時代の溝が1条(SD11)検出されただけである。中央部全体が、幅約40mの東西に流れる大溝の可能性もある。

南部は地区杭の104列付近から南端までで、遺構検出面の高さは標高16.0～16.3mと再び高くなっているが、遺構は検出されなかった。随所で攪乱を受けており、遺構検出面は南に隣接するC地区北端のそれよりも約60～90cm低く、すでに削平を受けていたものと考えられる。

各遺構については次の通りである。

(1) 溝

北部で10条、中央部で1条、計11条検出された。各溝の長さ、幅、深さ、方向および出土遺物については、第7表の通りである。なお方向の測り方は、各々の溝の比較的直線になっているところで計測した。

(2) 土坑

SK12 北部と中央部の境で検出されたもので、平面形は長さ2.0m、幅1.0mの隅丸方形で、深さは30cmである。埋土から奈良時代の須恵器杯身・杯蓋の小片等が出土している。

3. 遺 物

出土遺物には、石鏃、縄文土器、土師器、製塩土器、須恵器、陶器(灰釉陶器、緑釉陶器、山茶碗、山皿)、円面硯、土錘、瓦などがある。時代は古墳時代から平安時代にかけての物がその大半を占める。個々の遺物については、第8表の通りである。特徴的な遺物のみ、以下に若干の説明を加えておきたい。

・須恵器碗(5) 底部は丸底で、体部は直立し、口縁は直線的にやや外に開く。体部と口縁部の境に1条の沈線が巡る。類例は静岡県西笠子第64号窯跡^①出土遺物にみられる。

・須恵器蓋(10) 天井部には幅1～2mm、長さ6.6cm以上の直線状のヘラ記号がみられる。

・須恵器鉢(11) 口縁部しか残存していないため全体の器形は不明であるが、器種は一応鉢とした。県内の類例としては、阿山郡阿山町大字馬場字小倉所在の小倉C遺跡^②で出土している。

・土師器小皿(29・30) 口径10～11cm程のいわゆる「て」の字状口縁の小皿である。

・土師器(39～40) 杯もしくは皿の底部片であるが、外面に墨書がみられる。(39・40)は判読不能、

遺構名	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	方向	出土遺物	時代
SD1	4.7以上	0.2～0.6	10～20	N14° E	須恵器平瓶(1)	古墳時代
SD2	8.6	0.4～1.5	10～20	N85° W	土師器・須恵器片	
SD3	19.0以上	0.8～0.2	10～30	N85° W	須恵器壺・杯・土師器片	古墳時代
SD4	10.5以上	0.7～1.0	10	N35° E	土師器片	
SD5	23.2以上	0.4～0.8	20～30	—	土錘(2)、土師器片	
SD6	8.5以上	0.5～0.7	10	N84° W	須恵器杯(3・4)・碗(5)	古墳時代
SD7	32.5以上	1.3～2.5	30～60	N 2° W	土師器碗(6)・甕(7～9)、須恵器杯蓋(10)・鉢(11)等	古墳～飛鳥
SD8	16.2	0.9～2.1	10	N11° W	土師器甕(12)	
SD9	13.6以上	0.5～1.0	10	N 2° W	なし	
SD10	20.0以上	1.2～2.0	30～40	N41° E	土師器・須恵器・製塩土器片	平安時代
SD11	19.3以上	0.6～1.3	10～20	N48° E	土師器碗(13)・杯(14)、平瓦(15)、須恵器杯・蓋、灰釉陶器壺等	平安時代
SK12	2.0	1.0	30	N99° W	土師器片、須恵器杯・蓋	奈良時代

第7表 遺構一覧表

(41) は「N」字状の記号と思われる。外面はいずれも未調整である。

・土師器鏝付き円筒状土器 (49) 鏝部付近の1/4程の破片である。鏝部は、胴部をハケメ調整した後、貼りつけている。同器種がA地区からも1点出土している。

・須恵器杯 (58) 試掘調査時に旧耕作土から出土した遺物であるが、外面底部に「馬」の墨書がみられる。

・緑釉陶器小椀 (76) 胎土は硬質で、内外面とも全面に濃緑色の釉を施しており、外面底部には「N」字状のヘラ記号がみられる。

・緑釉陶器皿 (77) 旧耕作土出土であるが、A地区遺物包含層出土の破片と接合している。胎土は硬質で、内外面とも淡緑色の施釉がみられる。

・硯 (95) 須恵質の円面硯であるが、小片であるため、径および透かしの数は推定である。

4. 小 結

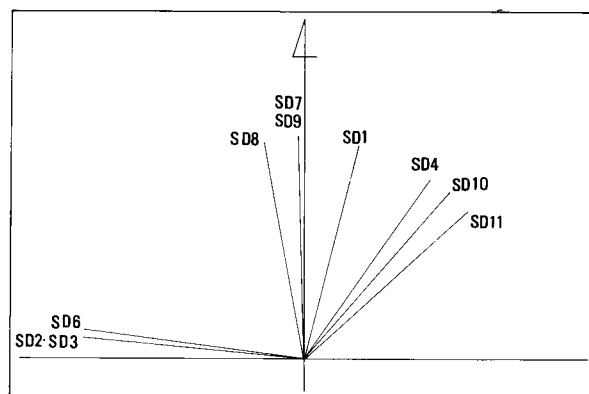
B地区では、A地区あるいはC地区にみられるような住居跡は検出されず、溝が11条と土坑が1基検出されただけであった。B地区は、A地区とC地区に挟まれた非居住区域であり、それはB地区中央部の低地という地形的な制約によるものと考えられる。

検出された溝はその方向により、2つのグループに大別できる。SD1・7～9 (N11° W～N14° E) およびそれにおおむね直交するSD2・3・6 (N84～85° W) のAグループと、SD4・5・10・11 (N35～48° E) のBグループである。

Aグループの溝のなかでは、ほぼ南北に走るSD7は幅1.3～2.5m、深さ30～60cmと他の溝に比べて大型である。SD1からは須恵器平瓶(1)が、SD3からは須恵器杯、SD6からは須恵器杯(3・4)・椀(5)などが出土しており、これらは古墳時代後期の遺物である。またSD7からは土師器椀(6)・甕(7～9)、須恵器杯蓋(10)・鉢(11)など古墳時代後期から飛鳥時代の遺物が出土している。したがって、Aグループは古墳時代後期から飛鳥時代の遺構と思われる。

Bグループの溝では、SD10からは製塩土器などが、SD11からは土師器杯(14)や灰釉陶器壺などが出土しており、これらの遺物からBグループの溝は平安時代前半の遺構と思われる。

(河北秀実)



第22図 検出された溝の方位

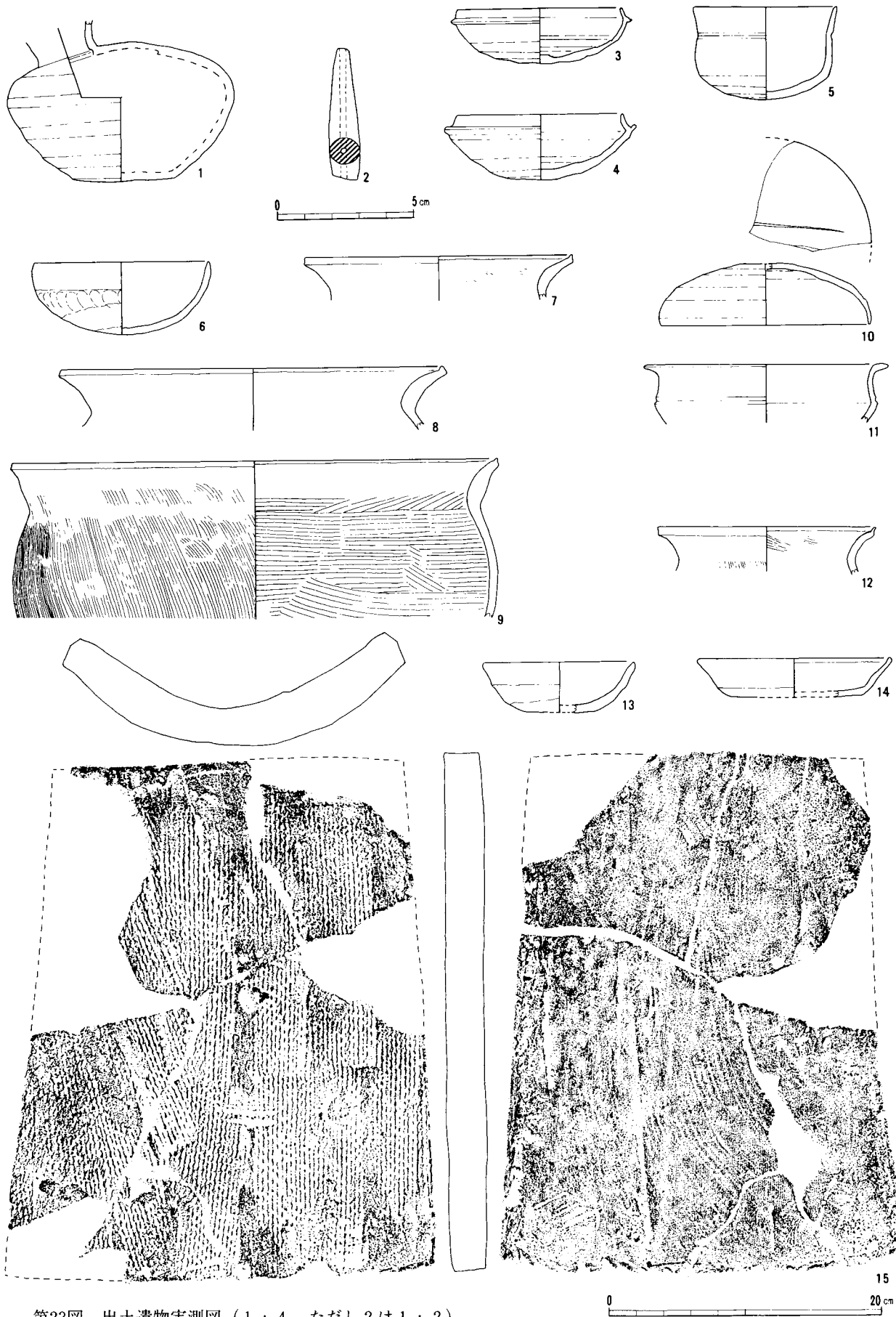
[註]

① 後藤建一ほか『西笠子第64号窯跡発掘調査報告書』湖西市教育委員会 1987

② 平成2年度 三重県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われた。

遺物 番号	登録番号	出土遺構位置	器 種 形	口 径 cm	器 高 cm	底 径 cm	遺存度	形態の特徴	技 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
1	11-2060	D81 SD 1	須恵器 平瓶	不明	不明	7.4	口縁 欠損		ロクロナデ、胴部下半ロ クロケズリ ロクロ回転時計廻り	砂粒含	良、焼 膨、粘	灰白N8/	
2	11-2059	D85 SD 5	土製品 土甕	全長 4.7	径 1.1	孔径 0.2	完形	細長い		良	良	浅黄橙10YR8/4	重量4.4g
3	11-2062	C86 SD 6	須恵器 杯身	12.0	4.0	-	ほぼ 完形	たちあがりは低 く内傾、受部は やや下向き	ロクロナデ、底部ヘラキリ 未調整、ロクロ回転時計廻 り	良	並	灰白2.5Y6/1	
4	11-2061	C86 SD 6	須恵器 杯身	12.2	4.8	-	3/4	たちあがりは低 く内傾	ロクロナデ、体部下半ロ クロケズリ、回転時計廻り	良	良	青灰5BG6/1	
5	11-2063	C86 SD 6	須恵器 碗	10.4	6.8	-	ほぼ 完形	体部に沈線1条 口縁やや開く	ロクロナデ、底部ロクロケ ズリ、ロクロ回転時計廻り	細砂含	並、自 然粘	灰白10Y8/1	
6	11-2052	C88 SD 7	土師器 碗	12.8	5.3	-	ほぼ 完形	底部丸底	粘土紐つなぎ痕、口縁部ヨ コナデ、ユビオサエ、底部 未調整	良	良	橙色7.5Y7/6	
7	11-2053	C88 SD 7	土師器 甕	(20)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、内面にハ メケが残る	砂粒含	良	浅黄2.5Y7/4	
8	11-2054	E86、D87 SD 7	土師器 甕	(28)	不明	-	口縁 1/8		口縁部ヨコナデ	砂粒含	並	淡黄5Y8/3	
9	11-2055	D87 SD 7	土師器 甕	(35)	不明	-	口縁 1/4	把手付きか？	口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハメケ	良	並	明黄褐2.5Y7/6	
10	11-2056	D87 SD 7	須恵器 杯蓋	(15)	4.5	-	1/4		ロクロナデ、天井部ロクロ ケズリ、ロクロ回転時計廻 り	砂粒含	硬	青灰5BG6/1	外面天井部に ヘラ記号「一」
11	11-2057	E86 SD 7	須恵器 鉢？	(18)	不明	-	口縁 1/8	沈線1条	ロクロナデ	良	並	灰白10Y7/1	
12	11-2058	F88 SD 8	土師器 甕	(16)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部内外 面ハメケ、粘土つなぎ痕	金雲母 砂粒含	良	淡黄2.5Y8/4	
13	11-2065	E94 SD11	土師器 碗	(11)	3.6	-	1/4	底部平底	粘土紐つなぎ痕、口縁部ヨ コナデ、外面ユビオサエ、 底部未調整	良	並	淡黄2.5Y8/4	
14	11-2064	D94 SD11	土師器 杯	(14)	2.8	-	口縁 1/8	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙2.5Y8/4	
15	11-2116	C94 SD11	瓦 平瓦	全長 38.0	広端幅 28.2	厚 2.7 ~3.2	ほぼ 完形		一枚造り、凸面縄叩き痕、 側・端面ケズリ、面取	石・砂 粒含	並	青灰5BG6/1	
16	11-2113	C104 旧耕作土	石器 石鏃	全長 不明	幅 2.2	厚 0.4	先端部 欠	凹基無基石鏃		(石材) サスカ イト			重量2.2g 残
17	11-2096	D105 包含層	縄文土器	不明	不明	不明	口縁 小片	突帯	ヨコナデ	砂粒含	良	灰黄2.5Y7/2	
18	11-2077	C81 包含層	土師器 碗	(15)	3.4	-	1/4	底部平底	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	砂粒含	並	浅黄橙10YR8/3	
19	11-2078	C81 包含層	土師器 碗	(15)	3.5	-	1/8	底部平底	粘土紐つなぎ痕、口縁部ヨ コナデ、ユビオサエ、底部 未調整	砂粒含	並	にぶい黄橙10YR7/2	
20	11-2080	C81 包含層	土師器 杯	(13)	2.8	-	3/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	黄橙7.5YR8/8	
21	11-2079	C81 包含層	土師器 杯	(13)	3.0	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	にぶい黄橙10YR7/3	
22	11-2069	C81 包含層	土師器 杯	(12)	不明	-	口縁 1/4	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
23	11-2071	C81 包含層	土師器 杯	(14)	3.1	-	1/8	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
24	11-2067	C94 包含層	土師器 杯	14.2	3.0	-	ほぼ 完形	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、ユビオサ エ、底部未調整	良	良	橙5YR7/8	
25	11-2070	C81 包含層	土師器 杯	(12)	2.9	-	1/4	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
26	11-2072	C81 包含層	土師器 杯	(12)	2.2	-	1/8	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、ユビオサ エ、底部未調整	粗	良	橙7.5YR7/6	
27	11-2068	B81 包含層	土師器 杯	12.6	2.8	-	ほぼ 完形	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、ユビオサ エ、底部未調整	良	並	淡黄2.5Y8/4	
28	11-2066	F94 包含層	土師器 杯	13.8	3.1	-	完形	口縁やや外反	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	良	良	橙5YR7/8	
29	11-2081	B81 包含層	土師器 小皿	10.2	1.9	-	ほぼ 完形	「て」の字状口縁	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	粗	良	浅黄橙7.5YR8/4	
30	11-2082	B81 包含層	土師器 小皿	(11)	1.9	-	1/4	「て」の字状口縁	口縁部ヨコナデ、底部未調 整	粗	良	黄橙7.5YR8/8	
31	11-2045	C81 包含層	土師器 皿	(20)	2.7	-	1/2		口縁部ヨコナデ、底部ヘラ ケズリ	砂粒含	良	橙5YR6/8	
32	11-2043	F95 包含層	土師器 皿	(20)	1.8	-	1/8		口縁部ヨコナデ、底部ヘラ ケズリ	良	良	黄橙7.5YR7/8	
33	11-2044	C81 包含層	土師器 皿	(20)	2.0	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調 整？	良	良	橙5YR7/8	

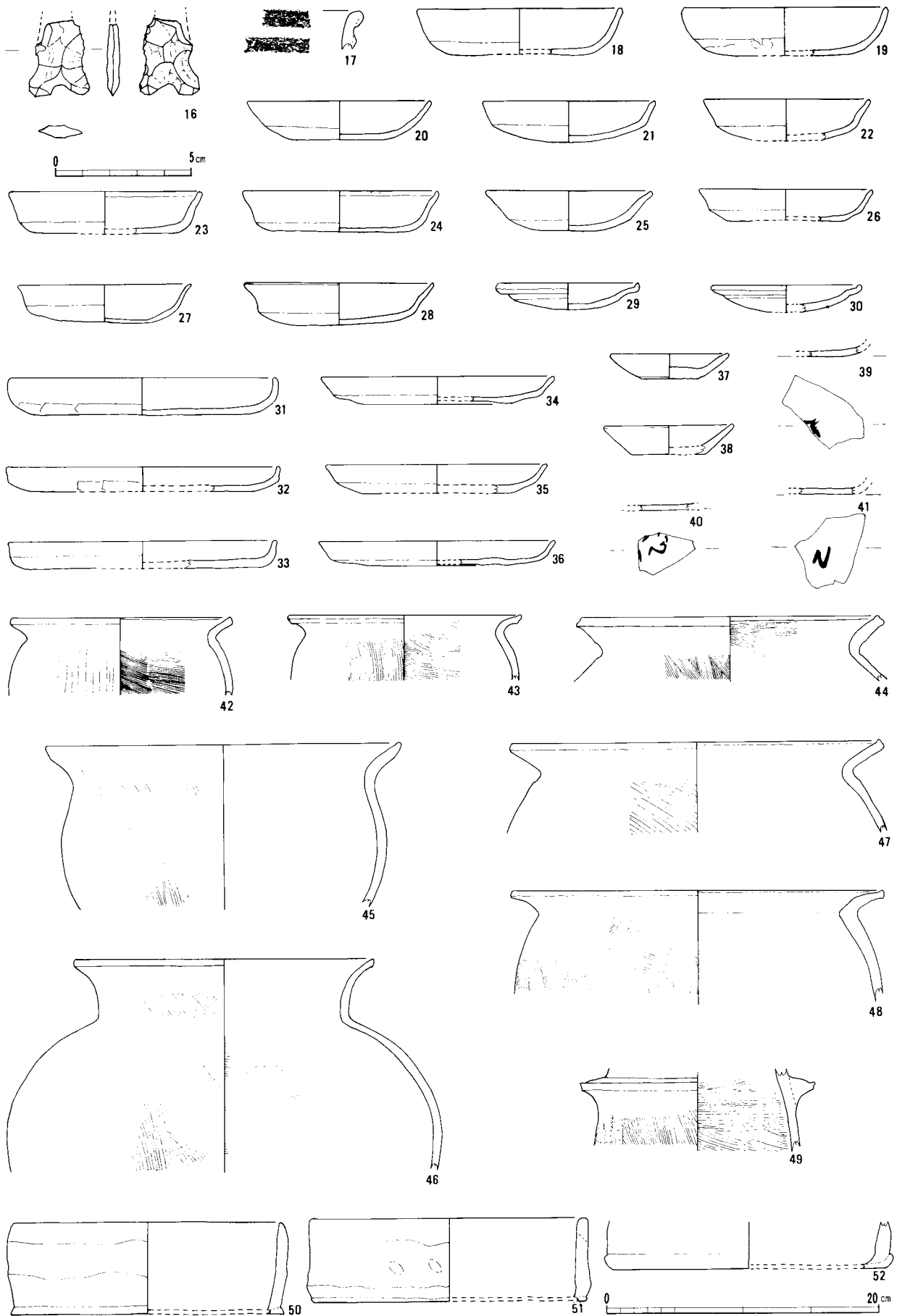
第8-1表 出土遺物観察表



第23図 出土遺物実測図 (1 : 4, ただし 2 は 1 : 2)

遺物 番号	登録番号	出土遺構位置	器 種 器 形	口 径 cm	器 高 cm	底 径 cm	遺存度	形態の特徴	技 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
34	11-2073	C81 包含層	土師器 皿	(17)	2.0	-	1/4		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	橙5YR7/8	
35	11-2074	C81 包含層	土師器 皿	(16)	2.1	-	1/6		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	橙5YR7/8	
36	11-2046	B81 包含層	土師器 皿	(17)	1.8	-	1/6		口縁部ヨコナデ、底部未調整	良	良	にぶい赤褐5YR5/4	
37	11-2075	C86 旧耕作土	土師器 小皿	(9)	1.8	4.2	1/4		体部ロクロナデ、底部糸切り痕	細砂粒含	並	浅黄橙10YR8/4	ロクロ製
38	11-2076	旧耕作土	土師器 小皿	(9)	2.1	(5.4)	1/6		体部ロクロナデ、底部糸切り痕	砂粒含	良	橙5YR7/6	ロクロ製
39	11-2085	C81 包含層	土師器 杯・皿?	不明	不明	-	小片		底部未調整	良	良	橙5YR7/8	底部外面に墨書
40	11-2083	C81 包含層	土師器 杯・皿?	不明	不明	-	小片		底部未調整	良	良	橙5YR7/8	底部外面に墨書
41	11-2084	C81 包含層	土師器 杯・皿?	不明	不明	-	小片		底部未調整	良	良	橙5YR7/8	底部外面に墨書「N」字状
42	11-2049	B81 包含層	土師器 甕	(16)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部内外面ともハケメ	粗	良	にぶい橙7.5YR7/3	
43	11-2048	B101 旧耕作土	土師器 甕	(17)	不明	-	口縁 1/6		口縁部ヨコナデ、胴部内外面ともハケメ	砂粒含	並	灰橙5YR6/2	
44	11-2050	C80 包含層	土師器 甕	(22)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部外面ハケメ、内面ナデ、口縁部内面にハケメが残る	砂粒含	並	淡黄2.5YR8/3	
45	11-2088	C81 包含層	土師器 甕	(26)	不明	-	上半 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部外面ハケメ、内面ナデ	砂粒含	良	浅黄橙2.5YR8/4	
46	11-2086	D.E105.E106 包含層	土師器 甕	(22)	不明	-	上半 1/6		口縁部ヨコナデ、胴部内外面ともハケメ	砂粒含	良	黄橙7.5YR8/8	
47	11-2051	C81 包含層	土師器 甕	(27)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部外面ハケメ、内面ナデ	砂粒含	並	にぶい橙5YR6/4	
48	11-2087	C81 包含層	土師器 甕	(27)	不明	-	口縁 1/4		口縁部ヨコナデ、胴部外面ハケメ、内面ナデ	砂粒含	良	橙5YR7/6	
49	11-2089	C81 包含層	鈔付円筒状土器	不明	不明	鈔径 17cm	鈔付近 1/4		体部内外面ハケメ、ハケメ調整後鈔を貼りつける。	良	良	淡橙5YR7/6	
50	11-2093	B.C81 包含層	製塩土器	不明	6.7	不明	小片	志摩式	内面ナデ、外面押さえによる凹凸あり	砂粒・小石含	並	橙5YR8/4	
51	11-2092	B81 包含層	製塩土器	不明	6.0	不明	小片	志摩式	内面ナデ、外面押さえによる凹凸、粘土つなぎ痕、剝殻痕	砂粒・小石含	並	橙5YR6/6	
52	11-2091	B81 包含層	製塩土器	不明	不明	不明	小片	志摩式	内面ナデ	砂粒・小石含	並	にぶい橙5YR7/4	
53	11-2004	F96 包含層	須恵器 杯	(10)	不明	-	口縁 1/6	たちあがりは低く内傾	体部ロクロナデ、底部ロクロズリ	良	硬	灰N5/	
54	11-2006	F82 包含層	須恵器 杯	(11)	不明	-	口縁 1/6	たちあがりは低く内傾	体部ロクロナデ、底部ロクロズリ	良	軟	淡灰10Y7/	
55	11-2003	F86 旧耕作土	須恵器 杯	(12)	2.2	(7)	1/4	体部は直線的に外傾	体部ロクロナデ、底部未調整	砂粒含	良	灰白N7/	
56	11-2008	B81 包含層	須恵器 杯	(11)	3.2	(7)	1/4	体部やや内弯気味	体部ロクロナデ、底部未調整	砂粒含	硬	青灰5B6/1	
57	11-2001	F96 旧耕作土	須恵器 杯	(12)	3.7	高台 (9.6)	1/6	高台は外開き 体部はやや外反	体部ロクロナデ、底部未調整	砂粒含	良	灰白N7/	
58	11-2098	試掘 G9	須恵器 杯	(12)	3.9	高台 (9.0)	1/6	高台は外開き 体部は直線的	体部ロクロナデ、底部未調整	砂粒含	良	明青灰5B7/1	底部外面に墨書「馬」
59	11-2025	C93 旧耕作土	須恵器 蓋	(14)	3.4	-	1/4		体部ロクロナデ、天井部未調整	良	良	灰白N7/	
60	11-2030	F102 旧耕作土	須恵器 蓋	(11)	3.2	-	1/6		体部ロクロナデ、天井部未調整・ロクロケズリ、ロクロ回転時計廻り	砂粒含	良	灰白N7/	
61	11-2028	B81 包含層	須恵器 蓋	(10)	不明	-	1/6	内面にかえり	ロクロナデ、天井部ロクロケズリ、ロクロ回転時計廻り	砂粒含	良	灰5Y6/1	
62	11-2029	B80 包含層	須恵器 蓋	(10)	不明	-	1/6	内面にかえり	ロクロナデ、天井部ロクロケズリ	砂粒含	良	灰白N7/	
63	11-2026	B.C101 旧耕作土	須恵器 蓋	(14)	3.1	-	1/6	つまみ	ロクロナデ、天井部ロクロケズリ、ロクロ回転時計廻り	砂粒含	良、焼 戻、釉	灰白N7/	
64	11-2031	B.C81 包含層	須恵器 蓋	(14)	不明	-	1/6	つまみ(剝離)	ロクロナデ、天井部ロクロケズリ	砂粒含	良	灰白N7/	
65	11-2033	D95 包含層	須恵器 甕	不明	不明	円孔 1.5	体部 1/6	頸部と胴部に各々沈線二本	ロクロナデ、刺突文	砂粒含	硬	暗青灰3/1	
66	11-2099	E106 包含層	須恵器 甕	(34)	不明	-	口縁 1/6	沈線	ロクロナデ、刺突文、波状文、カキ目	砂粒含	硬	灰白10Y7/1	

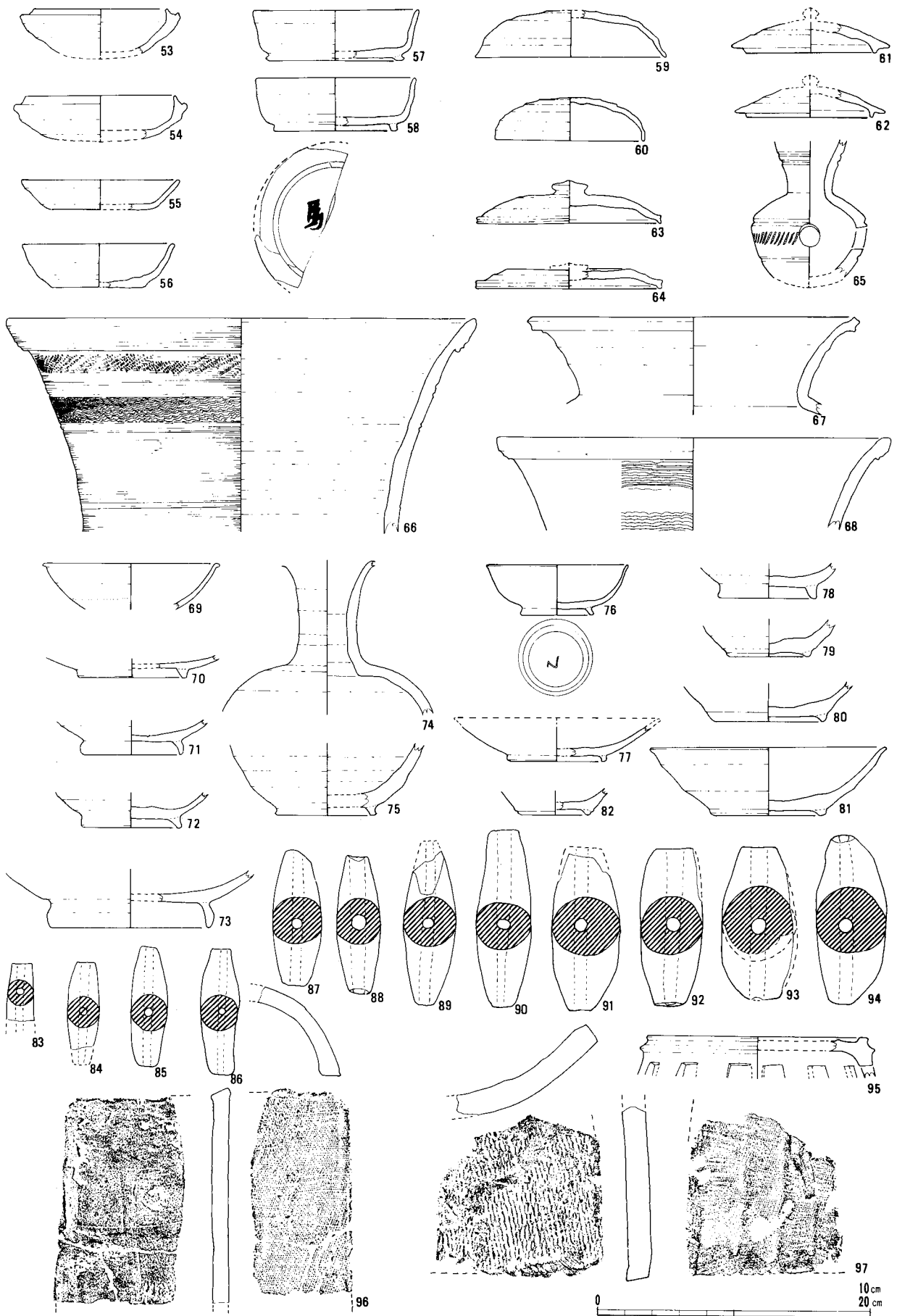
第8-2表 出土遺物観察表



第24図 出土遺物実測図（1：4，ただし16は1：2）

遺物 番号	登録番号	出土遺構位置	器 種 器 形	口 径 cm	器 高 cm	底 径 cm	遺存度	形態の特徴	技 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
67	11-2041	B81 包含層	須恵器 甕	(24)	不明	—	口縁 1/2		ロクロナデ	良	良	青灰10BG6/1	
68	11-2040	C80 包含層	須恵器 甕	不明	不明	—	口縁 小片		ロクロナデ、波状文	砂粒含	良	青灰5BG6/1	
69	11-2036	F96 旧耕作土	陶器 灰粘碗	(12)	不明	不明	口縁 1/2	口縁端部外反	ロクロナデ、内面と外面口 縁にハケによる施釉	良	硬	灰白5Y7/2	
70	11-2021	E94, C100, B101 旧耕作土	陶器 灰粘皿	不明	不明	高台 7.2	底部 1/2		外面ロクロケズリ、ロクロ 回転時計廻り	良	良	灰白2.5Y7/1	
71	11-2018	G84 旧耕作土	陶器 灰粘皿	不明	不明	高台 7.2	底部 1/2	底部内面に径3 cmの凹線、三日 月高台	体部ロクロナデ、底部ナデ	砂粒含	良	にぶい黄橙10YR7/2 高台のみ灰N5/	
72	11-2019	F92 旧耕作土	陶器 灰粘碗	不明	不明	高台 7.0	底部の み	高台外開き	ロクロナデ、底部糸切り後 ナデ消し	精良	良	灰白N8/	
73	11-2023	B83 包含層	陶器 灰粘鉢	不明	不明	高台 (12)	底部 1/2	三日月高台	外面ロクロケズリ、ロクロ 回転時計廻り	精良	良	灰白7.5Y8/1	
74	11-2042a	B81 包含層	陶器 灰粘壺	不明	不明	不明	頸部	長頸壺	ロクロナデ	良	硬、自 然釉	灰白10Y7/1	75と同一個体 の可能性あり
75	11-2042b	B81 包含層	陶器 灰粘壺	不明	不明	高台 (7)	底部 1/2		内面ロクロナデ、外面ロク ロケズリ	良	硬、自 然釉	灰白10Y7/1	74と同一個体 の可能性あり
76	11-2094	C81 包含層	陶器 緑釉小碗	10.3	3.7	高台 4.8	ほぼ完 形	高台外傾 口縁やや外反	三叉トチ痕、内外面とも全 面に濃緑色の施釉	硬質 精良	硬	灰白N8/	底部外面にヘ ラ記号「N」 字状
77	11-2095	F82, C86旧耕作 土、A地区B4包	陶器 緑釉皿	不明	不明	高台 (7)	底部1/2	角高台	三叉トチ痕、内外面とも全 面に淡緑色の施釉	硬質	良	灰白N8/	
78	11-2012	B98 旧耕作土	陶器 山茶碗	不明	不明	高台 (7)	底部 1/2	高台外傾	ロクロナデ、底部糸切り後 ナデ	良	良	灰白N8/	
79	11-2014	B82 包含層	陶器 山茶碗	不明	不明	高台 (6)	底部 1/2	高台逆三角形	ロクロナデ、底部糸切り後 ナデ、みこみ調整、靱殻痕	砂粒含	良	灰白N8/	
80	11-2015	B102 包含層	陶器 山茶碗	不明	不明	高台 8.0	底部 1/2	高台逆三角形	ロクロナデ、底部糸切り後 ナデ	砂粒含	良	灰白N7/	
81	11-2100	B83 旧耕作土	陶器 山茶碗	(17)	5.0	高台 7.6	1/2	高台逆台形	ロクロナデ、底部糸切り後 ナデ、靱殻痕	砂粒含	良、自 然釉	灰白N8/	
82	11-2011	表土	陶器 山皿	不明	不明	高台 (5)	底部1/2	高台逆三角形	ロクロナデ、底部糸切り後 ナデ、靱殻痕	砂粒含	良	灰白N8/	
83	11-2112	C86 旧耕作土	土製品 土鏝	全長 2残	径 不明	孔径 0.3	1/2	細長い		良	良	浅黄2.5Y7/3	重量1.9g残
84	11-2111	C82 包含層	土製品 土鏝	全長 3残	径 1.2	孔径 0.3	端部欠	細長い		良	良	淡黄2.5Y8/3	重量4.1g残
85	11-2110	C80 包含層	土製品 土鏝	全長 4.3	径 1.3	孔径 0.3	完形	細長い		良	良	橙5YR7/8	重量6.1g
86	11-2109	表土	土製品 土鏝	全長 4.5	径 1.2	孔径 0.3	ほぼ完 形	細長い		良	良	褐灰7.5YR4/1	重量7.0g残
87	11-2108	包含層	土製品 土鏝	全長 4.9	径 1.7	孔径 0.4	完形	細長い		良	良	黄橙7.5YR8/8	重量12.6g
88	11-2107	D102 旧耕作土	土製品 土鏝	全長 5.1	径 1.7	孔径 0.6	ほぼ完 形	細長い		良	並	灰白色2.5Y8/2	重量13.3g残
89	11-2106	E100 旧耕作土	土製品 土鏝	全長 6残	径 2.0	孔径 0.4	端部欠	細長い		良	良	橙色7.5YR6/8	重量13.8g残
90	11-2105	B83 包含層	土製品 土鏝	全長 6.5	径 2.0	孔径 0.5	完形	細長い		良	良	淡黄色2.5Y8/3	重量20.0g
91	11-2104	B83 包含層	土製品 土鏝	全長 6残	径 2.5	孔径 0.4	端部欠	細長い		良	並	浅黄橙10YR8/4	重量25.1g残
92	11-2103	D100 旧耕作土	土製品 土鏝	全長 5.7	径 2.2	孔径 0.6	ほぼ完 形	細長い		良	並	褐灰5YR4/1	重量23.8g残
93	11-2102	D101 旧耕作土	土製品 土鏝	全長 5.5	径 2.7	孔径 0.5	1/2	細長い		良	良	黄橙7.5YR8/8	重量31.2g残
94	11-2101	F89 旧耕作土	土製品 土鏝	全長 6.2	径 2.5	孔径 0.5	完形	細長い		良	並	明褐灰7.5YR7/2	重量32.1g
95	11-2097	C83 旧耕作土	硯 円面硯	不明	不明	不明	小片			須恵質 良	並	明青灰5BG7/1	
96	11-2115	B81 包含層	瓦 丸瓦	全長 不明	幅 不明	厚さ 1.2	小片		凸面叩き後ナデ、側面ケ ズリ、狭端面未調整	砂粒含	並	灰白7.5Y7/1	
97	11-2114	包含層	瓦 平瓦	全長 不明	幅 不明	厚さ 1.7	小片		凸面叩き、側面ケズリ、広端 面ケズリ、凹面側面取	石含	良	灰白N7/	

第8-3表 出土遺物観察表



第25図 出土遺物実測図（1：4，ただし83～94は1：2）

PL1



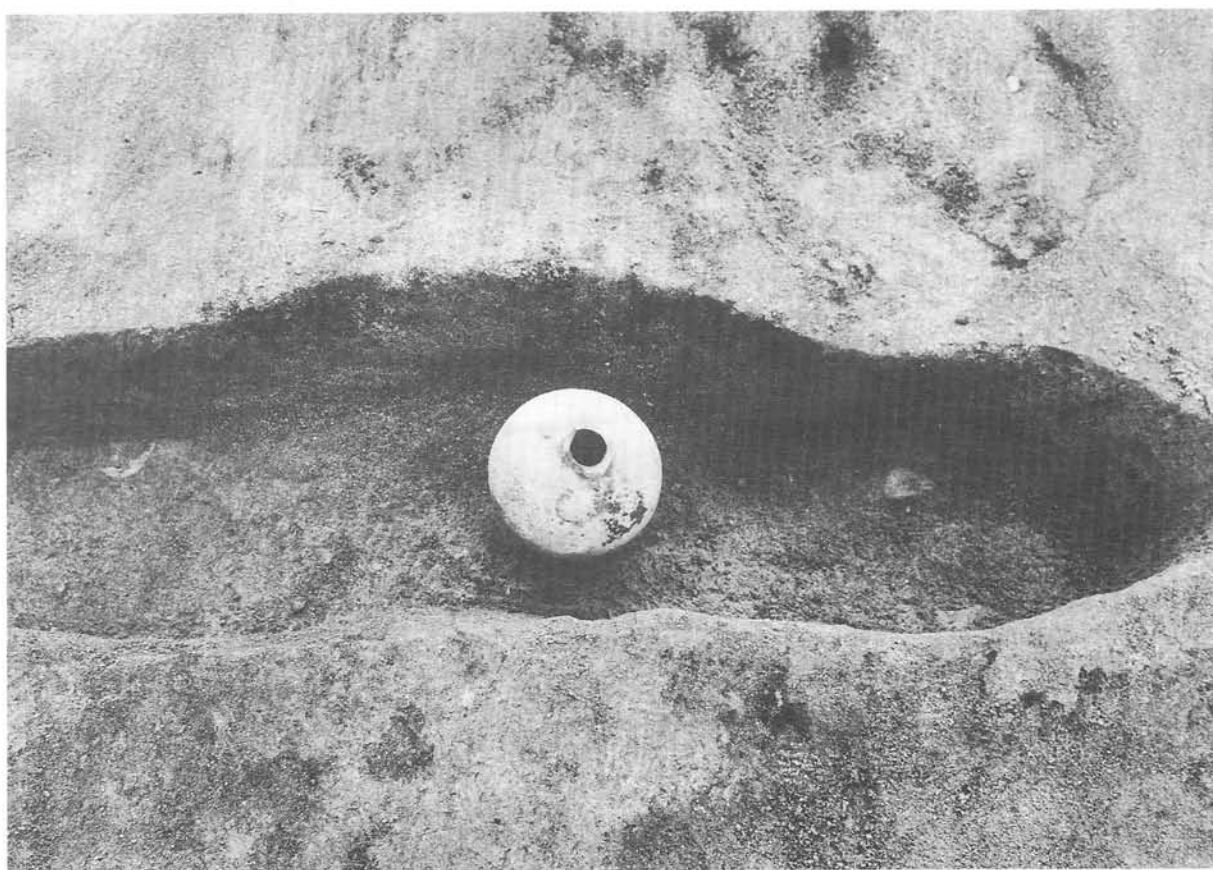
調査前風景（南から）



発掘区全景（北から）



発掘区北半部（南から）

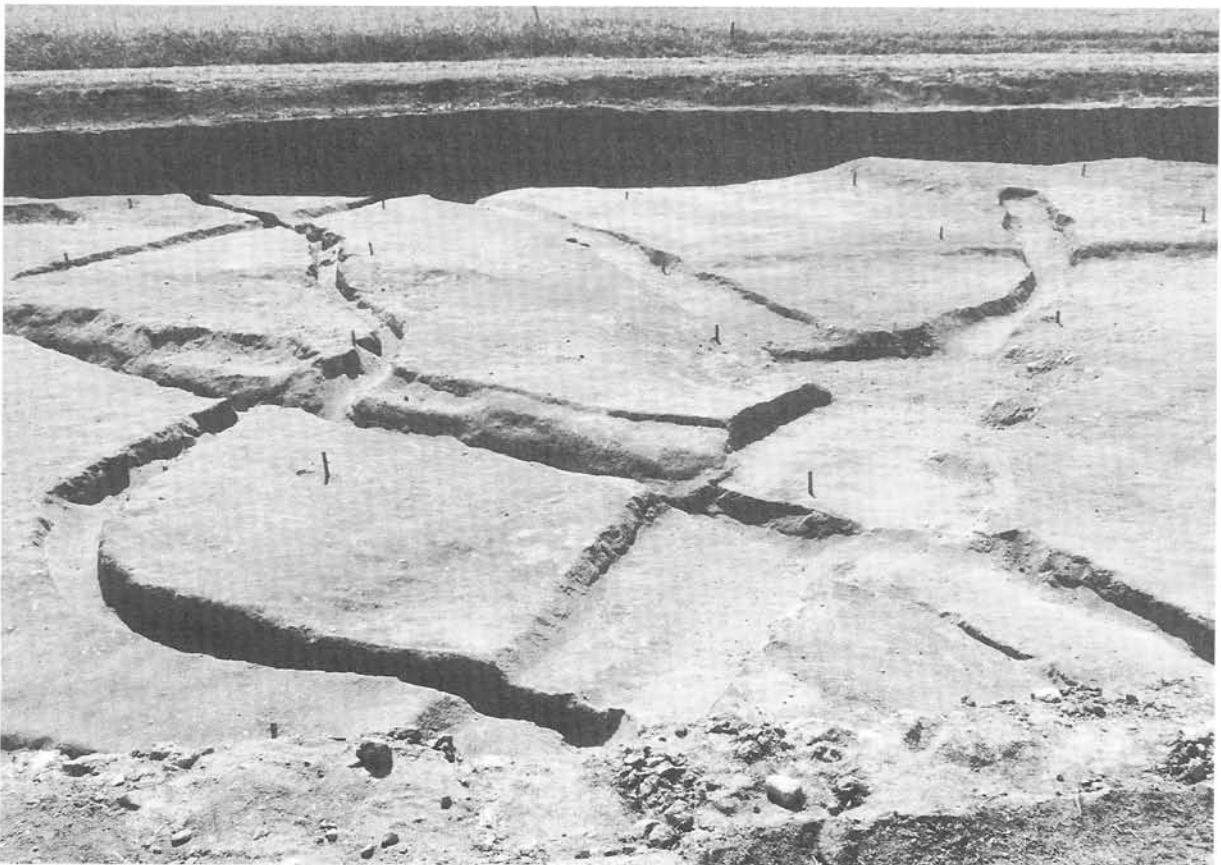


SD 1 遺物出土状況（西から）

PL 3



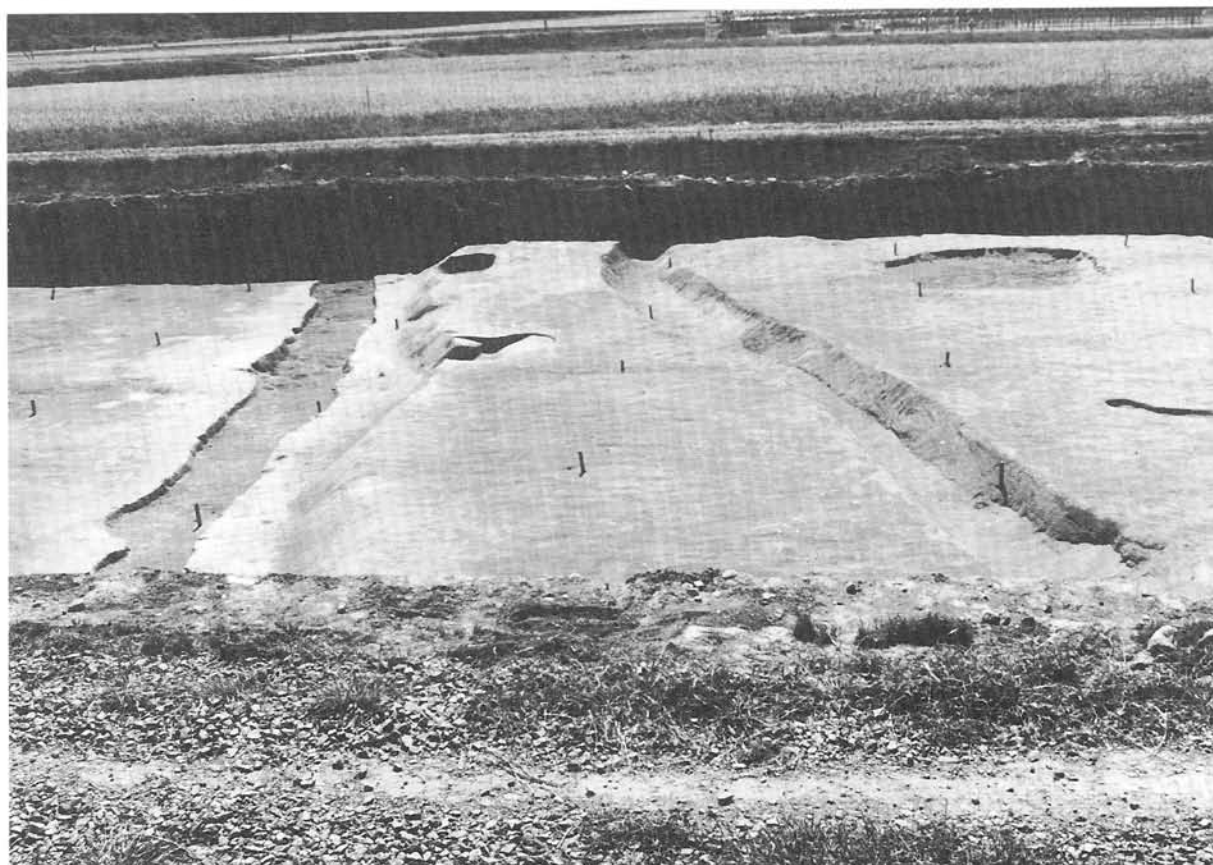
SD 4・3・2 (東から)



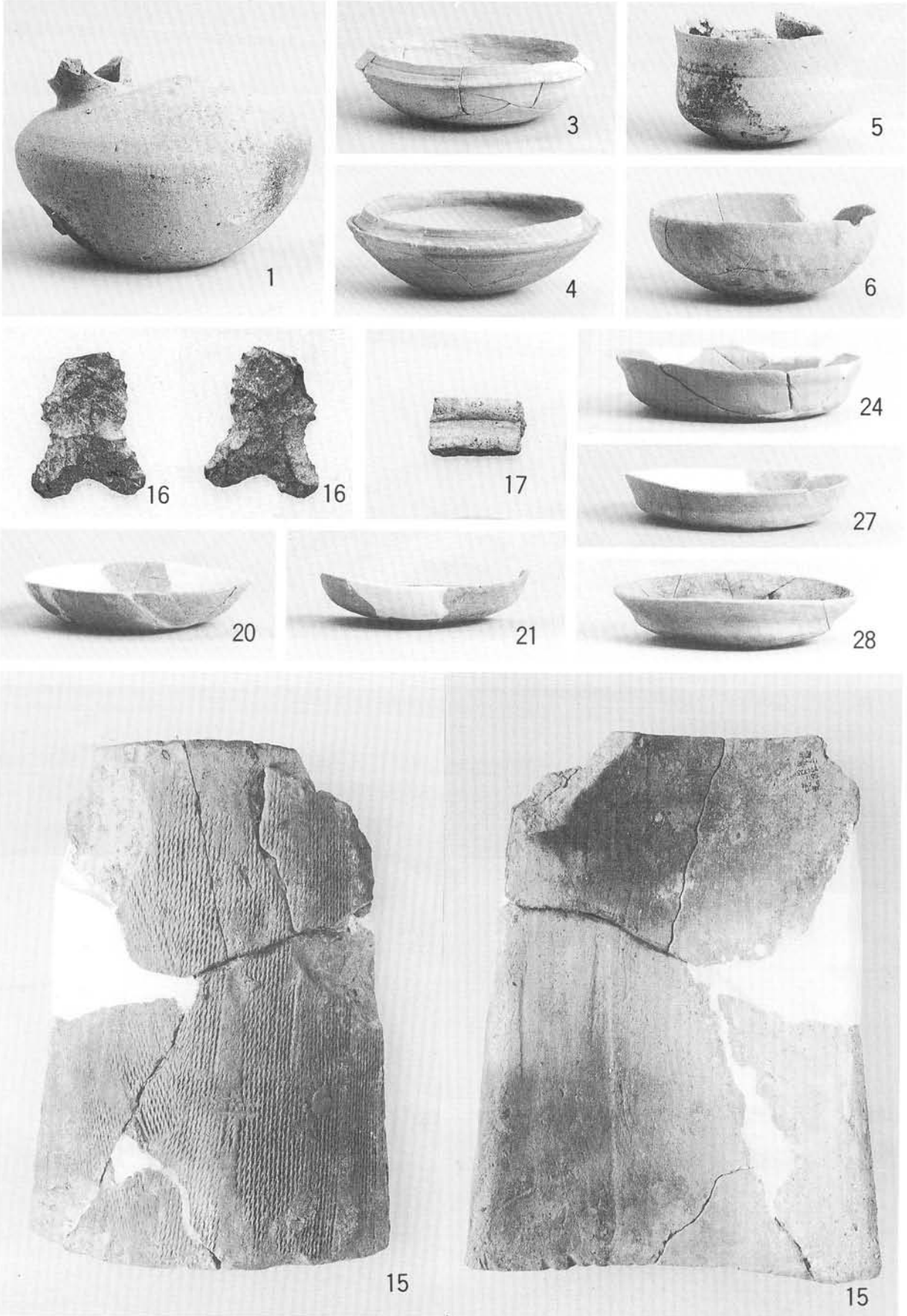
SD 5・7・4・3 (東から)



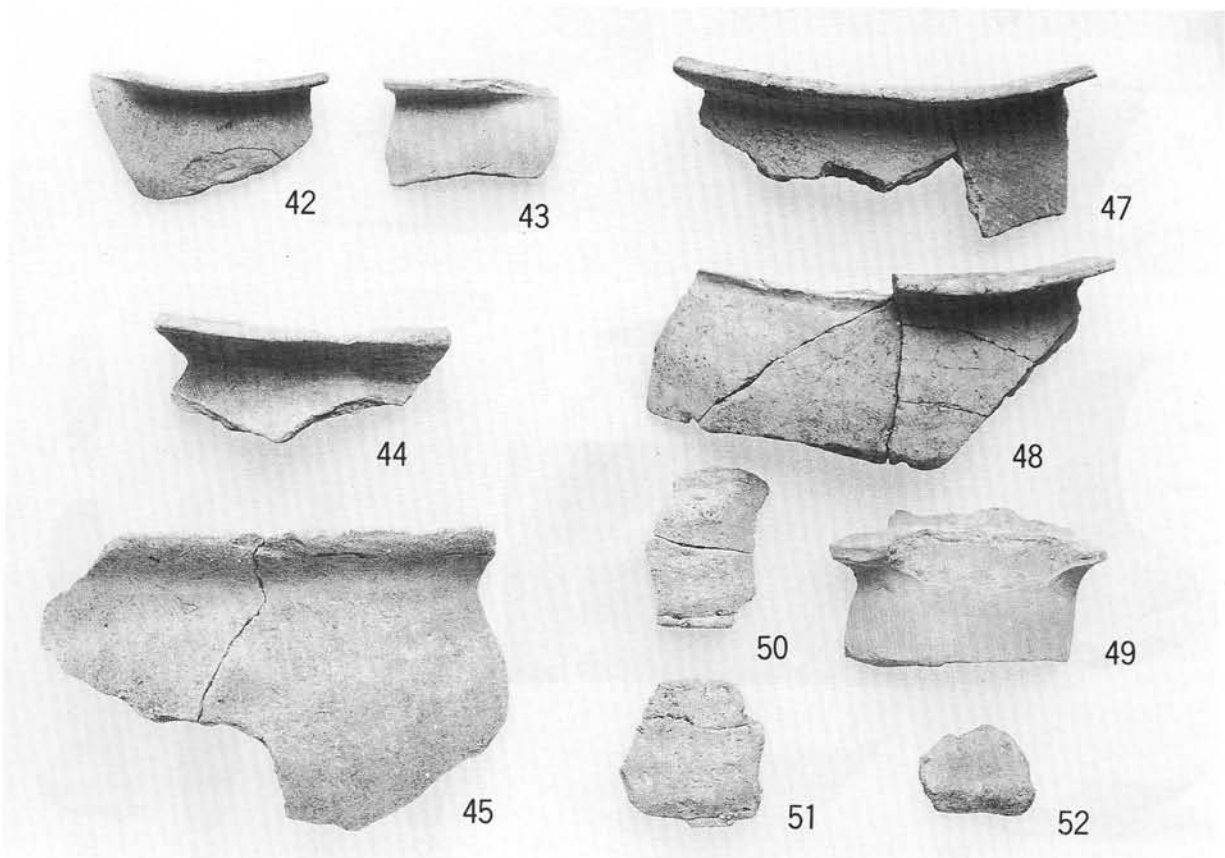
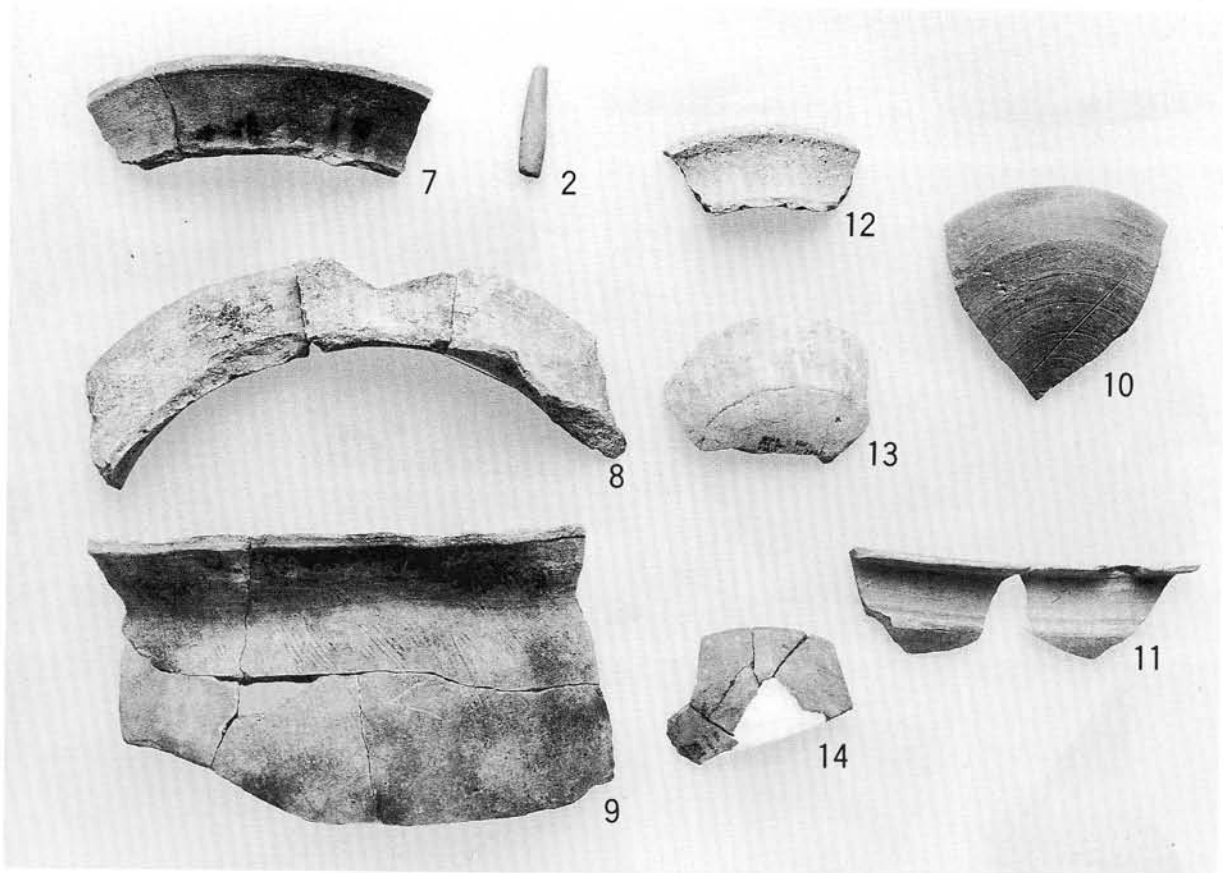
SD8・5・7・3 (北から)



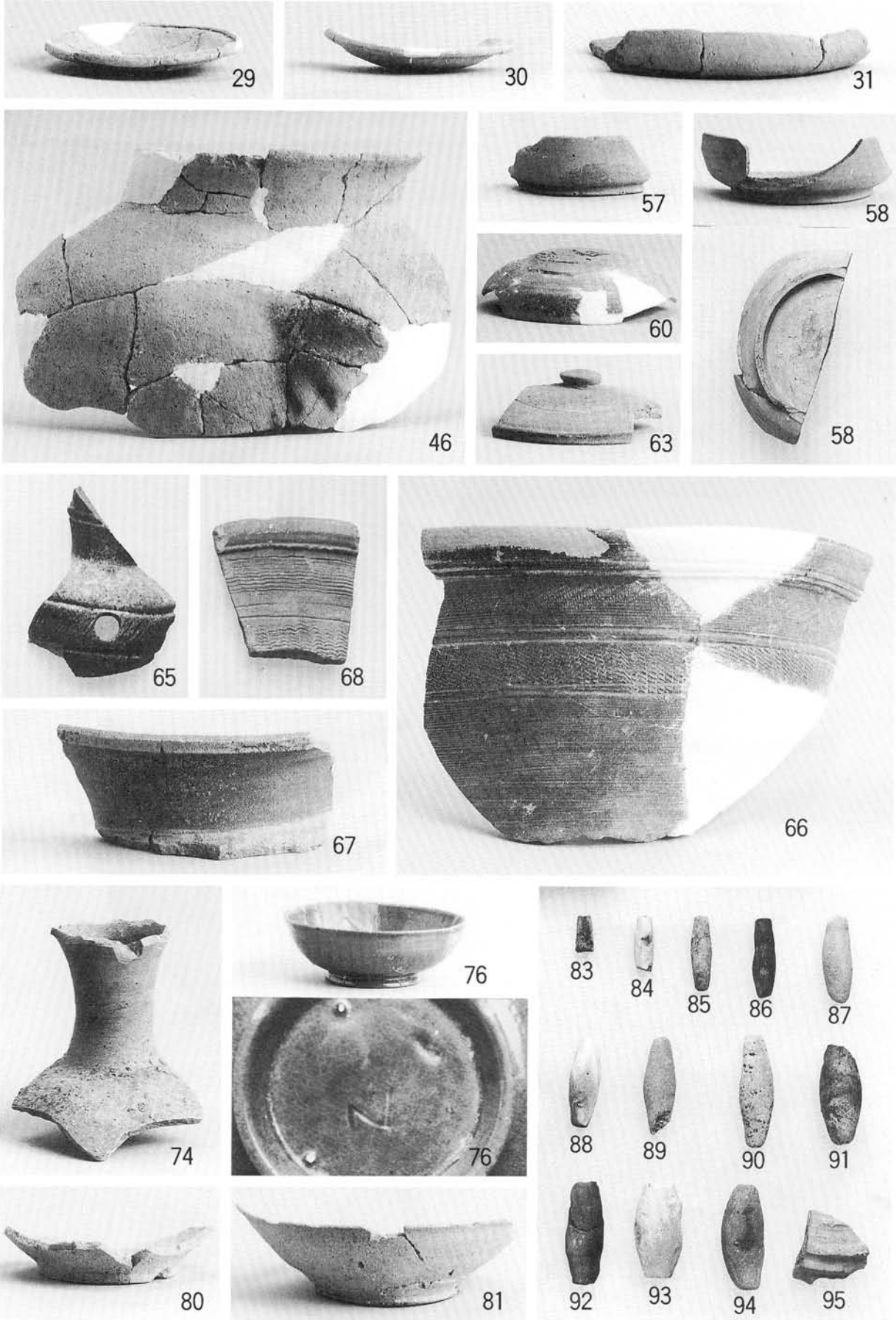
SD11・10 (東から)



出土遺物 (1 : 3, 16は1 : 1, 15は1 : 4)



出土遺物 (1 : 3)



出土遺物 (1 : 3, 76の下は1 : 1)

平成3(1991)年に刊行されたものをもとに
平成18(2006)年にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告87-8

近畿自動車道（久居～勢和）
埋蔵文化財発掘調査報告
— 第3分冊2 —

1991(平成3)年3月

編集 三重県教育委員会
発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 光出版印刷株式会社
